

Hitachi Business Continuity Manager

インストールガイド

4010-1J-007-20

対象製品

Hitachi Business Continuity Manager Basic 9.5.0

Hitachi Business Continuity Manager UR 4x4 Extended CTG 9.5.0

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

HITACHI は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

FlashCopy は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

HyperSwap は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

MVS は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

RACF は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

System z は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Tivoli は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

UNIX は、The Open Group の商標です。

WebSphere は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

z/OS は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

z/VM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

発行

2020 年 10 月 4010-1J-007-20

著作権

All Rights Reserved. Copyright © 2014, 2020, Hitachi, Ltd.

目次

はじめに.....	13
対象読者.....	14
マニュアルの構成.....	14
読書手順.....	15
このマニュアルで使用する記号.....	15
 1. 概要.....	17
1.1 提供しているライセンス.....	18
1.2 前提条件.....	18
1.2.1 前提 OS.....	18
1.2.2 前提プログラム.....	19
1.2.3 前提機器.....	20
1.2.4 IBM System z で Linux ボリュームを使用するための前提条件.....	20
 2. インストール.....	21
2.1 インストールの流れ.....	22
2.2 インストールの準備.....	22
2.2.1 提供媒体の種類.....	22
2.2.2 提供されるデータセット.....	22
2.2.3 DASD ストレージ属性の計画.....	24
(1) 配布ライブラリ (DLIB)	24
(2) ターゲットライブラリ	24
2.2.4 ストレージ設計.....	25
(1) BCM ログのディスク所要量.....	25
(2) メモリ所要量.....	26
2.3 インストールの手順.....	27
2.3.1 CD-ROM から BC Manager のロードモジュールをホストマシンに転送する.....	28
2.3.2 SMP/E を使用したインストール.....	28
2.3.3 簡易インストール(SMP/E を使用しないインストール).....	30
2.4 環境設定の手順.....	30
2.4.1 CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定.....	31
2.4.2 LINKLIB ロードライブラリを動的に LNKLST へ連結する例.....	32
2.4.3 BC Manager で ISPF 画面を利用するための設定.....	32
(1) YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリの静的連結.....	33
(2) YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリの動的連結.....	33
2.4.4 ISPF 画面の設定.....	34
(1) コマンドラインの位置の設定.....	34
(2) PF キーの表示数の設定.....	34

2.4.5 YKWATCH コマンド、およびPPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能を使用するための設定	34
2.4.6 環境設定コマンドを利用するための設定	35
2.4.7 セキュリティの設定	35
(1) 環境設定コマンドに対するセキュリティの設定	35
(2) 基本のアクセス制御機能の設定	35
(3) 拡張アクセス制御機能をインストールした場合のセキュリティの設定	37
(4) RACF のプロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順	38
(5) System REXX 環境を起動する場合のセキュリティの設定	39
(6) データセットセキュリティの設定	39
2.4.8 ユーザ SVC の登録	39
(1) IEASVCxx parmlib メンバでの登録	39
(2) YKALCSVVC コマンドでの登録	40
2.4.9 BC Manager 環境変数の設定	41
(1) ホスト ID の指定方法	42
(2) システム・ロガー・サービスの使用有無の指定方法	42
(3) CLI コマンド実行ログの出力有無の指定方法	43
(4) YKSETENV コマンドの形式	44
(5) YKDSPENV コマンドの形式	46
2.4.10 ライセンスの登録	46
(1) ライセンスキーファイルを使用して登録する	47
(2) キーコードを直接入力して登録する	48
(3) ライセンスキーオペレーター操作するときの注意事項	48
(4) ライセンス情報データセットの形式	49
(5) ライセンス情報データセットの名称	49
2.4.11 インストールおよび環境設定後の検証手順	51
(1) インストールおよび環境設定が完了しているかどうかの確認方法	51
(2) 拡張アクセス制御機能をインストールしている場合のアクセス権限の確認方法	51
2.5 バージョンアップの手順	51
2.5.1 バージョンアップの流れ	52
2.5.2 環境の設定値の確認	52
2.5.3 バックアップの取得	52
2.5.4 カタログドドライブラリのメンバを削除する	53
2.5.5 ロードライブラリの連結解除	53
2.5.6 BC Manager のバージョンアップ	53
2.5.7 バージョンアップ後の確認	53
2.6 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの手順	53
2.6.1 z/OSMF ワークフローによるインストールの概要	53
2.6.2 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの流れ	55
2.6.3 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの準備	55
2.6.4 z/OSMF テンプレートの概要	56
(1) SMP/E を使用したインストールを実行するテンプレート	56
(2) 拡張アクセス制御機能のインストールを実行するテンプレート	57
(3) 簡易インストール(SMP/E を使用しないインストール)を実行するテンプレート	57
(4) 環境設定を実行するテンプレート	57
2.6.5 z/OSMF ワークフロー変数ファイルの作成	59
(1) YKWFSMPE, YKWFSP1、およびYKWFSP2 テンプレート変数	59
(2) YKWFSPN テンプレート変数	60
(3) YKWFSPD テンプレート変数	61
(4) YKWFSPS テンプレート変数	63
2.6.6 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの実行	66
2.7 YKBTS SCAN を REXX スクリプトから実行する場合の注意事項	66
2.8 BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョン	66

3. Replication Manager と連携する場合の環境設定	69
3.1 環境設定の流れ	70
3.1.1 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用しない場合	70
3.1.2 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用する場合	71
3.1.3 BC Manager のインストール後で、既存環境がある場合	73
3.1.4 コピーグループの監視だけをする場合	75
3.1.5 PPRC コピーペアを監視する場合	75
3.2 Configuration ファイル用データセットの作成	76
3.2.1 Configuration ファイルのデータセット名称	76
3.2.2 Configuration ファイルのデータセット形式とディスク所要量	77
3.3 TCP/IP のポート番号の設定	77
3.4 セキュリティの設定 (BC Manager エージェント)	78
3.4.1 データセットセキュリティの設定	78
3.4.2 リソース・アクセス管理機能 (RACF) の環境設定	78
3.5 IBM HTTP Server の設定	79
3.5.1 IPv6 接続するための設定	79
3.5.2 HTTPS 通信するための設定	80
3.5.3 トレースログの採取	84
3.6 初期設定パラメタの作成	84
3.6.1 SETINIT コマンドの使用方法	84
(1) 行の継続方法	85
(2) コメントの書き方	86
(3) 初期設定パラメタ作成時の注意事項	86
3.6.2 初期設定パラメタの詳細	86
(1) 形式	86
(2) パラメタ	86
(3) パラメタの複数指定	90
3.6.3 初期設定パラメタの指定例	90
(1) BC Manager エージェントがローカルサイトだけにある場合	91
(2) BC Manager エージェントがローカルサイトとリモートサイトにある場合	92
3.6.4 初期設定パラメタの解析結果例	94
3.7 起動用カタログドロシージャの作成 (BC Manager エージェント)	95
3.7.1 標準の起動用カタログドロシージャ	95
(1) 標準の起動用カタログドロシージャの展開形	95
(2) 説明	95
(3) 注意事項	96
3.7.2 起動用カタログドロシージャの変更	96
4. BCM Monitor を使用する場合の環境設定	97
4.1 環境設定の手順 (BCM Monitor)	98
4.2 セキュリティの設定 (BCM Monitor)	98
4.3 Configuration ファイルの作成 (BCM Monitor)	99
4.4 BCM Monitor パラメタファイルの作成	99
4.5 起動用カタログドロシージャの作成 (BCM Monitor)	99
付録 A サンプル JCL の修正例	103
A.1 サンプル JCL の修正例で使用している値	104
A.2 ALLOUPLD (転送データセット作成)	104
A.3 RECVUPLD (TSO/E RECEIVE 処理)	106
A.4 HDSYKSIN (簡易インストール)	108
A.5 SMPALLOC (SMP/E データセットのアロケート)	109

A.6 HDSYK1AL (配布・ターゲットライブラリのアロケート)	111
A.7 HDSYK2DF (配布・ターゲットライブラリの定義)	113
A.8 HDSYK3RC (SMP/E RECEIVE 処理)	116
A.9 HDSYK4AP (ターゲットライブラリ作成)	118
A.10 HDSYK5AC (配布ライブラリ作成)	119
A.11 HDSYKARC (拡張アクセス制御機能用 SMP/E RECEIVE 処理)	121
A.12 HDSYKBAP (拡張アクセス制御機能用ターゲットライブラリ作成)	122
A.13 HDSYKCAC (拡張アクセス制御機能用配布ライブラリ作成)	124
 付録 B サンプルスクリプト.....	127
B.1 HDSRFEPR (拡張アクセス制御機能のアクセス権限参照)	128
 付録 C バージョンアップ時の注意事項.....	131
C.1 BC Manager 5.5 より前のバージョンから 5.5 以降にバージョンアップする場合.....	132
C.2 BC Manager 6.6.1 より前のバージョンから 6.6.1 以降にバージョンアップする場合.....	132
C.3 BC Manager 6.7.1 より前のバージョンから 6.7.1 以降にバージョンアップする場合.....	132
C.3.1 Route Config 画面.....	132
C.3.2 ルートリスト構造体.....	132
C.4 BC Manager 7.4 より前のバージョンから 7.4 以降にバージョンアップする場合.....	133
C.5 BC Manager 7.6.1 より前のバージョンから 7.6.1 以降にバージョンアップする場合.....	133
C.6 BC Manager 8.1.4 より前のバージョンから 8.1.4 以降にバージョンアップする場合.....	133
C.7 BC Manager 8.5.1 より前のバージョンから 8.5.1 以降にバージョンアップする場合.....	134
C.8 BC Manager 8.6.4 より前のバージョンから 8.6.4 以降にバージョンアップする場合.....	134
 付録 D バージョン混在時の注意事項.....	135
D.1 Configuration ファイル.....	136
D.2 ライセンス情報データセット.....	136
D.3 ライセンス名の表示変更.....	136
D.4 ライセンス情報データセットのプレフィックス.....	136
D.5 ライセンスのインストール.....	136
D.6 BCM ログ出力先の指定 (LOGPUT)	137
D.7 CLI コマンド実行ログ採取指定 (SYSLOG)	137
D.8 バージョン混在時のリソース・アクセス管理機能 (RACF) の設定.....	138
D.9 ユーザ SVC の動的登録.....	139
D.10 IOS002A メッセージ抑止のためのユーザ SVC.....	139
D.11 利用できるユーザ SVC のバージョン.....	139
D.12 ユーザ SVC の静的登録.....	139
 付録 E 文法説明で使用する記号.....	141
E.1 文法説明で使用する記号.....	142
 付録 F このマニュアルの参考情報.....	145
F.1 関連マニュアル.....	146
F.2 このマニュアルでの表記.....	146
F.3 このマニュアルで使用している略語.....	147
F.4 図中で使用する記号.....	148

F.5 KB (キロバイト) などの単位表記について 149

索引 151

図目次

図 2-1 BC Manager のインストールの流れ.....	22
図 2-2 ライセンス登録の概要.....	47
図 2-3 BC Manager のバージョンアップの流れ.....	52
図 2-4 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの流れ.....	55
図 3-1 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用しない場合の環境設定.....	70
図 3-2 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用する場合の環境設定.....	72
図 3-3 BC Manager のインストール後で、既存環境がある場合の環境設定.....	74
図 3-4 コピーグループの監視だけをする場合の環境設定.....	75
図 3-5 Replication Manager と BC Manager エージェントが IPv6 接続する場合の構成例.....	79
図 3-6 Replication Manager と IBM HTTP Server が HTTPS 通信する場合の構成例.....	81
図 3-7 HTTPS 通信するために必要な設定の流れ.....	82
図 3-8 BC Manager エージェントがローカルサイトだけにある場合の構成例.....	91
図 3-9 BC Manager エージェントがローカルサイトとリモートサイトにある場合の構成例.....	93
図 4-1 BCM Monitor を使用するための環境設定の手順.....	98

表目次

表 1-1 ライセンスおよび使用できる機能.....	18
表 1-2 ライセンス種別.....	18
表 1-3 前提プログラム.....	19
表 2-1 インストール CD-ROM で提供されるファイル.....	22
表 2-2 BC Manager コンポーネント用の FMID.....	23
表 2-3 配布ライブラリ (DLIB) の DASD ストレージ属性.....	24
表 2-4 ターゲットライブラリの DASD ストレージ属性.....	24
表 2-5 システム・ロガー・サービスを使用しない場合の BCM ログデータ量.....	25
表 2-6 システム・ロガー・サービスを使用する場合の BCM ログデータ量.....	26
表 2-7 環境設定で実施する項目.....	31
表 2-8 環境設定コマンドと機能.....	35
表 2-9 FACILITY クラスに定義するプロファイルと使用できる機能の対応.....	36
表 2-10 拡張アクセス制御機能で使用する FACILITY クラスに定義するプロファイル.....	37
表 2-11 YKALCSVC コマンドのリターンコード一覧.....	40
表 2-12 設定できる BC Manager 環境変数.....	41
表 2-13 YKSETENV コマンドのリターンコード一覧.....	45
表 2-14 YKDSPENV コマンドのリターンコード一覧.....	46
表 2-15 バージョンアップ前に確認する環境の設定値.....	52
表 2-16 z/OSMF ワークフローを使用したインストール時に必要な権限.....	54
表 2-17 z/OSMF テンプレートから作成したワークフローで実行できる項目.....	56
表 2-18 YKWFSMPE テンプレートの処理概要.....	56
表 2-19 YKWF SMP1 および YKWF SMP2 テンプレートの処理概要.....	57
表 2-20 YKWF SMPN テンプレートの処理概要.....	57
表 2-21 YKWF SUPD テンプレートの処理概要.....	58
表 2-22 YKWF UPS テンプレートの処理概要.....	58
表 2-23 BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョン.....	66
表 3-1 IPv6 接続するときに httpd.conf ファイルに設定する内容.....	80
表 3-2 Replication Manager と IBM HTTP Server 間の認証方式.....	81
表 3-3 リバースプロキシサーバを設定するための httpd.conf ファイルの内容.....	82
表 3-4 認証を設定するための httpd.conf ファイルの内容.....	83
表 3-5 繰続記号の種類.....	85
表 3-6 LOGLEVEL と出力されるメッセージ.....	89
表 3-7 初期設定パラメタの複数指定の可否.....	90
表 3-8 ローカルサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続する場合の指定内容.....	92
表 3-9 ローカルサイトとリモートサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続する場合の指定内容.....	93
表 C-1 BC Manager 6.7.1 以降で変更されたルートリスト構造体の REXX 変数.....	132

表 D-1 7.6 以降のバージョンの BC Manager の YKSETENV コマンドで設定した場合.....	137
表 D-2 5.1 から 7.5 までのバージョンの BC Manager の YKSETENV コマンドで設定した場合.....	137
表 D-3 5.1 より古いバージョンの BC Manager の YKSETENV コマンドで設定した場合.....	138
表 E-1 文法説明で使用する記号.....	142
表 E-2 構文要素.....	142



はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトのインストール方法について説明したものです。

- ・ Hitachi Business Continuity Manager Basic
- ・ Hitachi Business Continuity Manager UR 4x4 Extended CTG

以降、上記製品の総称として BC Manager と表記します。

- 対象読者
- マニュアルの構成
- 読書手順
- このマニュアルで使用する記号

対象読者

このマニュアルは、BC Manager のインストールについて知りたい方を対象としています。

また、次のことを前提としています。

- USP V, VSP, VSP G1000, VSP G1500, VSP F1500, VSP 5100, VSP 5500, VSP 5100H, または VSP 5500H の機能を知っていること
- Hitachi Replication Manager Software と連携する場合は、Hitachi Replication Manager Software を使用したシステムの構築方法を理解していること

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第1章 概要

提供しているライセンスおよび前提条件について説明しています。

第2章 インストール

インストールの準備と手順、環境設定の手順、およびバージョンアップの手順について説明しています。

第3章 Replication Manager と連携する場合の環境設定

Replication Manager と連携する場合に必要な、ポート番号、セキュリティ、および IBM HTTP Server の設定方法と、初期設定パラメタおよび起動用カタログドロジジャの作成方法について説明しています。

第4章 BCM Monitor を使用する場合の環境設定

BCM Monitor を使用する前に実施しておくべきセキュリティの設定方法と、Configuration ファイル、BCM Monitor パラメタファイル、および起動用カタログドロジジャの作成方法について説明しています。

付録 A サンプル JCL の修正例

サンプル JCL の修正方法について説明しています。

付録 B サンプルスクリプト

サンプルスクリプトの使用方法について説明しています。

付録 C バージョンアップ時の注意事項

バージョンアップ時の注意事項について説明しています。

付録 D バージョン混在時の注意事項

バージョンアップ作業の過程で、同一システム内に複数のバージョンが混在する場合の注意事項について説明しています。

付録 E 文法説明で使用する記号

文法説明で使用する記号、および構文要素について説明しています。

付録 F このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択してお読みいただけます。利用目的別に、次の表に従ってお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
BC Manager を使用するための前提条件を知りたい。	1 章
BC Manager をインストールしたい。	2 章
Replication Manager と連携するための環境設定をしたい。	3 章
BCM Monitor を使用するための環境設定をしたい。	4 章
サンプル JCL の修正例を知りたい。	付録 A
サンプルスクリプトの使用例を知りたい。	付録 B
バージョンアップ時の注意事項を知りたい。	付録 C
バージョン混在時の注意事項を知りたい。	付録 D
コマンドの記載形式を知りたい。	付録 E

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	画面に表示される項目であることを示します。 例えば、画面に「構成」という表示項目がある場合、[構成]と表記しています。
斜体	利用環境や操作状況によって異なる値であることを示します。

概要

この章では、BC Manager を使用するのに必要なライセンスおよび前提条件について説明します。

- 1.1 提供しているライセンス
- 1.2 前提条件

1.1 提供しているライセンス

BC Manager を使用するにはライセンスの導入が必要です。

ライセンスには、BC Manager の基本機能を使用するためのライセンスと、オプション機能を使用するためのライセンスがあります。基本機能のライセンスを導入すると、SI, TC, TCA, および UR のコピーグループの定義と管理が一とおりできるようになります。基本機能以外のオプション機能を使用する場合は、必要なライセンスを導入してください。

ライセンスキーがライセンス情報データセットにインストールされた時点で、導入したライセンスに対応する機能が使用できるようになります。

旧バージョンの BC Manager から移行する場合は、ライセンスキーの再入手が必要になることがあります。

提供しているライセンスと、それぞれのライセンスによって使用できる機能を次の表に示します。

表 1-1 ライセンスおよび使用できる機能

ライセンス名	使用できる機能	必須/任意
Business Continuity Manager Basic	基本機能（リモート DKC 制御機能および TC のコンシステムシー維持機能を含む）	必須
Business Continuity Manager UR 4x4 Extended CTG	4x4 構成の UR でのコンシステムシー維持機能	任意

BC Manager を使用できる期間は、導入しているライセンスの種別によって異なります。ライセンス種別を次の表に示します。

表 1-2 ライセンス種別

ライセンス種別	有効期間	用途
永久ライセンス	なし	通常運用で使用します。
一時ライセンス	120 日	購入前のお試し用として使用できます。
緊急ライセンス	30 日	一時ライセンスの期限が迫っている場合に永久ライセンスを購入できないときに使用します。



重要

- セカンダリサイトの BC Manager でストレージシステムを操作する場合、セカンダリサイトにもライセンスの導入が必要です。
- BC Manager 5.3 以前で入手したライセンスキーは使用できません。

1.2 前提条件

BC Manager を使用するための前提条件について説明します。

1.2.1 前提 OS

BC Manager は、z/OS V1R12～V1R13、および V2R1～V2R4 で使用できます。

- Replication Manager と TLS 1.2 による HTTPS 通信をする場合の適用バージョンは、z/OS V2R1 以降です。
- z/OSMF ワークフローを使用して BC Manager のインストールをする場合の適用バージョンは、z/OS V2R4 以降です。

- 3DC Multi-target (TCxTC)構成で運用する場合の適用バージョンは、z/OS V2R2 以降です。



重要

- VM 環境をサポートしています。動作条件などの詳細は販売会社に確認してください。ただし、HTTPS 通信については VM 環境をサポートしていません。
- 代替サブチャネルセットのデバイスは使用できません。

1.2.2 前提プログラム

BC Manager を使用するための前提プログラムを次の表に示します。

表 1-3 前提プログラム

プログラム名	必須/任意	概要	説明
DFSMS	必須	データ機能記憶管理サブシステムです。	OS 標準搭載です。
ISPF	必須	フルスクリーンインターフェースです。	OS 標準搭載です。
Security Server (RACF)	必須	IBM のセキュリティ管理プロダクトです。	なし
TSO/E REXX	必須	BC Manager を実行するための前提プログラムです。	OS 標準搭載です。
TSO/E※	必須		
IBM Library for REXX on zSeries Release 4 (FMID HWJ9140) または IBM Library for REXX on zSeries Alternate Library (FMID HWJ9143)	必須	CLI コマンドを System REXX 環境下で実行する場合に必要です。	IBM Library for REXX on zSeries Alternate Library (FMID HWJ9143) は OS 標準搭載です。
System REXX	任意		
Replication Manager	任意	Hitachi Command Suite 製品の一つで、BC Manager エージェントと連携してコピーペアを定義、操作、および監視する場合に必要です。	適用バージョンは、8.7.6 以降です。
IBM Communications Server	任意	通信プログラムです。Replication Manager と連携する場合に必要です。	OS 標準搭載です。
IBM HTTP Server for z/OS	任意	WebSphere Application Server for z/OS に同梱されているオプション製品です。Replication Manager と IPv6 接続または HTTPS 通信する場合に必要です。また、Replication Manager と HTTPS 通信する場合には z/OS Security Level 3 が必要です。	適用バージョンは、6.1 以降です。Replication Manager と TLS 1.2 による HTTPS 通信をする場合の適用バージョンは、8.5.5 以降です。
IBM Tivoli Storage Productivity Center for Replication for System z	任意	HyperSwap と UR を併用する 2DC 構成で運用する場合に必要です。	適用バージョンは、4.2 以降です。
Level 131 以上の ANTRQST マクロ (System Data Mover (SDM) API)	任意	YKFENCE コマンドを実行する場合に必要です。	z/OS V2R1 以降では OS 標準搭載です。

プログラム名	必須/任意	概要	説明
IBM z/OS Management Facility (z/OSMF)	任意	z/OSMF ワークフローを使用して BC Manager のインストールをする場合に必要です。	適用バージョンは、V2R2 以降です。

注※ TSO/E 画面では、使用環境によって小文字が正しく表示されない場合があります。

1.2.3 前提機器

BC Manager は、次の日立ストレージシステムを対象としています。

- Universal Storage Platform V/VM (USP V)
- Hitachi Virtual Storage Platform (VSP)
- Hitachi Virtual Storage Platform G1000 (VSP G1000)
- Hitachi Virtual Storage Platform G1500 (VSP G1500)
- Hitachi Virtual Storage Platform F1500 (VSP F1500)
- Hitachi Virtual Storage Platform VSP 5100 (VSP 5100)
- Hitachi Virtual Storage Platform VSP 5500 (VSP 5500)
- Hitachi Virtual Storage Platform VSP 5100H (VSP 5100H)
- Hitachi Virtual Storage Platform VSP 5500H (VSP 5500H)

1.2.4 IBM System z で Linux ボリュームを使用するための前提条件

z/Linux ボリュームを使用するためには、最初に次の設定をしてください。

- Disk layout は CDL (System z compatible disk layout) にします。
- z/Linux を z/VM 上で動作させる場合、DASD 共用種別 (DASD Sharing) は Dedicated Disk にします。
- z/Linux からの I/O に、タイムスタンプが付与されるよう設定します。



重要 C/T グループ内に z/OS と z/Linux のボリュームが混在する場合は、システム間の時刻を合わせてください。

次の機能は、z/Linux ボリュームに対しては使用できません。

- FlashCopy 連携機能
- z/Linux ボリュームをコマンドデバイスとするリモート DKC 制御機能

インストール

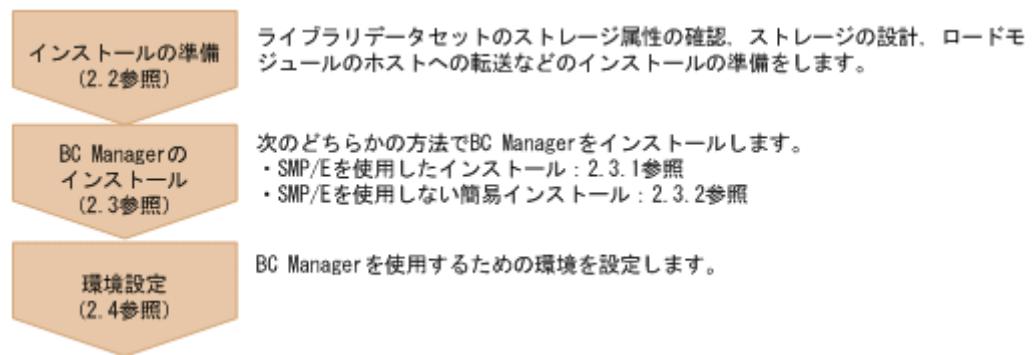
この章では、インストールの準備と手順、環境設定の手順、およびバージョンアップの手順について説明します。

- 2.1 インストールの流れ
- 2.2 インストールの準備
- 2.3 インストールの手順
- 2.4 環境設定の手順
- 2.5 バージョンアップの手順
- 2.6 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの手順
- 2.7 YKBSCAN を REXX スクリプトから実行する場合の注意事項
- 2.8 BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョン

2.1 インストールの流れ

BC Manager のインストールの流れを次の図に示します。

図 2-1 BC Manager のインストールの流れ



それぞれの作業の詳細は、以降の節で説明します。

バージョンアップするときは、「[2.5 バージョンアップの手順](#)」を参照してください。

2.2 インストールの準備

BC Manager をインストールする準備について説明します。

2.2.1 提供媒体の種類

BC Manager は次の提供媒体を用意しています。

- CD-ROM

2.2.2 提供されるデータセット

インストール CD-ROM で提供されるファイルを次の表に示します。

表 2-1 インストール CD-ROM で提供されるファイル

項目番号	ファイル名/フォルダ名	内容	z/OSMF を使用しない	z/OSMF を使用する
1	HITACHI.CHYKnnn.SMPMCS.XMIT	SYSMOD をパッケージするのに使用される BC Manager の SMP/E 制御ステートメント	必須	必須
2	HITACHI.CHYKnnn.F1.XMIT	SMP/E で使用する JCL サンプル（アロケーション、DDDEF, RECEIVE, APPLY, ACCEPT 用）などを含むサンプルライブラリ	必須	必須
3	HITACHI.CHYKnnn.F2.XMIT	BC Manager の LINKLIB 用ロードモジュール	必須	必須
4	HITACHI.CHYKnnn.F3.XMIT	BC Manager の LPALIB 用ロードモジュール	必須	必須
5	HITACHI.CHYKnnn.F4.XMIT	カタログドロシジャライブラリ	必須	必須
6	HITACHI.CHYKnnn.F5.XMIT	REXX スクリプト	必須	必須

項目番	ファイル名/フォルダ名	内容	z/OSMFを使用しない	z/OSMFを使用する
7	HITACHI.CHYKnnn.F6.XMIT	REXX スクリプト	必須	必須
8	HITACHI.CHYKnnn.F7.XMIT	ISPF パネルライブラリ	必須	必須
9	HITACHI.CHYKnnn.F8.XMIT	ISPF メッセージライブラリ	必須	必須
10	HITACHI.CHYKnnn.F9.XMIT	ISPF テーブルライブラリ	必須	必須
11	HITACHI.CHYKaaa.SMPMCS.XMIT	コピーグループアクセス制御機能（拡張アクセス制御機能）の SYSMOD をパッケージする SMP/E 制御ステートメント	任意	任意
12	HITACHI.CHYKbbb.SMPMCS.XMIT	特定コマンドアクセス制御機能（拡張アクセス制御機能）の SYSMOD をパッケージする SMP/E 制御ステートメント	任意	任意
13	ALLOUPLD.JCL	データセット作成用サンプル JCL	必須	不要
14	RECVUPLD.JCL	TSO/E RECEIVE 処理用サンプル JCL	必須	不要
15	WorkflowTemplate	z/OSMF テンプレートフォルダ	不要	必須
15-1	YKWFSMPE	SMP/E を使用したインストールを実行する z/OSMF テンプレート		
15-2	YKWFSMP1	コピーグループアクセス制御機能のインストールを実行する z/OSMF テンプレート		
15-3	YKWFSMP2	特定コマンドアクセス制御機能のインストールを実行する z/OSMF テンプレート		
15-4	YKWFSUPD	簡易インストールを実行する z/OSMF テンプレート		
15-5	YKWFSMPN	環境設定を実行する z/OSMF テンプレート		
15-6	YKWFSUPS			
16	WorkflowVariable	z/OSMF ワークフロー変数ファイルのサンプルフォルダ	不要	任意
16-1	YKWFSMPE	SMP/E を使用したインストール、および拡張アクセス制御機能インストール用変数ファイルのサンプル		
16-2	YKWFSMPN	簡易インストール用変数ファイルのサンプル		
16-3	YKWFSUPD	環境設定用変数ファイルのサンプル		
16-4	YKWFSUPS			

注 表中の「CHYKnnn」の「nnn」部分、「CHYKaaa」の「aaa」部分、および「CHYKbbb」の「bbb」部分は、バージョンによって異なります。

SMP/E によってインストールするときに必要なキーワード (FMID : Function Modification Identifier) を次の表に示します。

表 2-2 BC Manager コンポーネント用の FMID

FMID	機能名
CHYKnnn	Hitachi Business Continuity Manager

注 表中の「CHYKnnn」の「nnn」部分は、バージョンによって異なります。

2.2.3 DASD ストレージ属性の計画

配布ライブラリ (DLIB) とターゲットライブラリの一覧を示し、BC Manager をインストールするに必要な DASD ストレージ属性について説明します。

(1) 配布ライブラリ (DLIB)

配布ライブラリに必要な DASD ストレージ属性を次の表に示します。

表 2-3 配布ライブラリ (DLIB) の DASD ストレージ属性

DD 名※	DSORG	RECFM	LRECL (バイト)	BLKSIZE (バイト)
HDSYSAMD (サンプルライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYLNKD (LINKLIB 用ロードライブラリ)	PO	U	—	6,144
HDSYLPAD (LPALIB 用ロードライブラリ)	PO	U	—	6,144
HDSYPRCD (カタログドプロシジャライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYEXED (REXX Exec ライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYEXVD (REXX Exec ライブラリ、可変長フォーマット)	PO	VB	255	6,120
HDSYPNLD (パネルライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYMSGD (メッセージライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYTABD (テーブルライブラリ)	PO	FB	80	6,160

注※ サンプルジョブ HDSYK1AL (「A.6 HDSYK1AL (配布・ターゲットライブラリのアロケート)」参照) で指定された DD 名。データセット名はおののの DD 文に指定された名称となります。

(2) ターゲットライブラリ

ターゲットライブラリに必要な DASD ストレージ属性を次の表に示します。

表 2-4 ターゲットライブラリの DASD ストレージ属性

DD 名※	DSORG	RECFM	LRECL (バイト)	BLKSIZE (バイト)
HDSYSAMT (サンプルライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYLNKT (LINKLIB 用ロードライブラリ)	PO	U	—	6,144
HDSYLPAT (LPALIB 用ロードライブラリ)	PO	U	—	6,144
HDSYPRCT (カタログドプロシジャライブラリ)	PO	FB	80	6,160

DD 名※	DSORG	RECFM	LRECL (バイト)	BLKSIZE (バイト)
HDSYEXET (REXX Exec ライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYEXVT (REXX Exec ライブラリ, 可変長フォーマット)	PO	VB	255	6,120
HDSYPNLT (パネルライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYMSGT (メッセージライブラリ)	PO	FB	80	6,160
HDSYTABT (テーブルライブラリ)	PO	FB	80	6,160

注※ サンプルジョブ HDSYK1AL (A.6 HDSYK1AL (配布・ターゲットライブラリのアロケート) 参照) で指定された DD 名。データセット名はおののの DD 文に指定された名称となります。このマニュアル中の「DD 名ライブラリ」という表記は、ライブラリ種別を示します。

2.2.4 ストレージ設計

BC Manager を運用するためには、ディスクおよびメモリの所要量を見積もり、それに応じた計画を立てる必要があります。

(1) BCM ログのディスク所要量

BCM ログのデータ量は、ログの出力先によって、次のとおり見積もってください。ISPF ログについては、マニュアル 「Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド」を参照してください。

システム・ロガー・サービスを使用しない場合

システム・ロガー・サービスを使用しないで BCM ログを出力する場合 (LOGPUT=SAM の場合) のデータ量を次の表に示します。

表 2-5 システム・ロガー・サービスを使用しない場合の BCM ログデータ量

BCM ログデータの種類	サイズ※1	件数/コマンド
メッセージ (ただし、ISPF 画面およびスクリプトから出力されるメッセージを除く)	100+メッセージ長※2	メッセージ出力数
I/O エラー発生時に限り、その I/O の CCW のパラメタ情報	100+CCW 長※3	I/O エラー発生回数
I/O エラー発生時に限り、その I/O のリターン情報	256	I/O エラー発生回数
I/O エラー発生時に限り、その I/O のセンスバイト情報	256	I/O エラー発生回数
タイムスタンプ	128	2
コマンドパラメタ情報	256	1
I/O 応答時間	139	1

注※1 このサイズを 32 の倍数に切り上げた値を指定して BCM ログを出力します。

注※2 メッセージ長の最大は 256 バイトです。

注※3 コピーペア状態取得時は 2,051 バイト、コピーペア状態取得時以外は 256 バイト以内です。

システム・ロガー・サービスを使用する場合

システム・ロガー・サービスを使用して BCM ログを出力する場合 (LOGPUT=LOGR の場合) のデータ量を次の表に示します。

表 2-6 システム・ロガー・サービスを使用する場合の BCM ログデータ量

BCM ログデータの種類	サイズ※1	件数/コマンド
メッセージ (ただし、ISPF 画面およびスクリプトから出力されるメッセージを除く)	68+メッセージ長※2	メッセージ出力数
I/O エラー発生時に限り、その I/O の CCW のパラメタ情報	68+CCW 長※3	I/O エラー発生回数
I/O エラー発生時に限り、その I/O のリターン情報	224	I/O エラー発生回数
I/O エラー発生時に限り、その I/O のセンスバイト情報	224	I/O エラー発生回数
タイムスタンプ	96	2
コマンドパラメタ情報	224	1
I/O 応答時間	107	1

注※1 このサイズを 32 の倍数に切り上げた値を指定して BCM ログを出力します。

注※2 メッセージ長の最大は 256 バイトです。

注※3 コピーペア状態取得時は 2,051 バイト、コピーペア状態取得時以外は 256 バイト以内です。

- ステージングデータセット
BCM ログデータ量を基にディスク容量を見積もってください。
- ログストリームデータセット
オフロード後の BCM ログデータ量と保存期間を基にディスク容量を見積もってください。
- 外部データセット (OUTLOG)
オフロード後の BCM ログデータ量と保存期間を基にディスク容量を見積もってください。外部データセット (OUTLOG) の形式については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

(2) メモリ所要量

BC Manager を実行するのに必要なメモリ所要量を次に示します。

- 16MB 未満のユーザリージョン : 1,024KB
- 16MB 以上の拡張ユーザリージョン :
 - TSO/E の場合 :
$$4,000\text{KB} + \uparrow(1 \times \text{ボリューム数})\uparrow\text{KB} + \uparrow(3.5 \times \text{コピーペア数})\uparrow\text{KB}$$
 - バッチの場合 :
$$4,000\text{KB} + \uparrow(1 \times \text{ボリューム数})\uparrow\text{KB} + \uparrow(2.5 \times \text{コピーペア数})\uparrow\text{KB}$$
 - YKIMPORT コマンドを実行する場合 :
$$4,000\text{KB} + \uparrow(1 \times \text{ボリューム数})\uparrow\text{KB} + \uparrow(2.5 \times \text{作成するコピーペア数})\uparrow\text{KB}$$

$$+ \uparrow(3 \times \text{BASEGROUP コピーペア数})\uparrow\text{KB}$$
 - YKBTSCAN を実行する場合 :

$4,000\text{KB} + \lceil(1.5 \times \text{スキャン対象ボリューム数})\rceil\text{KB} + \lceil(2 \times \text{スキャン済みボリューム数})\rceil\text{KB}$
 ボリューム数：使用する DAD 中に含まれる全ボリューム数。複数のコピーグループを操作する場合は、コピーグループごとに使用するボリューム数の総和を示します。
 コピーペア数：使用するコピーグループ定義ファイル中のコピーペア数
 作成するコピーペア数：YKIMPORT コマンドで作成するコピーペア数
BASEGROUP コピーペア数：ベースにするコピーグループ定義ファイル中のコピーペア数
 スキャン対象ボリューム数：YKBTS SCAN でのスキャン範囲に含まれる全ボリューム数
 スキャン済みボリューム数：YKBTS SCAN を実行して既存のディスク構成定義ファイルにボリュームを追加する場合、ディスク構成定義ファイル中の全ボリューム数
 $\lceil A \times B \rceil : A \times B$ の結果の小数点以下を切り上げることを示します。

Replication Manager と連携する場合に必要なメモリ所要量を次に示します。計算式中の PREFIX パラメタおよび DEVN パラメタは、BC Manager エージェントの初期設定パラメタです。

- 16MB 未満のユーザリージョン : 2,048KB
- 16MB 以上の拡張ユーザリージョン :

$$6,000\text{KB} + A\text{KB}$$

$$+ \lceil(512 \times \text{指定した PREFIX パラメタの数})\rceil \div 1,024 \lceil\text{KB}\rceil$$

$$+ \lceil(64 \times \text{指定した DEVN パラメタの数})\rceil \div 1,024 \lceil\text{KB}\rceil$$
 - $A : (1.5 \times D)$ と $(3 \times P)$ の大きい方の値
 - $D : \text{DEVN パラメタに指定した中で最も多い装置数}$
 - $P : \text{BC Manager エージェントが使用するコピーグループの中で最も多いコピーペア数}$
 - $\lceil A \div B \rceil : A \div B$ の結果の小数点以下を切り上げることを示します。

BCM Monitor を使用する場合に必要なメモリ所要量を次に示します。

- 16MB 未満のユーザリージョン : 2,048KB
- 16MB 以上の拡張ユーザリージョン :

$$6,000\text{KB} + (3 \times \text{コピーペア数})\text{KB}$$

$$+ (C + S) \times 1\text{KB}$$
 - $C : \text{YKMONCG ファイルに指定したコピーグループパラメタの数}$
 - $S : \text{YKMONCG ファイルに指定したアクションパラメタの数}$

2.3 インストールの手順

インストールには、幾つかの手順があります。SMP/E または簡易インストールを使用してインストールを完了させます。

拡張アクセス制御機能をインストールする場合は、SMP/E を使用する必要があります。拡張アクセス制御機能については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

[z/OSMF を使用してインストールおよび環境設定をする場合は「2.6 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの手順」](#)を参照してください。

2.3.1 CD-ROM から BC Manager のロードモジュールをホストマシンに転送する

CD-ROM から BC Manager のロードモジュールをホストマシンに転送する手順を次に示します。

1. インストール CD-ROM で提供されている次のファイルを PC にコピーする。
 - BC Manager のオブジェクトアーカイブ
 - データセット作成用サンプル JCL (ALLOUPLD.JCL)
 - TSO/E RECEIVE 処理用サンプル JCL (RECVUPLD.JCL)
2. 次のサンプル JCL を PC からホストマシンに ASCII モードで転送する。
 - データセット作成用サンプル JCL (ALLOUPLD.JCL)
 - TSO/E RECEIVE 処理用サンプル JCL (RECVUPLD.JCL)
3. 手順 2 で転送したサンプル JCL をインストールする環境に合わせて修正する。
各サンプル JCL の先頭に詳細が記述されています。修正例については、「[付録 A. サンプル JCL の修正例](#)」を参照してください。
4. 転送用データセットを作成する（修正した ALLOUPLD ジョブを実行）。
インストールする環境に合わせて修正した ALLOUPLD ジョブを実行し、データセットを作成します。ALLOUPLD ジョブを実行すると、ホストマシン上に BC Manager のオブジェクトアーカイブを転送するための順次・データセットが作成されます。
サンプル JCL (ALLOUPLD) の修正例については、「[A.2 ALLOUPLD \(転送データセット作成\)](#)」を参照してください。
5. BC Manager のオブジェクトアーカイブを PC からホストマシンに転送する。
BC Manager のオブジェクトアーカイブを PC からホストマシン上の順次・データセット（手順 4 で作成したもの）に、それぞれバイナリ転送します。
転送するアーカイブについては、「[表 2-1 インストール CD-ROM で提供されるファイル](#)」を参照してください。
6. TSO/E RECEIVE 処理を実行する（修正した RECVUPLD ジョブを実行）。
インストールする環境に合わせて修正した RECVUPLD ジョブを実行し、手順 5 で転送したアーカイブから提供データセットを抽出します。
サンプル JCL (RECVUPLD) の修正例については、「[A.3 RECVUPLD \(TSO/E RECEIVE 処理\)](#)」を参照してください。

これで、「[2.3.2 SMP/E を使用したインストール](#)」、または「[2.3.3 簡易インストール\(SMP/E を使用しないインストール\)](#)」で説明するインストールの準備ができました。

2.3.2 SMP/E を使用したインストール

SMP/E を使用してインストールするサンプル JCL ライブラリのメンバは、ユーザのインストール環境に合わせて変更する必要があります。各サンプル JCL の先頭に詳細が記述されています。修正例については、「[付録 A. サンプル JCL の修正例](#)」を参照してください。

サンプルジョブの格納先は次のとおりです。

「[2.3.1 CD-ROM から BC Manager のロードモジュールをホストマシンに転送する](#)」の手順実行後の HITACHI.CHYKnnn.F1 データセット（「nnn」の部分はバージョンによって異なる）に格納されます。RECVUPLD ジョブを変更して TSO/E RECEIVE コマンドの出力先データセット名を変更した場合は、変更後のデータセットに格納されます。

JCL メンバの名称と機能を次に示します。SMP/E を使用した BC Manager のロードモジュールのインストールは、次のサンプル JCL を上から順に実行します。

1. SMPALLOC

必要に応じて、SMP/E データセットをアロケートします。既存の SMP/E データセットを使用する場合は不要です。

サンプル JCL (SMPALLOC) の修正例については、「[A.5 SMPALLOC \(SMP/E データセットのアロケート\)](#)」を参照してください。

2. HDSYK1AL

配布ライブラリ (DLIB)，およびターゲットライブラリをアロケートします。バージョンアップ時に既存の SMP/E データセットを使用する場合は不要です。

サンプル JCL (HDSYK1AL) の修正例については、「[A.6 HDSYK1AL \(配布・ターゲットライブラリのアロケート\)](#)」を参照してください。

3. HDSYK2DF

SMP/E DDDEF を実行して、配布ライブラリ (DLIB) とターゲットライブラリを定義します。バージョンアップ時に既存の SMP/E データセットを使用する場合は不要です。

サンプル JCL (HDSYK2DF) の修正例については、「[A.7 HDSYK2DF \(配布・ターゲットライブラリの定義\)](#)」を参照してください。

4. HDSYK3RC

SMP/E RECEIVE を実行して、提供データセットを読み取り、グローバル・ゾーンに保管します。

サンプル JCL (HDSYK3RC) の修正例については、「[A.8 HDSYK3RC \(SMP/E RECEIVE 処理\)](#)」を参照してください。

5. HDSYK4AP

SMP/E APPLY を実行してターゲットライブラリ（「[表 2-4 ターゲットライブラリの DASD ストレージ属性](#)」に示すライブラリ）に提供データセットをインストールします。

サンプル JCL の APPLY コマンドには CHECK オペランドが指定しております。CHECK オペランドを指定して実行して、問題がなければ、CHECK オペランドを削除して再度ジョブを実行してください。バージョンアップ時に既存のターゲットライブラリにインストールする場合は CHECK オペランドを COMPRESS (ALL) オペランドに変更して再度ジョブを実行してください。

サンプル JCL (HDSYK4AP) の修正例については、「[A.9 HDSYK4AP \(ターゲットライブラリ作成\)](#)」を参照してください。

6. HDSYK5AC

SMP/E ACCEPT を実行して配布ライブラリ（「[表 2-3 配布ライブラリ \(DLIB\) の DASD ストレージ属性](#)」に示すライブラリ）に提供データセットをインストールします。

サンプル JCL の ACCEPT コマンドには CHECK オペランドが指定しております。CHECK オペランドを指定して実行して、問題がなければ、CHECK オペランドを削除して再度ジョブを実行してください。バージョンアップ時に既存の配布ライブラリにインストールする場合は CHECK オペランドを COMPRESS (ALL) オペランドに変更して再度ジョブを実行してください。

サンプル JCL (HDSYK5AC) の修正例については、「[A.10 HDSYK5AC \(配布ライブラリ作成\)](#)」を参照してください。



重要 HDSYK4AP ジョブが正しく実行できた場合、BC Manager の新しいバージョンがインストールされています。新しいバージョンの BC Manager が問題なく実行できるかどうか確認してから、HDSYK5AC ジョブを実行して BC Manager を認識させてください。

拡張アクセス制御機能をインストールする場合は、以降のステップを実施してください。

7. HDSYKARC

拡張アクセス制御機能用の SMP/E RECEIVE を実行して、提供データセットを読み取り、グローバル・ゾーンに保管します。

サンプル JCL (HDSYKARC) の修正例については、「[A.11 HDSYKARC \(拡張アクセス制御機能用 SMP/E RECEIVE 処理\)](#)」を参照してください。

8. HDSYKBAP

拡張アクセス制御機能用の SMP/E APPLY を実行してターゲットライブラリ（「表 2-4 ターゲットライブラリの DASD ストレージ属性」に示すライブラリ）に提供データセットをインストールします。

サンプル JCL の APPLY コマンドには CHECK オペランドが指定してあります。CHECK オペランドを指定して実行して、問題がなければ、CHECK オペランドを削除して再度ジョブを実行してください。

サンプル JCL (HDSYKBAP) の修正例については、「[A.12 HDSYKBAP \(拡張アクセス制御機能用ターゲットライブラリ作成\)](#)」を参照してください。

9. HDSYKCAC

拡張アクセス制御機能用の SMP/E ACCEPT を実行して配布ライブラリ（「表 2-3 配布ライブラリ (DLIB) の DASD ストレージ属性」に示すライブラリ）に提供データセットをインストールします。

サンプル JCL の ACCEPT コマンドには CHECK オペランドが指定してあります。CHECK オペランドを指定して実行して、問題がなければ、CHECK オペランドを削除して再度ジョブを実行してください。

サンプル JCL (HDSYKCAC) の修正例については、「[A.13 HDSYKCAC \(拡張アクセス制御機能用配布ライブラリ作成\)](#)」を参照してください。

2.3.3 簡易インストール(SMP/E を使用しないインストール)

SMP/E を使用しないインストール方法について説明します。

この方法は、SMP/E を使用しないで、提供データセットから直接ターゲットライブラリにインストールする方法です。

インストールするサンプル JCL ライブラリのメンバは、ユーザのインストール環境に合わせて変更する必要があります。各サンプル JCL の先頭に詳細が記述されています。修正例については、「[付録 A. サンプル JCL の修正例](#)」を参照してください。

サンプルジョブの格納先は次のとおりです。

「[2.3.1 CD-ROM から BC Manager のロードモジュールをホストマシンに転送する](#)」の手順を実行したあとの HITACHI.CHYKnnn.F1 データセット（「nnn」の部分はバージョンによって異なる）に格納されます。RECVUPLD ジョブを変更して TSO/E RECEIVE コマンドの出力先データセット名を変更した場合は、変更後のデータセットに格納されます。

JCL メンバの名称と機能を次に示します。簡易インストールは、次のサンプル JCL を実行します。

- HDSYKSIN

提供データセットの内容を、ターゲットライブラリにコピーします。

サンプル JCL (HDSYKSIN) の修正例については、「[A.4 HDSYKSIN \(簡易インストール\)](#)」を参照してください。

2.4 環境設定の手順

この節では、BC Manager の環境設定について説明します。

BC Manager の環境設定で実施する項目を次の表に示します。環境設定は、この表の順番で行ってください。

表 2-7 環境設定で実施する項目

実施する順番	項目	説明	参照先
1	CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定	CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定です。	2.4.1
2	BC Manager で ISPF 画面を利用するための設定	BC Manager で ISPF 画面を利用するため、 YKSTART コマンドの設定が必要です。	2.4.3
3	ISPF 画面の設定	ISPF 画面での次の設定です。 <ul style="list-style-type: none">• PF キーの利用• コマンドラインの位置の設定• PF キーの表示数の設定	2.4.4
4	YKWATCH コマンド、および PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能を使用するための設定	YKWATCH コマンド、および PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能をバックグラウンドジョブとして実行するために、YKWPROC の設定が必要です。	2.4.5
5	環境設定コマンドを利用するための設定	次の環境設定コマンドを利用するための設定です。 <ul style="list-style-type: none">• YKALCSVC コマンド：ユーザ SVC の登録• YKSETENV コマンド：BC Manager 環境変数の設定• YKDSPENV コマンド：BC Manager 環境変数の表示	2.4.6
6	セキュリティの設定	環境設定コマンド、CLI コマンド、およびデータセットに対するセキュリティの設定です。	2.4.7
7	ユーザ SVC の登録	ユーザ SVC を使用するための設定です。	2.4.8
8	BC Manager 環境変数の設定	BC Manager の運用に必要な環境変数の設定です。	2.4.9
9	ライセンスの登録	該当する機能を使用するためのライセンスキーの登録です。	2.4.10
10	インストールおよび環境設定後の検証	インストールおよび環境設定が正しく行われているか検証します。	2.4.11

2.4.1 CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定

BC Manager は、YKBLDCMD、YKMAKE、YKSUSPND などの TSO/E コマンドを提供します。これらのコマンドは、オフライン装置に対する I/O を実行するために、MVS 上の認可されたサービスにアクセスする必要があります。このアクセスを許可し、さらにこれらのコマンドを TSO/E 環境で利用できるようにするために、次の手順を実行してください。

1. HDSYLNKT ライブラリ (CLI コマンドが格納されているロードライブラリ) を LNKLST に連結する。
次のどちらかの手順で連結できます。
 - HDSYLNKT ライブラリを PROGxx parmlib メンバに、LNKLST に連結するデータセットとして追加する。
 - SETPROG LNKLST コマンドを使用して、動的に LNKLST に連結する。
 LNKLST への動的連結については、「[2.4.2 LINKLIB ロードライブラリを動的に LNKLST へ連結する例](#)」を参照してください。
2. HDSYLNKT ライブラリを APF 認可登録する。
次のどちらかの手順で登録できます。
 - HDSYLNKT ライブラリを PROGxx parmlib メンバに、APF 認可するデータセットとして追加する。

- SETPROG APF,ADD コマンドを使用して、動的に APF 認可登録する。
- SETPROG コマンドの詳細については、IBM のマニュアル「*MVS システム・コマンド*」を参照してください。

注意 LNKLST にはデフォルトで APF 認可が設定されているため、手順 1 で HDSYLNKT ライブラリを LNKLST に連結すれば、手順 2 は不要です。ただし、例外もあるため、LNKLST に関する APF 認可の詳細については、IBM のマニュアル「*MVS 初期設定およびチューニング解説書*」を参照してください。

- CLI コマンド名 YKCONMSG を、IKJTSOXX parmlib メンバ内の AUTHCMD セクションに登録する。

いったんこの更新が完了すると、PARMLIB CHECK(nn) コマンドと PARMLIB UPDATE(nn) コマンドによって、TSO/E を動的に更新できます。詳細については、IBM のマニュアル「*TSO/E システム・プログラミングコマンド解説書*」を参照してください。

2.4.2 LINKLIB ロードライブラリを動的に LNKLST へ連結する例

LINKLIB ロードライブラリを動的に LNKLST へ連結する例について説明します。

現在アクティブな LNKLST をオリジナル LNKLST からテンポラリ LNKLST に入れ替え、その間にオリジナル LNKLST に LINKLIB ロードライブラリを連結する例です。LNKLST の動的な変更は、現在実行しているジョブに影響を与えます。実行する前に LNKLST に関する IBM のマニュアルを参照して、LNKLST を動的に変更する場合に必要な注意事項を確認してください。

- 次のコマンドを発行して現在アクティブな LNKLST を確認する。

```
D PROG,LNKLST
```

現在アクティブな LNKLST（オリジナル LNKLST）を LNKLST00 と仮定します。

- LNKLST00 をコピーして、テンポラリ LNKLST (LNKLST99) を定義する。

```
SETPROG LNKLST,DEFINE,NAME=LNKLST99,COPYFROM=LNKLST00
```

- テンポラリ LNKLST (LNKLST99) をアクティベイトする。

```
SETPROG LNKLST,ACTIVATE,NAME=LNKLST99
```

- すべての実行中のジョブにテンポラリ LNKLST (LNKLST99) を適用する。

```
SETPROG LNKLST,UPDATE,JOB=*
```

- LINKLIB ロードライブラリをオリジナル LNKLST (LNKLST00) に追加する。

```
SETPROG LNKLST,ADD,NAME=LNKLST00,DSN=loadlib_dataset_name
```

- オリジナル LNKLST (LNKLST00) を再アクティベイトする。

```
SETPROG LNKLST,ACTIVATE,NAME=LNKLST00
```

- すべての実行中のジョブにオリジナル LNKLST (LNKLST00) を再適用する。

```
SETPROG LNKLST,UPDATE,JOB=*
```

- テンポラリ LNKLST (LNKLST99) を削除する。

```
SETPROG LNKLST,UNDEFINE,NAME=LNKLST99
```

SETPROG コマンドの詳細については、IBM マニュアル「*MVS システム・コマンド*」を参照してください。

2.4.3 BC Manager で ISPF 画面を利用するための設定

YKSTART コマンドは、ISPF 画面インターフェースを提供する REXX スクリプトです。YKSTART コマンドを実行することで、ISPF 画面で BC Manager を利用できます。

次のどちらかの方法で YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリを連結します。

- YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリを静的に連結する。

- ・ YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリを動的に連結する。

(1) YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリの静的連結

YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリの連結には、次の手順を実行します。

1. REXX Exec ライブラリ HDSYEXET または HDSYEXVT を、DD 名 SYSEXEC に連結する。
 - DD 名 SYSEXEC に連結しているライブラリが固定長フォーマット (RECFM=FB) の場合、REXX Exec ライブラリ HDSYEXET を連結する。
 - DD 名 SYSEXEC に連結しているライブラリが可変長フォーマット (RECFM=VB) の場合、REXX Exec ライブラリ HDSYEXVT を連結する。
2. パネルライブラリ HDSYPNLT を、DD 名 ISPPLIB に連結する。



重要 DBCS 機能が有効な環境では、代替パネルライブラリ (DD 名 ISPPALT) にも HDSYPNLT を連結してください。詳細については、IBM のマニュアル「対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第1巻」を参照してください。

3. メッセージライブラリ HDSYMSGT を、DD 名 ISPMLIB に連結する。



重要 DBCS 機能が有効な環境では、代替メッセージライブラリ (DD 名 ISPMALT) にも HDSYMSGT を連結してください。詳細については、IBM のマニュアル「対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第1巻」を参照してください。

4. テーブルライブラリ HDSYTABT を、DD 名 ISPTLIB に連結する。

データセットを連結する場合は、「表 2-4 ターゲットライブラリの DASD ストレージ属性」の属性と連結するデータセットの属性を考慮して RECFM および LRECL を検討してください。例えば、DSORG=PO, RECFM=FB の場合、LRECL は各データセット間で同じにする必要があります。詳細は、IBM のマニュアル「DFSMS データ・セットの使用法」、変更方法は、IBM のマニュアル「DFSMSdfp ネーティリティー」の IEBGENER, IEBCOPY についての記述を参照してください。

といったん設定すると、YKSTART は、ISPF 画面のオプション 6 ‘Command’ から起動できます。また、サイトごとの選択メニューでも選択できるようになります。

(2) YKSTART コマンドを実行するために必要なライブラリの動的連結

YKSTART コマンドの実行に必要なライブラリを動的に連結して、YKSTART を起動できます。

- ・ REXX Exec ライブラリ HDSYEXET および HDSYEXVT は、TSO/E の ALTLIB コマンドで動的に連結できます。
- ・ パネルライブラリ HDSYPNLT, メッセージライブラリ HDSYMSGT, およびテーブルライブラリ HDSYTABT は、ISPF の LIBDEF サービスで動的に連結できます。

ALTLIB コマンドおよび LIBDEF サービスの使用例を次に示します。

次のような REXX スクリプトを ISPF 起動中に実行すると、各ライブラリを DD 名 SYSEXEC, DD 名 ISPPLIB, DD 名 ISPMLIB, および DD 名 ISPTLIB に動的に連結して BC Manager を起動できます。

REXX スクリプト名に「YK」、および「JYU」を含む名称を使用しないでください。REXX スクリプト名が BC Manager のロードライブラリ内にあるロードモジュール名と一致すると、REXX スクリプトではなく BC Manager のロードモジュールが起動し、REXX スクリプトが正しく動作しないことがあります。

```
/* REXX */
```

```
ADDRESS TSO "ALTLIB ACTIVATE APPLICATION(EXEC)",
           "DATASET('HDSYK.Vnnnnnn.HDSYEXET')";

ADDRESS ISPEXEC;
```

```
"LIBDEF ISPMLIB DATASET ID('HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYMSGT') STACK";
"LIBDEF ISPPLIB DATASET ID('HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYPNLT') STACK";
"LIBDEF ISPTLIB DATASET ID('HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYTABT') STACK";

"SELECT CMD(YKSTART) NEWAPPL(YK) PASSLIB";

"LIBDEF ISPTLIB";
"LIBDEF ISPPLIB";
"LIBDEF ISPMLIB";

ADDRESS TSO "ALTLIB DEACTIVATE APPLICATION(EXEC)";
Return 0;
```



重要 DBCS 機能が有効な環境では、代替パネルライブラリ (DD 名 ISPPALT) にも HDSYPNLT を連結してください。また、代替メッセージライブラリ (DD 名 ISPMALT) にも HDSYMSGT を連結してください。詳細については、IBM のマニュアル「対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第1巻」を参照してください。

2.4.4 ISPF 画面の設定

(1) コマンドラインの位置の設定

コマンドライン ([Command] 行) の位置を画面の上にするか下にするか選択できます。次の手順で設定してください。

1. BC Manager を起動し、コマンドラインに「SETTINGS」を入力して Enter キーを押す。
ISPF Settings 画面が表示されます。
2. コマンドラインを画面の上に表示したい場合、[Command line at bottom] は空白に、画面の下に表示したい場合、[Command line at bottom] にチェックを入れる。

(2) PF キーの表示数の設定

PF キーの表示数を設定できます。次の手順で設定してください。設定は BC Manager 終了後もプロファイルに保存されます。

1. BC Manager を起動し、コマンドラインに「PFSHOW TAILOR」を入力して Enter キーを押す。
ISPF Settings 画面が表示されます。
2. [Number of keys] に値を設定する。



重要 設定を F1 から F12 の範囲にした場合、F17=DispConf キーおよび F18=Exctg キーが表示されないため注意してください。

2.4.5 YKWATCH コマンド、および PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能を使用するための設定

YKWATCH コマンド、および PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能はバックグラウンドジョブで実行されます。YKWATCH は、YKWATCH コマンド、および PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能のバックグラウンドジョブのプロシージャです。

YKWATCH コマンドを使用する場合、または PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成機能を使用する場合は、Set Defaults 画面の [JCL JOB Statement] に、バックグラウンドジョブの JCL を指定してください。

YKWATCH を実行できるように、次のどちらかの手順を実行します。

- カタログドプロシージャライブラリ HDSYPRCT を、MSTJCLxx parmlib メンバ内の DD 名 IEFPDSI に連結する。

- YKWPROC メンバを、カタログドプロジェクトライブラリ HDSYPRCT からユーザの PROCLIB にコピーする。



重要 ターゲットライブラリ HDSYLNKT および HDSYEXET で使用されている名前に合うように、このプロジェクト内のデータセット名を変更してください。

2.4.6 環境設定コマンドを利用するための設定

環境設定コマンドの機能を次の表に示します。

表 2-8 環境設定コマンドと機能

コマンド名	機能
YKALCSVC	ユーザ SVC の登録
YKSETENV	BC Manager 環境変数の設定 <ul style="list-style-type: none"> ホスト ID ライセンス情報データセットのプレフィックス BCM ログの出力方法 CLI コマンド実行ログの SYSLOG またはコンソールへの出力の有無
YKDSPENV	設定されている BC Manager 環境変数およびプログラムプロダクトの名称の表示

環境設定コマンドを利用できるようにするには、次のどちらかを実行します。次の手順を実行する前に「[2.4.1 CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定](#)」を実行してください。

- MSTJCLxx parmlib メンバ内の DD 名 IEFPDSI に、カタログドプロジェクトライブラリ HDSYPRCT を連結する。
- YKALCSVC メンバ、YKSETENV メンバ、および YKDSPENV メンバを、カタログドプロジェクトライブラリ HDSYPRCT からユーザの PROCLIB にコピーする。

これらのコマンドを COMMNDxx parmlib メンバに追加しておくと、再 IPL 時に自動的に実行できます。

2.4.7 セキュリティの設定

(1) 環境設定コマンドに対するセキュリティの設定

YKALCSVC コマンド、および YKSETENV コマンドを使用するには、RACF のプログラム制御機能を使用して、ユーザのアクセスを制限する必要があります。YKDSPENV コマンドについては、ユーザのアクセスを制限する必要はありません。詳細は、IBM のマニュアル「*Security Server RACF セキュリティ管理者のガイド*」を参照してください。ユーザのアクセスを制限しないで、YKALCSVC コマンドおよび YKSETENV コマンドを使用すると、BC Manager の動作に影響が出るおそれがあります。

(2) 基本のアクセス制御機能の設定

BC Manager では、基本のアクセス制御機能として CLI コマンド、YKAGENTD (BC Manager エージェント)、および YKBTS SCAN (パッチによるローカルスキヤン) に対してアクセス制御を行います。そのため、これらのコマンドおよび機能を使用するには、RACF の設定が必要です。RACF の FACILITY クラスにプロファイルを定義したあと、このプロファイルの READ 権限をユーザに設定することで、その機能を使用できます。

アクセス制御機能については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

FACILITY クラスに定義するプロファイルと使用できる機能の対応を次の表に示します。

表 2-9 FACILITY クラスに定義するプロファイルと使用できる機能の対応

FACILITY クラスに定義するプロファイル	使用できる機能
STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS (操作用プロファイル)	YKAGENTD YKBLDCMD コマンド YKBLDPTH コマンド YKBTSAN YKDELCMD コマンド YKDELETE コマンド YKDELPTH コマンド YKDEXCTG コマンド YKEWAIT コマンド YKFCSTAT コマンド YKFREEZE コマンド YKH2B コマンド YKMAKE コマンド YKQEXCTG コマンド YKQHPATH コマンド YKQRYDEV コマンド YKQRYPTH コマンド YKQUERY コマンド YKRECOVER コマンド YKRESYNC コマンド YKRUN コマンド YKSCAN コマンド YKSTATS コマンド YKSUSPND コマンド YKWATCH コマンド
STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY (参照用プロファイル)	YKAGENTD YKBTSAN YKEWAIT コマンド YKFCSTAT コマンド YKH2B コマンド YKQEXCTG コマンド YKQHPATH コマンド YKQRYDEV コマンド YKQRYPTH コマンド YKQUERY コマンド YKSCAN コマンド YKSTATS コマンド YKWATCH コマンド

YKFENCE コマンドについては、指定するパラメタによって、FACILITY クラスに定義する次の ANTRQST マクロのプロファイルが必要です。

- SOFTFENCE または SOFTUNFENCE パラメタを指定する場合
 - STGADMIN.ANT.PPRC.COMMANDS
 - STGADMIN.ANT.PPRC.FENCE
- QUERY パラメタを指定する場合
 - STGADMIN.ANT.PPRC.CQUERY

注 上記以外のコマンドについては、これらのプロファイルの READ 権限をユーザに与えなくても使用できます。



重要 次のコマンドについては、プロファイルによるユーザのアクセス制限をしないで使用すると、リモートサイト側での回復運用に影響が出るおそれがあります。

- YKBLDCMD
- YKBLDPTH
- YKDELCMD
- YKDELETE
- YKDELPTH
- YKDEXCTG
- YKFREEZE
- YKMAKE
- YKRECOVER
- YKRESYNC
- YKRUN
- YKSUSPND

プロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順については、「[\(4\) RACF のプロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順](#)」を参照してください。

(3) 拡張アクセス制御機能をインストールした場合のセキュリティの設定

「[2.3.2 SMP/E を使用したインストール](#)」で拡張アクセス制御機能（コピーグループアクセス制御機能、特定コマンドアクセス制御機能）をインストールした場合、アクセス権限の設定（RACF の設定）が必要です。RACF の FACILITY クラスにプロファイルを定義したあと、そのプロファイルの READ 権限をユーザに設定します。

ここでは、FACILITY クラスに定義するプロファイルの種類とプロファイルの READ 権限の設定方法について記載しています。各ユーザにどのプロファイルの READ 権限を設定するかについては、マニュアル 「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の「[拡張アクセス制御機能](#)」を参照してください。

拡張アクセス制御機能で使用する FACILITY クラスに定義するプロファイル

拡張アクセス制御機能で使用する FACILITY クラスに定義するプロファイルを次の表に示します。

表 2-10 拡張アクセス制御機能で使用する FACILITY クラスに定義するプロファイル

拡張アクセス制御機能	FACILITY クラスに定義するプロファイル
コピーグループアクセス制御機能	STGADMIN.YKA.BCM.PFX. <i>prefix</i> (プレフィックス用プロファイル)
	STGADMIN.YKA.BCM.CGTYPE. <i>copy-type</i> (コピー種別用プロファイル)
	STGADMIN.YKA.BCM.CGNAME. <i>copy-group-ID</i>

拡張アクセス制御機能	FACILITY クラスに定義するプロファイル
	(コピーグループ用プロファイル)
特定コマンドアクセス制御機能	STGADMIN.YKA.BCM.CLI.YKDELETE (YKDELETE コマンド用プロファイル)
	STGADMIN.YKA.BCM.CLI.YKMAKE (YKMAKE コマンド用プロファイル)
	STGADMIN.YKA.BCM.CLI.YKRECOVER (YKRECOVER コマンド用プロファイル)
	STGADMIN.YKA.BCM.CLI.YKQRYDEV (YKQRYDEV コマンド用プロファイル)
	STGADMIN.YKA.BCM.CGTYPE.copy-type (コピー種別用プロファイル)

(凡例)

prefix : Configuration ファイルのプレフィックス

copy-type : SI, TC, TCA, または UR

copy-group-ID : コピーグループ ID



参考 プロファイル名には総称名を使用できます。

例えば、コピーグループ ID : GRP01～GRP09 にアクセス権限を設定する場合、

STGADMIN.YKA.BCM.CGNAME.GRP*のように総称名指定でユーザーにまとめて設定できます。

プロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順

プロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順については、「(4) RACF のプロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順」を参照してください。

(4) RACF のプロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順

プロファイルの READ 権限をユーザに設定する手順を次に示します。

profile-name には、「(2) 基本のアクセス制御機能の設定」または「(3) 拡張アクセス制御機能をインストールした場合のセキュリティの設定」に記載している FACILITY クラスに定義するプロファイルのどれかが入ります。

1. RACF の FACILITY クラスをアクティブにします。

```
SETROPTS CLASSACT(FACILITY)
```

2. FACILITY クラスに、*profile-name* プロファイルを定義します。

```
RDEFINE FACILITY profile-name UACC(NONE)
```

3. 定義したプロファイルの READ 権限をユーザに追加します。

```
PERMIT profile-name CLASS(FACILITY) ID(ユーザID) ACCESS(READ)
```

BC Manager の実行性能を向上させるため、FACILITY クラスに対して RACLIST 機能（ストレージ内プロファイル）を有効にすることを推奨します。

RACLIST 機能を有効にするには、次のコマンドを実行してください。

FACILITY クラスが RACLIST されていない場合

```
SETROPTS RACLIST(FACILITY)
```

すでに FACILITY クラスが RACLIST されている場合

```
SETROPTS RACLIST(FACILITY) REFRESH
```

RACF の FACILITY クラスをアクティブにする方法、プロファイルを定義する方法、およびユーザにプロファイルの READ 権限を設定する方法の詳細は、IBM のマニュアル「*Security Server RACF セキュリティー管理者のガイド*」を参照してください。

(5) System REXX 環境を起動する場合のセキュリティの設定

BC Manager の CLI コマンドは、System REXX 環境で実行できます。System REXX 環境を起動するには、RACF の設定が必要です。RACF の STARTED クラスに AXR*.* プロファイルを定義し、SURROGAT クラスに SYSREXX.* プロファイルを定義したあと、それらのプロファイルの READ 権限をユーザに設定します。詳細については、IBM のマニュアル「*MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide*」を参照してください。

(6) データセットセキュリティの設定

BC Manager の Configuration ファイルは、ユーザが提供するデータセット名のプレフィックス値を基に、作成・保存されます。ストレージ管理者がプレフィックス値を決めると、各 TSO/E ユーザのストレージ管理上の役割に応じて、READ および WRITE 権限を制御できるように、データセットセキュリティを設定する必要があります。

2.4.8 ユーザ SVC の登録

ユーザ SVC を使用するためには、次のどちらかの方法でユーザ SVC を登録する必要があります。

- IEASVCxx parmlib メンバに定義して静的に登録する。
- YKALCSVC コマンドで動的に登録する。

IEASVCxx parmlib メンバで登録する場合はシステムの再 IPL が必要です。システム稼働中で再 IPL を実施できない場合は、YKALCSVC コマンドで登録してください。

(1) IEASVCxx parmlib メンバでの登録

次の手順でユーザ SVC を静的に登録します。

1. ユーザ SVC に割り当てる SVC 番号を 200 から 255 の間で決める。
2. HDSYLPAT ライブラリを LPALST に連結するために、次のどちらかの手順を実行する。
 - LPALSTxx parmlib メンバに HDSYLPAT ライブラリを定義します。詳細については、IBM のマニュアル「*MVS 初期設定およびチューニング解説書*」を参照してください。
 - SETPROG LPA コマンドを使用して、HDSYLPAT ライブラリを LPALST に動的に連結します。詳細については、IBM のマニュアル「*MVS システム・コマンド*」を参照してください。
3. 次の SVCPARM 文を IEASVCxx parmlib メンバに定義する。

```
SVCPARM SVC 番号, REPLACE, TYPE(3), EPNAME(JYUASVC), APF(NO), NPRMPT(NO), AR(NO)
```



重要 SVC 番号には、200 から 255 の間の 10 進数を指定します。詳細については、IBM のマニュアル「*MVS 初期設定およびチューニング解説書*」を参照してください。

4. CLPA パラメタを指定して再 IPL を行う。

(2) YKALCSVC コマンドでの登録

システム起動時、または BC Manager 使用前に、YKALCSVC コマンドを実行してユーザ SVC を動的に登録します。

YKALCSVC コマンドの形式

YKALCSVC コマンドの形式について説明します。コマンドの記載形式については、「[付録 E. 文法説明で使用する記号](#)」を参照してください。

形式

```
START YKALCSVC [, PARM=' {SVC 番号 | DELETE} ']
```

機能

ユーザ SVC を登録または削除します。

パラメタ

SVC 番号 ~<数字> ((200~255))

ユーザ SVC に割り当てる SVC 番号を指定します。

DELETE

ユーザ SVC を削除する場合に指定します。

PARM 以降を省略した場合、使用していない 200 から 255 の間の SVC 番号を割り当てます。

ただし、すでに YKALCSVC コマンドでユーザ SVC が登録されている場合は、その SVC 番号でユーザ SVC を上書きします。

リターンコード

表 2-11 YKALCSVC コマンドのリターンコード一覧

リターンコード	意味
0	正常終了しました。
4	ユーザ SVC はすでに異なる SVC 番号で登録されています。
16	SVC 番号の登録または削除に失敗しました。
20	エラー（指定値や実行環境の誤り）が発生したため、処理を中止しました。

ユーザ SVC の登録例

SVC 番号を指定する場合、次のとおり実行します。

```
START YKALCSVC, PARM='SVC 番号'
```

指定された SVC 番号にすでに別のユーザ SVC が割り当てられている場合、エラーになります。

ユーザ SVC の削除例

ユーザ SVC を削除する場合は、DELETE パラメタを指定して YKALCSVC コマンドを実行してください。

```
START YKALCSVC, PARM='DELETE'
```



重要

- すでに YKALCSVC コマンドで登録されている SVC 番号と異なる SVC 番号を割り当てる場合は、ユーザ SVC を削除してから登録し直してください。

- BC Manager 動作中に YKALCSVC コマンドでユーザ SVC を削除した場合、実行中の CLI コマンドが異常終了することがあります。
- BC Manager 動作中に YKALCSVC コマンドでユーザ SVC を登録した場合、実行中の CLI コマンドは IEASVCxx parmlib メンバで定義されたユーザ SVC で実行されます。登録したユーザ SVC は新たに実行される CLI コマンドから有効になります。
- YKALCSVC で登録したユーザ SVC は再 IPL で無効になります。次回の再 IPL に備えて、次のどちらかの設定をしておくことを推奨します。
 - YKALCSVC コマンドを COMMNDxx parmlib メンバに追加して、再 IPL 時に自動的にユーザ SVC を再登録する。
 - IEASVCxx parmlib メンバにユーザ SVC を定義し、次回 IPL から静的に登録されたユーザ SVC を使用する。
- BC Manager 5.1 以降の YKALCSVC コマンドで登録したユーザ SVC ルーチンは、BC Manager 5.1 より古いバージョンの YKALCSVC コマンドでは削除できません。バージョンが混在している場合のバージョンアップ時にはご注意ください。

2.4.9 BC Manager 環境変数の設定

BC Manager を起動する前に、YKSETENV コマンドを使用して BC Manager 環境変数を設定してください。

YKSETENV コマンドで設定した BC Manager 環境変数は再 IPL で無効になるため、次のどちらかの手段によって、指定した BC Manager 環境変数が再 IPL 時に自動的に設定されるようにしておくことを推奨します。

- COMMNDxx parmlib メンバに YKSETENV コマンドを追加する。
- BC Manager 環境変数に対応する IEASYMxx parmlib メンバのシステム・シンボルに値を指定する。

BC Manager 環境変数を設定したあと、YKDSPENV コマンドを使用して、環境変数が正しく設定されているか確認してください。

YKSETENV コマンドの形式については、「[\(4\) YKSETENV コマンドの形式](#)」を、YKDSPENV コマンドの形式については、「[\(5\) YKDSPENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

設定できる BC Manager 環境変数、各環境変数の意味、対応するシステム・シンボル名、およびデフォルト値を、次の表に示します。

表 2-12 設定できる BC Manager 環境変数

BC Manager 環境変数	BC Manager 環境変数の意味	BC Manager 環境変数に対応するシステム・シンボル名	デフォルト値
YKCMDIF	ホスト ID	&YKCMDIF	00
YKLCNSE YKLNS2	ライセンス情報データセットのプレフィックス	&YKLCNSE および&YKLNS2	HITACHI ^{※1}
LOGPUT	システム・ロガー・サービス ^{※2} の使用の有無	&YKLOGPT	LOGR : システム・ロガー・サービスを使用する。
SYSLOG	CLI コマンド実行ログの SYSLOG またはコンソールへの出力の有無	&YKSYSLG	YES : CLI コマンド実行ログを SYSLOG に出力する。

注※1 YKSETENV コマンドまたは IEASYMxx parmlib メンバでの指定状況と、ライセンス情報データセット名のプレフィックスの関係については、「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「[\(5\) ライセンス情報データセットの名称](#)」を参照してください。

注※2 システム・ロガー・サービスの詳細については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

BC Manager 環境変数で設定する値は、対応するシステム・シンボルを IEASYMxx parmlib メンバに定義して再 IPL することによっても設定できます。ただし、IEASYMxx parmlib メンバに指定する方法はシステムの再 IPL が必要なため、システム稼働中で再 IPL を実施できない場合は、YKSETENV コマンドで設定してください。

指定値の優先順位は次のとおりです。

1. YKSETENV コマンドでの指定値
2. IEASYMxx parmlib メンバでの指定値
3. デフォルト値

パラメタの指定を省略して YKSETENV コマンドを実行すると、対応するシステム・シンボルの値が BC Manager 環境変数として使用されます。YKSETENV コマンドのパラメタと、パラメタに対応するシステム・シンボルのどちらも指定されていない場合は、デフォルト値が BC Manager 環境変数として使用されます。

次に、環境を設定する際の指定例を示します。ライセンス情報データセットのプレフィックスの指定方法については、「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(5) ライセンス情報データセットの名称」を参照してください。



重要 YKSETENV コマンドを使用して BC Manager 環境変数を設定する場合、「[2.4.1 CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定](#)」を実行してください。

(1) ホスト ID の指定方法

リモート DKC 制御機能使用時に、同一サイトで、複数のホスト (OS) から BC Manager を動作させ、1ストレージシステム内の1コマンドデバイスを共有する場合は、ホスト ID を指定してください。同一サイトに单一ホスト (OS) しかない、または複数のホストで同一のコマンドデバイスを共有しない場合は、ホスト ID を指定する必要はありません。

ホスト ID には OS 単位でユニークな値を 00~1F の間の 2 けたの 16 進数で指定します。LPAR 環境では、LPAR ごとに異なるホスト ID を設定します。

ホスト ID の指定例を次に示します。次のどちらの指定もない場合は、00 が仮定されます。

YKSETENV コマンドで指定する

ホスト ID を 0F にする場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='YKCMDIF=0F'
```



重要 BC Manager 動作中に YKSETENV コマンドでホスト ID を登録・変更した場合、実行中の CLI コマンドは以前の設定値で実行されます。登録・変更したホスト ID は新たに YKLOAD コマンド (ルートリスト ID 指定) を実行すると有効になります。

IEASYMxx parmlib メンバに定義する

ホスト ID を 0F にする場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF (&YKCMDIF='0F')
```

(2) システム・ロガー・サービスの使用有無の指定方法

システム・ロガー・サービスを使用して外部データセットに出力するか、システム・ロガー・サービスを使用しないで順次・データセットに出力するかを設定するための指定例を示します。

YKSETENV コマンドで指定する

システム・ロガー・サービスを使用しない場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='LOGPUT=SAM'
```

システム・ロガー・サービスを使用する場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='LOGPUT=LOGR'
```



重要

- BC Manager 動作中に YKSETENV コマンドで BCM ログの出力先を変更した場合、実行中の BC Manager は以前の設定値で実行されます。変更した値は、TSO/E 端末に再ログオンすると有効になります。

IEASYMxx parmlib メンバに定義する

システム・ロガー・サービスを使用しない場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF (&YKLOGPT='SAM')
```

システム・ロガー・サービスを使用する場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF (&YKLOGPT='LOGR')
```

&YKLOGPT が省略されている場合、または誤った値が指定されている場合、LOGR が仮定されます。

(3) CLI コマンド実行ログの出力有無の指定方法

CLI コマンド実行ログを SYSLOG またはコンソールに出力するかどうかを設定するための指定例を示します。

YKSETENV コマンドで指定する

CLI コマンド実行ログを出力しない場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='SYSLOG=NO'
```

CLI コマンド実行ログを SYSLOG に出力する場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='SYSLOG=YES'
```

CLI コマンド実行ログをコンソールに出力する場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='SYSLOG=CONSOLE'
```

IEASYMxx parmlib メンバに定義する

CLI コマンド実行ログを出力しない場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF (&YKSYSLG='NO')
```

CLI コマンド実行ログを SYSLOG に出力する場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF (&YKSYSLG='YES')
```

CLI コマンド実行ログをコンソールに出力する場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF (&YKSYSLG='CONSOLE')
```

&YKSYSLSG が省略されている場合、または誤った値が指定されている場合、YES が仮定されます。

CLI コマンド実行ログをコンソールに出力する場合、CLI コマンド実行ログは、ROUTCODE=11 でコンソールに出力されます (YKZ910I および YKZ911I メッセージで出力されます)。そのため、CONSOLxx parmlib メンバで、CONSOLE ステートメントの ROUTCODE パラメタ、または HARDCOPY ステートメントの ROUTCODE パラメタに 11 を含めてください。

CLI コマンド実行ログ (YKZ910I および YKZ911I メッセージ) の ROUTCODE を 11 以外に変更したい場合、次のどちらかの手順を実施してください。

- MPFLSTxx で、YKZ910I または YKZ911I メッセージを対象とする USEREXIT を登録する。登録する USEREXIT で、YKZ910I および YKZ911I メッセージの ROUTCODE を、11 から変更したい値 (CONSOLxx parmlib メンバで ROUTCODE パラメタに含めている値) に変更する。
- WTO/WTOR Message Processing Facility Installation Exit (IEAVMXIT)を使用して、YKZ910I および YKZ911I メッセージの ROUTCODE を、11 から変更したい値 (CONSOLxx parmlib メンバで ROUTCODE パラメタに含めている値) に変更する。

BC Manager では、サンプルライブラリで、YKZ910I および YKZ911I メッセージの ROUTCODE を変更する出口ルーチンのサンプル (YKUSRXIT) を提供していますので、参照してください。



重要 複数のバージョンの BC Manager が混在する環境での CLI コマンド実行ログの出力については、「[D.7 CLI コマンド実行ログ採取指定 \(SYSLOG\)](#)」を参照してください。

(4) YKSETENV コマンドの形式

YKSETENV コマンドの形式について説明します。コマンドの記載形式については、「[付録 E. 文法説明で使用する記号](#)」を参照してください。

形式

```
START YKSETENV,  
PARM=' {YKCMDIF=[ホスト ID] |  
YKLCNSE=[プレフィックス 1] |  
YKLCNS2=[プレフィックス 2] |  
LOGPUT=[LOGR | SAM] |  
SYSLOG=[YES | CONSOLE | NO} [,...]'
```

機能

次の BC Manager 環境変数を設定します。

- ホスト ID
- ライセンス情報データセットのプレフィックス
- BCM ログの出力方法
- CLI コマンド実行ログを SYSLOG またはコンソールに出力するかどうか

パラメタ

YKCMDIF=[ホスト ID] ~<2 けたの 16 進数>((00~1F))

ホスト ID には、ホスト (OS) 単位でユニークな値を指定します。

ホスト ID の指定値は、IEASYMXX parmlib メンバの &YKCMDIF システム・シンボルよりも優先されます。ホスト ID を省略 (PARM='YKCMDIF=' と指定) して、このコマンドを実行した場合は、ホスト ID として &YKCMDIF システム・シンボルの値が適用されます。

YKLCNSE=[プレフィックス 1] ~<8 文字以内の英数字>

ライセンス情報データセット名がユニークになるように、ライセンス情報データセットのプレフィックス 1 を指定します。プレフィックス 1 を省略する場合は、PARM='YKLCNSE=' と指定します。

ライセンス情報データセットのプレフィックス 1 については、「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(5) ライセンス情報データセットの名称」を参照してください。

YKLCNS2=[プレフィックス 2] ~<8 文字以内の英数字>

ライセンス情報データセット名がユニークになるように、ライセンス情報データセットのプレフィックス 2 を指定します。プレフィックス 2 を省略する場合は、
PARM='YKLCNS2='と指定します。

ライセンス情報データセットのプレフィックス 2 については、「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(5) ライセンス情報データセットの名称」を参照してください。

LOGPUT=[LOGR | SAM]

BCM ログを出力する場合に、システム・ロガー・サービスを使用するかどうかを指定します。

LOGPUT パラメタの指定値は、IEASYMX parmlib メンバの&YKLOGPT システム・シンボルよりも優先されます。LOGPUT パラメタの指定を省略 (PARM='LOGPUT='と指定) して、このコマンドを実行した場合は、LOGPUT パラメタの指定値として&YKLOGPT システム・シンボルの値が適用されます。

LOGR : システム・ロガー・サービスを使用して BCM ログを出力します。

SAM : 順次・データセットに BCM ログを出力します。

SYSLOG=[YES | CONSOLE | NO]

CLI コマンド実行ログを SYSLOG またはコンソールに出力するかどうかを指定します。

SYSLOG パラメタの指定値は、IEASYMX parmlib メンバの&YKSYSLG システム・シンボルよりも優先されます。SYSLOG パラメタ指定を省略 (PARM='SYSLOG='と指定) して、このコマンドを実行した場合は、SYSLOG パラメタの指定値として&YKSYSLG システム・シンボルの値が適用されます。

YES : CLI コマンド実行ログを SYSLOG に出力します。

CONSOLE : CLI コマンド実行ログをコンソールに出力します。

NO : CLI コマンド実行ログを出力しません。

CLI コマンド実行ログを採取するコマンドについては、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。



重要 複数のバージョンの BC Manager が混在する環境での CLI コマンド実行ログの出力については、「[D.7 CLI コマンド実行ログ採取指定 \(SYSLOG\)](#)」を参照してください。

リターンコード

表 2-13 YKSETENV コマンドのリターンコード一覧

リターンコード	意味
0	正常終了しました。
4	指定値にエラーがあります。それ以外の指定値は実行しました。
8	指定値にエラーがあります。処理を中止しました。
12	システムエラー (GETMAIN エラーなど) が発生したため、処理を中止しました。
16	内部エラーが発生しました。



重要 パラメタは、PARM に指定できる長さで複数指定できます。重複するパラメタが指定された場合には、あとに指定された方が有効になります。

(5) YKDSPENV コマンドの形式

YKDSPENV コマンドの形式について説明します。コマンドの記載形式については、「[付録 E. 文法説明で使用する記号](#)」を参照してください。

形式

```
START YKDSPENV  
[, PARM='[SUMMARY | DETAIL]']
```

機能

プログラムプロダクトの名称、および BC Manager 環境変数を OS コンソールに表示します。

パラメタ

SUMMARY

プログラムプロダクトの名称、および BC Manager 環境変数の値を表示します。

DETAIL

プログラムプロダクトの名称、BC Manager 環境変数の値、YKSETENV コマンドで動的に設定した値、およびシステム・シンボルで静的に設定した値を表示します。

リターンコード

表 2-14 YKDSPENV コマンドのリターンコード一覧

リターンコード	意味
0	正常終了しました。
4	指定値に誤りがあります。SUMMARY を仮定して実行しました。

YKDSPENV コマンドの実行例を次に示します。実行例中の *version* の部分は、バージョンによって異なります。

実行例 1

```
START YKDSPENV  
YKT403I Hitachi Business Continuity Manager  
YKT400I BC Manager environment variables (version)  
YKT401I Host ID: 00  
YKT401I License info DSN prefix: HITACHI  
YKT401I BCM log output method: LOGR  
YKT401I CLI log output settings: YES
```

実行例 2

```
START YKDSPENV,PARM='DETAIL'  
YKT403I Hitachi Business Continuity Manager  
YKT400I BC Manager environment variables (version)  
YKT401I Host ID: 01  
YKT401I License info DSN prefix: HTC1.BCM  
YKT401I BCM log output method: SAM  
YKT401I CLI log output settings: NO  
YKT402I YKCMDIF = 01      (&YKCMDIF = "00"      )  
YKT402I YKLCNSE = HTC1    (&YKLCNSE = N/A     )  
YKT402I YKLCNS2 = BCM     (&YKLCNS2 = N/A     )  
YKT402I LOGPUT  = SAM     (&YKLOGPT = "LOGR"   )  
YKT402I SYSLOG  = NO      (&YKSYSLOG = "YES"    )
```

2.4.10 ライセンスの登録

ライセンスを登録すると、登録したライセンスに対応する機能が使用できるようになります。

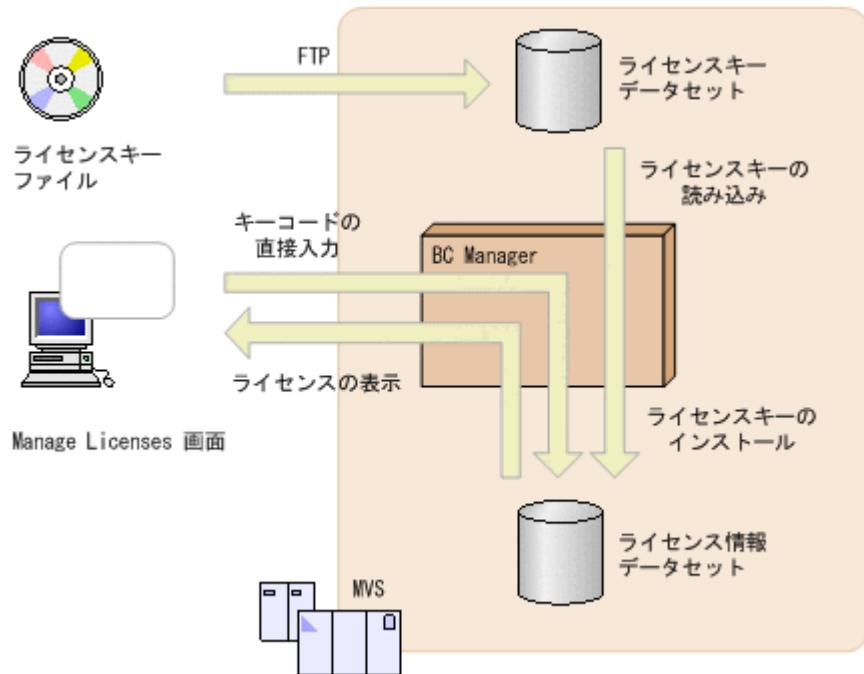
ライセンスを登録するには、次のどちらかの方法で、ライセンスキーやライセンス情報データセットにインストールします。

- ・ ライセンスキーファイル※を使用する。
- ・ キーコードを直接入力する。

注※ ライセンスキーファイルは、日立から提供されるテキストファイルです。

ライセンス登録の概要を次の図に示します。

図 2-2 ライセンス登録の概要



(1) ライセンスキーファイルを使用して登録する

入手したライセンスキーファイルを MVS にファイル転送し、Manage Licenses 画面を操作してライセンスを登録する方法です。

操作手順を次に示します。手順の説明に出てくる画面については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

1. ライセンス情報データセットを作成する。
ライセンス情報データセットの属性は「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(4) ライセンス情報データセットの形式」を、ライセンス情報データセット名称は「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(5) ライセンス情報データセットの名称」を参照してください。
2. ライセンスキーファイルをホストに転送する。
ライセンスキーファイルを MVS のデータセット（ライセンスキーデータセットと呼びます）に次の形式でファイル転送します。
 - ASCII モード
 - コード変換あり（EBCDIC へ変換）
 ライセンスキーファイルを格納するライセンスキーデータセットは次の属性にしてください。
 - データセット形式：VB または FB の順次・データセット
 - レコード長：200 バイト以上
 - ブロック長：任意の値

ここでライセンスキーデータセット（データセット名：BCM.LICENSE.KEYSFROM.HITACHI）にファイル転送したと仮定します。

3. BC Manager を起動する。
4. Main Menu 画面を表示させ、[2 Manage Licenses] を選択する。
Manage Licenses 画面が表示されます。
5. Manage Licenses 画面の [License Key Dataset Name] にライセンスキーデータセット名（BCM.LICENSE.KEYSFROM.HITACHI）を入力して、Enter キーを押す。
ライセンスキーがライセンスキーファイルから読み込まれ、ライセンス情報データセットにインストールされます。
ライセンスキーが正しくインストールされると、YK9001I メッセージが出力されます。
6. ライセンスが正しく登録されていることを、Manage Licenses 画面で確認する。

(2) キーコードを直接入力して登録する

Manage Licenses 画面からキーコードを直接入力してライセンスを登録する方法です。

操作手順を次に示します。手順の説明に出てくる画面については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

1. ライセンス情報データセットを作成する。
ライセンス情報データセットの属性は「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(4) ライセンス情報データセットの形式」を、ライセンス情報データセット名称は「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の「(5) ライセンス情報データセットの名称」を参照してください。
2. BC Manager を起動する。
3. Main Menu 画面を表示させ、[2 Manage Licenses] を選択する。
Manage Licenses 画面が表示されます。
4. Manage Licenses 画面の [Key Code] にキーコードを入力して、Enter キーを押す。
入力したキーコードは、ライセンスキーとしてライセンス情報データセットにインストールされます。
ライセンスキーが正しくインストールされると、YK9001I メッセージが出力されます。
5. ライセンスが正しく登録されていることを、Manage Licenses 画面で確認する。

(3) ライセンスキーを操作するときの注意事項

ライセンスキーを操作するときの注意事項を次に示します。

- BC Manager 5.3 以前で入手したライセンスキーは使用できません。
- ライセンス情報データセットは削除しないでください。BC Manager を使用するときに必要で、削除すると BC Manager を使用できなくなります。
- ライセンス情報データセットをエディタなどで編集しないでください。BC Manager を使用できなくなることがあります。
- ライセンス情報データセットで入出力エラーが発生した場合、ライセンスキーがないものとして処理します。
- BC Manager 動作中に YKSETENV コマンドでライセンス情報データセット名称を設定・変更した場合、実行中の CLI コマンドは以前の設定値で実行されます。設定・変更したライセンス情報データセット名称は新たに YKLOAD コマンドを実行すると有効になります。
- ライセンスキーデータセット名称にハイフンは使用できません。
- ライセンス期限が 2042/9/17 を過ぎる一時ライセンスキーまたは緊急ライセンスキーは、インストールできません。

(4) ライセンス情報データセットの形式

ライセンス情報データセットの形式は、次のとおりです。

- ・ データセット形式：固定長レコード形式の順次・データセット
- ・ レコード長：80 バイト
- ・ ブロック長：80 バイトの倍数
- ・ 必要なアクセス権限：
 - ライセンスキーアイドをインストールするユーザ：WRITE 権限
 - 上記以外の BC Manager 操作ユーザ：READ 権限

次のジョブは、ライセンス情報データセットをアロケーションするサンプル JCL です。データセットプレフィックス (%PREFIX) および VOLSER (%VSN) はインストール環境に合わせて変更してください。

```
//ALLOC JOB job info
//*
//  SET PFX=%PREFIX      Data set prefix1
//  SET VSN=%VSN          VOLSER
//*
//BR14    EXEC PGM=IEFBR14
//LICENSE DD DSN=&PFX..CCENTRAL.LICENSE,
//           UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//           SPACE=(TRK,(15)),
//           DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//           DISP=(,CATLG,DELETE)
```

(5) ライセンス情報データセットの名称

ライセンス情報データセットの名称は、次のようにになります。

プレフィックス1.プレフィックス2.CCENTRAL.LICENSE

ライセンス情報データセット名のプレフィックスは、プレフィックス1 および プレフィックス2 で形成されます。プレフィックス1 および プレフィックス2 は、1~8 文字で指定します。

プレフィックスは、次のどちらかの方法で指定します。

- ・ YKSETENV コマンドで BC Manager 環境変数 (YKLCNSE および YKLCNS2) に値を指定
- ・ IEASYMxx parmlib メンバの &YKLCNSE および &YKLCNS2 システム・シンボルに値を指定
指定値の優先順位は次のとおりです。

1. YKSETENV コマンドでの指定値
2. IEASYMxx parmlib メンバでの指定値
3. デフォルト値 (HITACHI)

IEASYMxx parmlib メンバに指定する方法はシステムの再 IPL が必要です。システム稼働中で再 IPL を実施できない場合は、YKSETENV コマンドで設定してください。



重要 YKSETENV コマンドを使用して BC Manager 環境変数を設定する場合、「[2.4.1 CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定](#)」を実行してください。

YKSETENV コマンドで指定する

YKSETENV コマンドを実行して BC Manager 環境変数 (YKLCNSE および YKLCNS2) を設定します。YKSETENV コマンドの記述形式については、「[\(4\) YKSETENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

ライセンス情報データセット名を HTC1.BCM.CCENTRAL.LICENSE にする場合の指定例を次に示します。

```
START YKSETENV, PARM='YKLCNSE=HTC1'  
START YKSETENV, PARM='YKLCNS2=BCM'
```

YKLCNSE が省略されている場合、&YKLCNSE システム・シンボルの値が使用されます。YKLCNS2 が省略されている場合、&YKLCNS2 システム・シンボルの値が使用されます。YKLCNS2 の値は、YKLCNSE か&YKLCNSE のどちらかに値が指定されている場合に有効になります。



重要 YKSETENV コマンドで登録した BC Manager 環境変数は再 IPL で無効（デフォルト値、または&YKLCNSE および&YKLCNS2 システム・シンボルの値）になります。次回の再 IPL に備えて、次のどちらかの設定をしておくことを推奨します。

- YKSETENV コマンドを COMMNDxx parmlib メンバに追加して、再 IPL 時に自動的に BC Manager 環境変数を再設定する。
- IEASYMxx parmlib メンバの&YKLCNSE および&YKLCNS2 システム・シンボルにプレフィックス値を定義し、次回 IPL から静的に登録されたプレフィックス値を使用する。

IEASYMxx parmlib メンバに定義する

IEASYMxx parmlib メンバに、&YKLCNSE および&YKLCNS2 システム・シンボルを定義します。定義後、再 IPL して設定を反映させます。

ライセンス情報データセット名を HTC1.BCM.CCENTRAL.LICENSE にする場合の指定例を次に示します。

```
SYMDEF(&YKLCNSE='HTC1')  
SYMDEF(&YKLCNS2='BCM')
```

&YKLCNSE が省略されている場合、HITACHI が仮定されます。&YKLCNS2 が省略されている場合、&YKLCNSE だけが使用されます。&YKLCNS2 は、&YKLCNSE が指定されている場合だけ有効になります。

YKSETENV コマンドまたは IEASYMxx parmlib メンバでの指定状況と、ライセンス情報データセット名のプレフィックスの関係を次の表に示します。

YKSETENV コマンド		IEASYMxx parmlib メンバ		プレフィックス
YKLCNSE	YKLCNS2	&YKLCNSE	&YKLCNS2	
○	○	○	○	YKLCNSE.YKLCNS2
○	○	○	—	YKLCNSE.YKLCNS2
○	○	—	○	YKLCNSE.YKLCNS2
○	—	○	○	YKLCNSE.&YKLCNS2
—	○	○	○	&YKLCNSE.YKLCNS2
○	○	—	—	YKLCNSE.YKLCNS2
○	—	○	—	YKLCNSE
○	—	—	○	YKLCNSE
—	○	○	—	&YKLCNSE.YKLCNS2
—	○	—	○	HITACHI
—	—	○	○	&YKLCNSE.&YKLCNS2

YKSETENV コマンド		IEASYMxx parmlib メンバ		プレフィックス
YKLCENSE	YKLCENS2	&YKLCENSE	&YKLCENS2	
○	—	—	—	YKLCENSE
—	○	—	—	HITACHI
—	—	○	—	&YKLCENSE
—	—	—	○	HITACHI
—	—	—	—	HITACHI

(凡例) ○ : 指定する — : 指定しない

2.4.11 インストールおよび環境設定後の検証手順

(1) インストールおよび環境設定が完了しているかどうかの確認方法

BC Manager のインストールおよび環境設定で完了していない作業があると、BC Manager を使用できません。インストールおよび環境設定が完了しているかどうかの確認方法には、次の 2 種類があります。

- YKINSCHK コマンドの実行結果を確認する
- Installation Verification Summary 画面に表示される内容を確認する

完了していない作業があった場合は、指示に従って完了していない作業を実施してください。

YKINSCHK コマンドの実行結果を DD 名 SYSTSPRT に出力する JCL 例を次に示します。ジョブがリターンコード 0 以外で終了した場合は、SYSTSPRT に出力された実行結果を確認してください。

```
//YKINSCHK JOB
//IEFPROC EXEC PGM=IKJEFT01,TIME=1440,REGION=4096K
//SYSTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSABEND DD SYSOUT=*
//STEPLIB  DD DISP=SHR,DSN=HDSYK.Vnnnnnn.HDSYLNKT
//SYSTSIN  DD *
YKINSCHK
/*
//
```

YKINSCHK コマンドおよび Installation Verification Summary 画面の出力項目の詳細については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

(2) 拡張アクセス制御機能をインストールしている場合のアクセス権限の確認方法

拡張アクセス制御機能をインストールしている場合に、RACF の FACILITY クラスのプロファイルの READ 権限が設定されていないと、コピーグループの操作または特定コマンドの実行ができません。どのプロファイルの READ 権限が設定されているか確認するには、サンプルスクリプト (HDSRFEP) を使用します。サンプルスクリプト (HDSRFEP) については、「[B.1 HDSRFEP \(拡張アクセス制御機能のアクセス権限参照\)](#)」を参照してください。

2.5 バージョンアップの手順

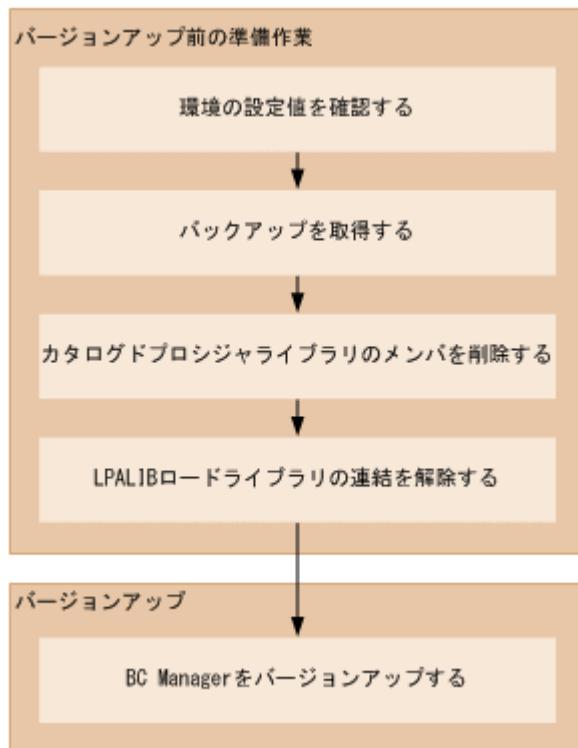
BC Manager をバージョンアップする手順について説明します。バージョンアップ時の注意事項については、「[付録 C. バージョンアップ時の注意事項](#)」を参照してください。

バージョンアップ作業の過程で同一システム内に複数のバージョンが混在する場合は、バージョンアップを開始する前に「[付録 D. バージョン混在時の注意事項](#)」を必ず確認してください。

2.5.1 バージョンアップの流れ

BC Manager のバージョンアップの流れを次の図に示します。

図 2-3 BC Manager のバージョンアップの流れ



2.5.2 環境の設定値の確認

次の表に示す BC Manager 環境変数およびシステムシンボルの設定値を、確認しておきます。

表 2-15 バージョンアップ前に確認する環境の設定値

環境変数	システム・シンボル名	内容
YKCMDIF	&YKCMDIF	ホスト ID
YKLCNSE	&YKLCNSE	ライセンス情報データセットのプレフィックス
YKLCNS2	&YKLCNS2	
LOGPUT	&YKLOGPT	BCM ログの出力方法
SYSLOG	&YKSYSLG	CLI コマンド実行ログを SYSLOG またはコンソールに出力するかどうか

移行前の BC Manager のバージョンが 5.1 以降の場合、BC Manager 環境変数の設定値は YKDSPENV コマンドで確認できます。YKDSPENV コマンドについては、「[\(5\) YKDSPENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

2.5.3 バックアップの取得

次のファイルのバックアップを取得します。

- ・ コピーグループ定義ファイル（プレフィックス.GRP.コピーグループID）
- ・ ディスク構成定義ファイル（プレフィックス.DSK.SNnnnnn.DADID）
- ・ ルートリスト定義ファイル（プレフィックス.ROUTE.ルートリストID）

- ・ コマンドデバイス定義ファイル（プレフィックス.*CDEV.DADID*）
- ・ パスセット定義ファイル（プレフィックス.*PATH.パスセットID*）
- ・ 移行前の BC Manager をインストールしたデータセット

Configuration ファイルのバックアップを取る場合でデータセット名を変更するときには、プレフィックス部分だけを変更してください。

Configuration ファイルには、コピーグループ ID, DADID, ルートリスト ID、およびパスセット ID が含まれます。このため、データセット名を変更するとファイルの整合性が取れなくなり、BC Manager が動作しなくなるおそれがあります。

Configuration ファイルの詳細については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

2.5.4 カタログドプロシジャライブラリのメンバを削除する

YKALCSVC メンバ、YKSETENV メンバ、および YKDSPENV メンバを、カタログドプロシジャライブラリからユーザの PROCLIB にコピーしている場合、それらのメンバを削除します。

2.5.5 ロードライブラリの連結解除

SETPROG LNKLST コマンドを使用して LINKLIB ロードライブラリを LNKLST に動的に連結をしている場合、SETPROG LNKLST コマンドを使用して、連結を解除します。

SETPROG LPA コマンドを使用して LPALIB ロードライブラリを LPALST に動的に連結している場合、SETPROG LPA コマンドを使用して、連結を解除します。

2.5.6 BC Manager のバージョンアップ

「[2.1 インストールの流れ](#)」に従って、移行後の BC Manager をインストールします。

移行前のバージョンのライセンスが使用でき、かつ追加するライセンスがない場合、「[2.4.10 ライセンスの登録](#)」の実施は不要です。

2.5.7 バージョンアップ後の確認

移行後のバージョンの BC Manager をインストールしたあとで、「[2.5.2 環境の設定値の確認](#)」で確認した内容と、バージョンアップ後の内容が一致していることを確認します。

2.6 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの手順

z/OSMF ワークフローを使用したインストールの手順を説明します。

2.6.1 z/OSMF ワークフローによるインストールの概要

z/OS Management Facility (z/OSMF)のワークフローを使用して、Web ブラウザベースで BC Manager をインストールできます。

z/OSMF ワークフローを使用したインストールでは、z/OS File System (zFS)上のディレクトリおよび z/OS データセットプレフィックスを指定して、インストール用データセットの作成および環境設定を行います。そのため、z/OSMF ワークフローを使用したインストールを実行するには、RACF の設定が必要です。実施する項目ごとに必要な権限を次の表に示します。

表 2-16 z/OSMF ワークフローを使用したインストール時に必要な権限

実施項目	権限	リソース
共通	すべての z/OSMF コア機能の実行権限※1	—
SMP/E を使用したインストール	ALTER アクセス権限	<ul style="list-style-type: none"> 指定した zFS パス※2 指定した z/OS プレフィックス※2
	READ アクセス権限	次の RACF FACILITY クラス用プロファイル <ul style="list-style-type: none"> GIM.CMD.RECEIVE GIM.CMD.APPLY GIM.CMD.ACCEPT
	SMP/E ゾーンの排他制御を伴う更新アクセス権限	<ul style="list-style-type: none"> グローバル・ゾーン SMPPTS データセット ターゲット・ゾーン DLIB1 ゾーン
簡易インストール	ALTER アクセス権限	<ul style="list-style-type: none"> 指定した zFS パス※2 指定した z/OS プレフィックス※2
動的環境設定	SPECIAL ユーザー属性	RACF ユーザー・プロファイル
	UPDATE アクセス権限	次の RACF OPERCMDS クラス用プロファイル <ul style="list-style-type: none"> MVS.ACTIVATE MVS.DEACTIVATE MVS.DISPLAY MVS.MCSOPER.コンソール名※3 MVS.SETPROG MVS.START.STC.YKALCSVC MVS.START.STC.YKSETENV
	READ アクセス権限	RACF TSOAUTH リソース・クラス用プロファイル <ul style="list-style-type: none"> CONSOLE
	UPDATE アクセス権限※4	次の RACF FACILITY クラス用プロファイル (libname : 対象ライブラリ名) <ul style="list-style-type: none"> CSVAPF.libname
	UPDATE アクセス権限	SYS1.PROCLIB または指定 PROCLIB
	ALTER アクセス権限	SYS1.PARMLIB または指定 PARMLIB
	関連付け (STDATA セグメントへの指定)	次の RACF STARTED クラス用プロファイル <ul style="list-style-type: none"> YKALCSVC YKSETENV
	READ アクセス権限	指定ライセンスキーデータセット※5
静的環境設定	SPECIAL ユーザー属性	—
	ALTER アクセス権限	SYS1.PARMLIB または指定 PARMLIB
	UPDATE アクセス権限	SYS1.PROCLIB または指定 PROCLIB
	READ アクセス権限	指定ライセンスキーデータセット※5

注※1 IZUSEC ジョブを実行して作成される IZUUSER グループにインストール実行ユーザのユーザ ID を接続することで、インストール実行ユーザにすべての z/OSMF コア機能の実行権限を付与できます。詳細については、IBM マニュアル「z/OS Management Facility Configuration Guide」を参照してください。

注※2 指定した zFS パス、および指定したプレフィックスに対し、次のとおりディレクトリを作成します。「Vnnnnnnn」の「nnnnnn」部分は、バージョンによって異なります。

- zFS 上 : zFS パス/プレフィックス.Vnnnnnnn.の下にファイルを作成します。

- z/OS 上 : プレフィックス.Vnnnnnnn.の下にデータセットを作成します。

注※3 コンソール名は TSO ユーザ ID の末尾に「C」を付けたものです。

注※4 対象のエンティティーを保護する FACILITY クラス・プロファイルが定義されている場合に必要です。

注※5 ライセンスキーファイルを使用したライセンス登録を実施する場合に必要です。



参考 各プロファイル名には総称名を使用できます。

2.6.2 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの流れ

z/OSMF ワークフローを使用したインストールの流れを次の図に示します。

図 2-4 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの流れ



2.6.3 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの準備

z/OSMF ワークフローを実行するための準備手順を次に示します。

- インストール CD-ROM で提供されている次のファイルを PC にコピーします。
 - BC Manager のオブジェクトアーカイブ
 - z/OSMF テンプレート
- 実行したい z/OSMF テンプレートを選択します。
z/OSMF テンプレートの内容については「[2.6.4 z/OSMF テンプレートの概要](#)」を参照してください。
- BC Manager のオブジェクトアーカイブおよび z/OSMF テンプレートを PC から zFS に転送します。
BC Manager のオブジェクトアーカイブおよび選択した z/OSMF テンプレートを、 zFS 上の任意のディレクトリにバイナリ転送します。

4. 変数ファイルを作成します。

PC 上で z/OSMF テンプレートの変数ファイルを作成し、ユーザの環境に合わせて変数値を設定します。変数ファイルの作成については「[2.6.5 z/OSMF ワークフロー変数ファイルの作成](#)」を参照してください。

5. 変数ファイルを PC から zFS に転送します。

作成した変数ファイルを、zFS 上の任意のディレクトリに ASCII モードで転送します。

2.6.4 z/OSMF テンプレートの概要

z/OSMF テンプレートからワークフローを作成して実行できる項目を次の表に示します。

表 2-17 z/OSMF テンプレートから作成したワークフローで実行できる項目

テンプレート名	項目	参照先
YKWFSMPE	SMP/E を使用したインストールを実行します（拡張アクセス制御機能を除く）。	(1)
YKWF SMP1	拡張アクセス制御機能のコピーグループアクセス制御機能をインストールします。	(2)
YKWF SMP2	拡張アクセス制御機能の特定コマンドアクセス制御機能をインストールします。	(2)
YKWF SMPN	簡易インストール（SMP/E を使用しないインストール）を実行します。	(3)
YKWF SUPD	動的手順による環境設定を実行します。	(4)
YKWF SUPS	静的手順による環境設定を実行します。	(4)

(1) SMP/E を使用したインストールを実行するテンプレート

SMP/E を使用して BC Manager をインストールするには、YKWF SMPE テンプレートから作成したワークフローを実行します。

YKWF SMPE テンプレートの処理概要を次の表に示します。

表 2-18 YKWF SMPE テンプレートの処理概要

ステップ	処理概要	自動/手動
1	格納先データセットを作成します。	自動
2	インストールの準備で zFS 上に転送した BC Manager のオブジェクトアーカイブを格納先データセットにコピーします。	自動
3	BC Manager のオブジェクトアーカイブに対して、TSO/E RECEIVE を実行して、提供データセットを抽出します。	自動
4	SMP/E データセットをアロケートします。	自動
5	配布ライブラリとターゲットライブラリをアロケートします。	自動
6	配布ライブラリとターゲットライブラリを定義します。	自動
7	SMP/E RECEIVE 処理を実行します。	自動
8	ターゲットライブラリの作成をチェックします。	自動
9	ターゲットライブラリを作成します。	手動※
10	配布ライブラリの作成をチェックします。	手動※
11	配布ライブラリを作成します。	手動※

注※ z/OSMF 画面に表示されるメッセージに従い、前のステップが正常終了したことを確認してからステップを手動で実行してください。

(2) 拡張アクセス制御機能のインストールを実行するテンプレート

拡張アクセス制御機能をインストールする場合は、次のテンプレートから作成したワークフローを実行します。

- YKWF SMP1
コピーグループアクセス制御機能をインストールします。
- YKWF SMP2
特定コマンドアクセス制御機能をインストールします。

YKWF SMP1 テンプレートおよび YKWF SMP2 テンプレートの処理概要を次に示します。

表 2-19 YKWF SMP1 および YKWF SMP2 テンプレートの処理概要

ステップ	処理概要	自動/手動
1	拡張アクセス制御用の格納先データセットを作成します。	自動
2	インストールの準備で zFS 上に転送した BC Manager のオブジェクトアーカイブを格納先データセットにコピーします。	自動
3	BC Manager のオブジェクトアーカイブに対して、TSO/E RECEIVE を実行して、提供データセットを抽出します。	自動
4	拡張アクセス制御用 SMP/E RECEIVE 処理を実行します。	自動
5	拡張アクセス制御用ターゲットライブラリの作成をチェックします。	自動
6	拡張アクセス制御用ターゲットライブラリを作成します。	手動※
7	拡張アクセス制御用配布ライブラリの作成をチェックします。	手動※
8	拡張アクセス制御用配布ライブラリを作成します。	手動※

注※ z/OSMF 画面に表示されるメッセージに従い、前のステップが正常終了したことを確認してからステップを手動実行してください。

(3) 簡易インストール(SMP/E を使用しないインストール)を実行するテンプレート

BC Manager の簡易インストールをするには、YKWF SMPN テンプレートから作成したワークフローを実行します。

YKWF SMPN テンプレートの処理概要を次の表に示します。

表 2-20 YKWF SMPN テンプレートの処理概要

ステップ	処理概要	自動/手動
1	格納先データセットを作成します。	自動
2	インストールの準備で zFS 上に転送した BC Manager のオブジェクトアーカイブを格納データセットにコピーします。	自動
3	BC Manager のオブジェクトアーカイブに対して、TSO/E RECEIVE を実行して、提供データセットを抽出します。	自動
4	ターゲットライブラリをアロケートし、ターゲットライブラリに提供データセットをコピーします。	自動

(4) 環境設定を実行するテンプレート

BC Manager の環境設定は次のどちらかのテンプレートを使用したワークフローを実行します。

- YKWF SUPD
動的手順による環境設定を実施します。

• YKWFSUPS

静的手順による環境設定を実施します。

環境設定の詳細は、「[2.4 環境設定の手順](#)」を参照してください。

YKWFSUPD テンプレートの処理概要を次の表に示します。

表 2-21 YKWFSUPD テンプレートの処理概要

ステップ	処理概要	自動/手動
1	SETPROG LNKLST コマンドで、LINKLIB 用ロードライブラリ※1 を動的に LNKLST に連結します。	自動
2	SETPROG APF,ADD コマンドで、LINKLIB 用ロードライブラリ※1 を動的に APF 認可登録します。	自動
3	YKCONMSG コマンドを IKJTSQXX parmlib メンバ内の AUTHCMD セクションに登録します。	自動
4	YKWPROC メンバ、YKALCSVC メンバ、YKSETENV メンバ、および YKDSPENV メンバを、カタログドプロシージャライブラリ※1 からユーザの PROCLIB にコピーします。	自動
5	次のプロファイルを RACF の FACILITY クラスに定義し、プロファイルの READ 権限をステップ実行ユーザに設定します。 <ul style="list-style-type: none">• STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS• STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY	自動
6	YKALCSVC コマンドでユーザ SVC を動的に登録します。	自動
7	YKSETENV コマンドで BC Manager 環境変数を動的に設定します。	自動
8	ライセンスキーファイル※2 またはライセンスキーコードを使用したライセンスの登録を実行します。	自動
9	<ul style="list-style-type: none">• インストール済みライセンス情報を表示します。• YKENV コマンドで BC Manager 環境変数の設定値を表示します。• YKINSCHK コマンドでインストールおよび環境設定の検証処理を実行します。	自動
10	画面表示にしたがって、BC Manager で ISPF 画面を利用するための設定を実行します。	手動
11	画面表示にしたがって、コピーグループのアクセス保護機能を使用するための設定を実行します。	手動
12	画面表示にしたがって、YKFENCE コマンドのアクセス制御機能の設定を実行します。	手動

注※1 ライブライアリ名のサフィックスはデフォルトでターゲットライブライアリ（表 2-4 ターゲットライブライアリの DASD ストレージ属性を参照）の DD 名が設定されます。

注※2 ライセンスキーファイルを使用してライセンスを登録する場合は、ワークフロー実行前に「[\(1\) ライセンスキーファイルを使用して登録する](#)」の手順 2 を参照してライセンスキーデータセットを作成してください。

YKWFSUPS テンプレートの処理概要を次の表に示します。

表 2-22 YKWFSUPS テンプレートの処理概要

ステップ	処理概要	自動/手動
1	PROGXX parmlib メンバを使用して、LINKLIB 用ロードライブラリ※1 を LNKLST へ静的に連結します。	自動

ステップ	処理概要	自動/手動
2	PROGxx parmlib メンバを使用して、LINKLIB 用ロードライブラリ※1 を静的に APF 認可登録します。	自動
3	YKCONMSG コマンドを IKJTSQxx parmlib メンバ内の AUTHCMD セクションに登録します。	自動
4	YKWPROC メンバ、YKALCSVC メンバ、YKSETENV メンバ、および YKDSPENV メンバを、カタログドロシジャライブラリ※1 からユーザの PROCLIB にコピーします。	自動
5	次のプロファイルを RACF の FACILITY クラスに定義し、プロファイルの READ 権限をステップ実行ユーザに設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS • STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY 	自動
6	LPALSTxx parmlib メンバを使用して、LPALIB 用ロードライブラリ※1 を LPALST へ静的に連結します。	自動
7	IEASVCxx parmlib メンバを使用して、ユーザ SVC を静的に登録します。	自動
8	IEASYMxx parmlib メンバを使用して、環境変数を静的に設定します。	自動
9	再 IPL を実行し、設定を反映させます。	手動
10	ライセンスキーファイル※2 またはライセンスキーコードを使用したライセンスの登録を実行します。	自動
11	<ul style="list-style-type: none"> • インストール済みライセンス情報を表示します。 • YKENV コマンドで BC Manager 環境変数の設定値を表示します。 • YKINSCHK コマンドでインストールおよび環境設定の検証処理を実行します。 	自動
12	画面表示にしたがって、BC Manager で ISPF 画面を利用するための設定を実行します。	手動
13	画面表示にしたがって、コピーグループのアクセス保護機能を使用するための設定を実行します。	手動
14	画面表示にしたがって、YKFENCE コマンドのアクセス制御機能の設定を実行します。	手動

注※1 ライブラリ名のサフィックスはデフォルトでターゲットライブラリ（表 2-4 ターゲットライブラリの DASD ストレージ属性を参照）の DD 名が設定されます。

注※2 ライセンスキーファイルを使用してライセンスを登録する場合は、ワークフロー実行前に「(1) ライセンスキーファイルを使用して登録する」の手順 2 を参照してライセンスキーデータセットを作成してください。

2.6.5 z/OSMF ワークフロー変数ファイルの作成

z/OSMF テンプレートで使用する変数ファイルについて説明します。変数ファイルでは、z/OSMF ワークフローの実行に必要なユーザのインストール環境情報を指定します。z/OSMF 変数定義ファイルの詳細については、IBM マニュアル「*z/OS Management Facility Programming Guide*」を参照してください。

(1) YKWFSMPE, YKWF SMP1, および YKWF SMP2 テンプレート変数

形式

[XDIR=zFS パス名]
 [XPFX=プレフィックス]
 XVSN=ボリュームシリアル番号
 [PFX=プレフィックス]
 VSN=ボリュームシリアル番号

TVSN=ボリュームシリアル番号
DVSN=ボリュームシリアル番号

パラメタ

XDIR=zFS パス名～<zFS パス文字列><<.>>

zFS 上に転送した BC Manager のオブジェクトアーカイブの転送先ディレクトリのパス名を指定します。

XPFX=プレフィックス～<PREFIX 文字列><<HITACHI>>

BC Manager のオブジェクトアーカイブの格納先データセット名のプレフィックスを指定します。

XVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

BC Manager のオブジェクトアーカイブの格納先データセットを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

PFX=プレフィックス～<PREFIX 文字列><<HDSYK>>

SMP/E データセット名、ターゲットライブラリ名、および配布ライブラリ名のプレフィックスを指定します。

VSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

SMP/E データセットを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

TVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

ターゲットライブラリを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

DVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

配布ライブラリを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

(2) YKWFSMPN テンプレート変数

形式

[XDIR=zFS パス名]

[XPFX=プレフィックス]

XVSN=ボリュームシリアル番号

[PFX=プレフィックス]

TVSN=ボリュームシリアル番号

パラメタ

XDIR=zFS パス名～<zFS パス文字列><<.>>

zFS 上に転送した BC Manager のオブジェクトアーカイブの転送先ディレクトリパスを指定します。

XPFX=プレフィックス～<PREFIX 文字列><<HITACHI>>

BC Manager のオブジェクトアーカイブの格納先データセット名のプレフィックスを指定します。

XVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

BC Manager のオブジェクトアーカイブの格納先データセットを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

PFX=プレフィックス～<PREFIX 文字列><<HDSYK>>

ターゲットライブラリ名のプレフィックスを指定します。

TVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

ターゲットライブラリを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

(3) YKWFSUPD テンプレート変数

形式

```
[OLDVRM=VRM]
[PFX=プレフィックス]
[BCMLINK=ライブラリ名のサフィックス]
[BCMPROC=ライブラリ名のサフィックス]
[BCMEXEC=ライブラリ名のサフィックス]
[TMPLNKL=メンバID]
[INMBTSO=メンバID]
[OUTMBTSO=メンバID]
[YKSVCNO=SVC 番号]
[PROCDSN=データセット名]
[PARMDSN=データセット名]
[HOSTID=ホストID]
[LPFX=プレフィックス1[,プレフィックス2]]
[LINFVSN=ボリュームシリアル番号]
[{:LICKDS=ライセンスキーデータセット名 | LICKYC=キーコード}]
[LOGPUT={LOGR|SAM}]
[SYSLOG={YES|CONSOLE|NO}]
```

パラメタ

OLDVRM=VRM

インストール済の BC Manager のバージョンを指定します。このパラメタはバージョンアップの場合にだけ指定してください。

このパラメタを指定すると、次のライブラリを参照して、インストール済の BC Manager の環境設定の解除を実施します。

プレフィックス.OLDVRM パラメタ値.ライブラリ名のサフィックス

VRM の形式は次のとおりです。

Vvvrrmm

vv～<2 けたの数字> ((00～99))

バージョン番号を指定します。

rr～<2 けたの数字> ((00～99))

リリース番号を指定します。

mm～<2 けたの数字> ((00～99))

MOD 番号を指定します。

PFX=プレフィックス～<PREFIX 文字列><<HDSYK>>

ターゲットライブラリ名、および配布ライブラリ名のプレフィックスを指定します。

BCMLINK=ライブラリ名のサフィックス～<記号名称><<HDSYLNKT>>

LINKLIB 用ロードライブラリ名のサフィックスを指定します。

BCMPROC=ライブラリ名のサフィックス～<記号名称><<HDSYPRCT>>

カタログドプロシージャライブラリ名のサフィックスを指定します。

BCMEXEC=ライブラリ名のサフィックス～<記号名称><<HDSYEXET>>

REXX Exec ライブラリ名のサフィックスを指定します。

TMPLNKL=メンバID～<メンバ名文字列>

一時的に定義する LNKLSTXX parmlib のメンバ名の末尾 2 けたの ID を指定します。現在アクティブな LNKLSTXX とは異なる ID を指定してください。

INMBTSO=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな IKJTSQXX parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、 YKCONMSG コマンドの登録処理は実行されずに、 IKJTSQXX パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMBTSO=メンバ ID～<メンバ名文字列>

YKCONMSG コマンドの登録時に作成または更新する IKJTSQXX parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。 INMBTSO パラメタを指定して OUTMBTSO パラメタを省略した場合、 YKCONMSG コマンドの登録処理は実行されずに、変更後の IKJTSQXX パラメタの内容が output されます。

YKSVCNO=SVC 番号～<3 けたの数字>((200～255))

YKALCSVC コマンドに指定する SVC 番号を指定します。このパラメタを省略した場合、 YKALCSVC コマンドの PARM パラメタ以降を省略して実行します。 詳細は「[\(2\) YKALCSVC コマンドでの登録](#)」を参照してください。

PROCDSN=データセット名～<<SYS1.PROCLIB>>

PROCLIB データセット名を指定します。

PARMDSN=データセット名～<<SYS1.PARMLIB>>

PARMLIB データセット名を指定します。

HOSTID=ホスト ID～<2 けたの 16 進数>((00～1F))

YKSETENV コマンドの YKCMDIF パラメタに指定するホスト ID を指定します。このパラメタを省略した場合、 YKCMDIF パラメタを指定した YKSETENV コマンドを実行しません。 詳細は「[\(4\) YKSETENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

LPFX=プレフィックス 1 [.プレフィックス 2] ～<PREFIX 文字列>

YKSETENV コマンドの YKLCNSE パラメタおよび YKLCNS2 パラメタに指定するライセンス情報データセットのプレフィックス 1 およびプレフィックス 2 を指定します。このパラメタを省略した場合、 YKLCNSE パラメタおよび YKLCNS2 パラメタを指定した YKSETENV コマンドを実行しません。 プレフィックス 2 を省略した場合、 YKLCNS2 パラメタを指定した YKSETENV コマンドを実行しません。 詳細は「[\(4\) YKSETENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

LINFVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

ライセンス情報データセットを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

LICKDS=ライセンスキーデータセット名

ライセンスキーデータセット名を指定します。 LICKYC パラメタと同時に指定した場合、 LICKDS パラメタが優先されます。 LICKDS パラメタおよび LICKYC パラメタのどちらも省略した場合、 ライセンスキーエントリが実行されません。

LICKYC=キーコード～<75 けたの英数字>

ライセンスキーキーのキーコードを指定します。 LICKDS パラメタと同時に指定した場合、 LICKDS パラメタが優先されます。 LICKYC パラメタと LICKDS パラメタのどちらも省略した場合、 ライセンスキーエントリが実行されません。

LOGPUT={LOGR | SAM}

YKSETENV コマンドの LOGPUT パラメタに指定するシステム・ロガー・サービスの使用の有無を指定します。このパラメタを省略した場合、 LOGPUT パラメタを指定した YKSETENV コマンドを実行しません。 詳細は「[\(4\) YKSETENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

SYSLOG={ YES | CONSOLE | NO }

YKSETENV コマンドの SYSLOG パラメタに指定する CLI コマンド実行ログの出力有無を指定します。このパラメタを省略した場合、SYSLOG パラメタを指定した YKSETENV コマンドを実行しません。詳細は「[\(4\) YKSETENV コマンドの形式](#)」を参照してください。

(4) YKWFSUPS テンプレート変数

形式

```
[OLDVRM=VRM]
[PFX=プレフィックス]
[BCMLINK=ライブラリ名のサフィックス]
[BCMPROC=ライブラリ名のサフィックス]
[BCMEXEC=ライブラリ名のサフィックス]
[INMBLNK=メンバ ID]
[OUTMBLNK=メンバ ID]
[INMBAPF=メンバ ID]
[OUTMBAPF=メンバ ID]
[INMBLPA=メンバ ID]
[OUTMBLPA=メンバ ID]
[INMBTSO=メンバ ID]
[OUTMBTSO=メンバ ID]
[INMB SVC=メンバ ID]
[OUTMB SVC=メンバ ID]
YKSVCNO=SVC 番号
[PROCDSN=データセット名]
[PARMDSN=データセット名]
[INMBSYM=メンバ ID]
[OUTMBSYM=メンバ ID]
[HOSTID=ホスト ID]
[LPREFIX=プレフィックス1 [.プレフィックス2]]
[LINFVSN=ボリュームシリアル番号]
[ {LICKDS=ライセンスキーデータセット名 | LICKYC=キーコード} ]
[LOGPUT={LOGR | SAM}]
[SYSLOG={ YES | CONSOLE | NO }]
```

パラメタ

OLDVRM=VRM

インストール済の BC Manager のバージョンを指定します。このパラメタはバージョンアップの場合にだけ指定してください。

このパラメタを指定すると、次のライブラリを参照して、インストール済の BC Manager の環境設定の解除を実施します。

プレフィックス.OLDVRM パラメタ値.ライブラリ名のサフィックス
VRM の形式は次のとおりです。

Vvvrrrmm

vv～<2 けたの数字> ((00～99))

バージョン番号を指定します。

rr～<2 けたの数字> ((00～99))

リリース番号を指定します。

mm～<2 けたの数字> ((00～99))

MOD 番号を指定します。

PFX=プレフィックス～<PREFIX 文字列><<HDSYK>>

ターゲットライブラリ名、および配布ライブラリ名のプレフィックスを指定します。

BCMLINK=ライブラリ名のサフィックス～<記号名称><<HDSYLNKT>>

LINKLIB 用ロードライブラリ名のサフィックスを指定します。

BCMPROC=ライブラリ名のサフィックス～<記号名称><<HDSYPRCT>>

カタログドプロシージュライブラリ名のサフィックスを指定します。

BCMEXEC=ライブラリ名のサフィックス～<記号名称><<HDSYEXET>>

REXX Exec ライブラリ名のサフィックスを指定します。

INMBLNK=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな PROGxx parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、LNKLST 連結処理は実行されずに、PROGxx パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMBLNK=メンバ ID～<メンバ名文字列>

LNKLST 連結時に作成または更新する PROGxx parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。INMBLNK パラメタを指定して OUTMBLNK パラメタを省略した場合、LNKLST 連結は実行されずに、変更後の PROGxx パラメタの内容が出力されます。

INMBAPF=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな PROGxx parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、APF 認可登録は実行されずに、PROGxx パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMBAPF=メンバ ID～<メンバ名文字列>

APF 認可登録時に作成または更新する PROGxx parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。INMBAPF パラメタを指定して、OUTMBAPF パラメタを省略した場合、メンバは作成または更新されずに、変更後の PROGxx パラメタの内容が出力されます。

INMBLPA=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな LPALSTxx parmlib のメンバ名の末尾 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、LPALST 連結処理は実行されずに、LPALSTxx パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMBLPA=メンバ ID～<メンバ名文字列>

LPALST 連結時に作成または更新する LPALSTxx parmlib のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。INMBLPA パラメタを指定して、OUTMBLPA パラメタを省略した場合、メンバは作成または更新されずに、変更後の LPALSTxx パラメタの内容が出力されます。

INMBTSO=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな IKJTSQxx parmlib のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、YKCONMSG コマンドの登録は実行されずに、IKJTSQxx パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMBTSO=メンバ ID～<メンバ名文字列>

YKCONMSG コマンドの登録時に作成または更新する IKJTSQxx のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、メンバが作成または更新されずに、変更後の IKJTSQxx パラメタの内容が出力されます。

INMB SVC=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな IEASVCxx parmlib のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、ユーザ SVC の登録は実行されずに、IEASVCxx パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMB SVC=メンバ ID～<メンバ名文字列>

ユーザ SVC 登録時に作成または更新する IEASVCxx parmlib のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、メンバは作成または更新されずに、変更後の IEASVCxx パラメタの内容が出力されます。

YKSVCNO=SVC 番号～<3 けたの数字>((200～255))

ユーザ SVC に割り当てる SVC 番号を指定します。詳細は「[2.4.8 ユーザ SVC の登録](#)」を参照してください。

PROCDSN=データセット名～<<SYS1.PROCLIB>>

PROCLIB データセット名を指定します。

PARMDSN=データセット名～<<SYS1.PARMLIB>>

PARMLIB データセット名を指定します。

INMBSYM=メンバ ID～<メンバ名文字列>

現在アクティブな IEASYMxx parmlib のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、環境変数は設定されずに、IEASYMxx パラメタに追加するレコードが出力されます。

OUTMBSYM=メンバ ID～<メンバ名文字列>

環境変数設定時に作成または更新する IEASYMxx parmlib のメンバ名の末尾の 2 けたを指定します。このパラメタを省略した場合、メンバは作成または更新されずに、変更後の IEASYMxx パラメタの内容が出力されます。

HOSTID=ホスト ID～<2 けたの 16 進数>((00～1F))

&YKCMDIF システム・シンボルに設定するホスト ID を指定します。このパラメタを省略した場合、&YKCMDIF システム・シンボルの値は更新されません。詳細は「[2.4.9 BC Manager 環境変数の設定](#)」を参照してください。

LPFX=プレフィックス 1 [.プレフィックス 2] ～<PREFIX 文字列>

&YKLCNSE および&YKLCNS2 システム・シンボルに設定するライセンス情報データセットのプレフィックス 1 およびプレフィックス 2 を指定します。このパラメタを省略した場合、&YKLCNSE および&YKLCNS2 システム・シンボルの値は更新されません。プレフィックス 2 を省略した場合、&YKLCNS2 システム・シンボルの値は更新されません。詳細は「[2.4.9 BC Manager 環境変数の設定](#)」を参照してください。

LINFVSN=ボリュームシリアル番号～<1～6 文字の英数字>

ライセンス情報データセットを割り当てるボリュームシリアル番号を指定します。

LICKDS=ライセンスキーデータセット名

ライセンスキーデータセット名を指定します。LICKYC パラメタと同時に指定した場合、LICKDS パラメタが優先されます。LICKDS パラメタと LICKYC パラメタのどちらも省略した場合、ライセンスキーは登録されません。

LICKYC=キーコード～<75 けたの英数字>

ライセンスキーのキーコードを指定します。LICKDS パラメタと同時に指定した場合、LICKDS パラメタが優先されます。LICKDS パラメタと LICKYC パラメタのどちらも省略した場合、ライセンスキーは登録されません。

LOGPUT={ LOGR | SAM }

&YKLOGPT システム・シンボルに設定するシステム・ロガー・サービスの使用の有無を指定します。このパラメタを省略した場合、&YKLOGPT システム・シンボルの値は更新されません。詳細は「[2.4.9 BC Manager 環境変数の設定](#)」を参照してください。

SYSLOG={ YES | CONSOLE | NO }

&YKSYSLG システム・シンボルに設定する CLI コマンド実行ログの出力の有無を指定します。このパラメタを省略した場合、&YKSYSLG システム・シンボルの値は更新されません。詳細は「[2.4.9 BC Manager 環境変数の設定](#)」を参照してください。

2.6.6 z/OSMF ワークフローを使用したインストールの実行

z/OSMF ワークフローを実行する手順を次に示します。

1. z/OSMF ワークフローを作成します。

Web ブラウザから z/OSMF にログインし、z/OSMF テンプレートと変数ファイルの格納先ディレクトリを指定してワークフローを作成します。

ワークフロー作成の詳細については、IBM マニュアル「*z/OS Management Facility Configuration Guide*」を参照してください。

2. z/OSMF ワークフローを実行します。

ワークフロー・ステップを割り当て、ワークフローを実行します。

2.7 YGBTSCAN を REXX スクリプトから実行する場合の注意事項

YGBTSCAN を REXX スクリプトから実行する場合は、IKJTSQxx parmlib メンバ内の AUTHPGM セクションに YGBTSCAN を登録しないでください。

2.8 BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョン

BC Manager の各バージョンの前提となるユーザ SVC のバージョンを次の表に示します。

表 2-23 BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョン

BC Manager のバージョン	前提となるユーザ SVC のバージョン
9.3.0～9.5.0	9.3.0 以降
8.6.0～9.1.0	8.4.1 以降
7.5.0～8.5.4	7.5.0 以降
7.4.0	7.4.0 以降
6.7.0～7.3.0	6.7.0 以降
6.6.1	6.6.1 以降
6.3.0～6.6.0	6.3.0 以降
6.2.0	6.2.0 以降
06-10	06-10 以降
06-00	06-00 以降
05-06	05-06 以降
05-05	05-05 以降
05-03	05-03 以降
05-02	05-02 以降
05-01	05-01 以降
05-00	05-00 以降
04-02	04-02 以降

BC Manager のバージョン	前提となるユーザ SVC のバージョン
04-01	04-01 以降
04-00	04-00 以降
03-00	03-00 以降

Replication Manager と連携する場合の環境設定

この章では、Replication Manager と連携する場合に必要な、ポート番号、セキュリティ、および IBM HTTP Server の設定方法と、初期設定パラメタおよび起動用カタログドプロシージャの作成方法について説明します。

- 3.1 環境設定の流れ
- 3.2 Configuration ファイル用データセットの作成
- 3.3 TCP/IP のポート番号の設定
- 3.4 セキュリティの設定（BC Manager エージェント）
- 3.5 IBM HTTP Server の設定
- 3.6 初期設定パラメタの作成
- 3.7 起動用カタログドプロシージャの作成（BC Manager エージェント）

3.1 環境設定の流れ

Replication Manager との連携に必要な環境設定について説明します。

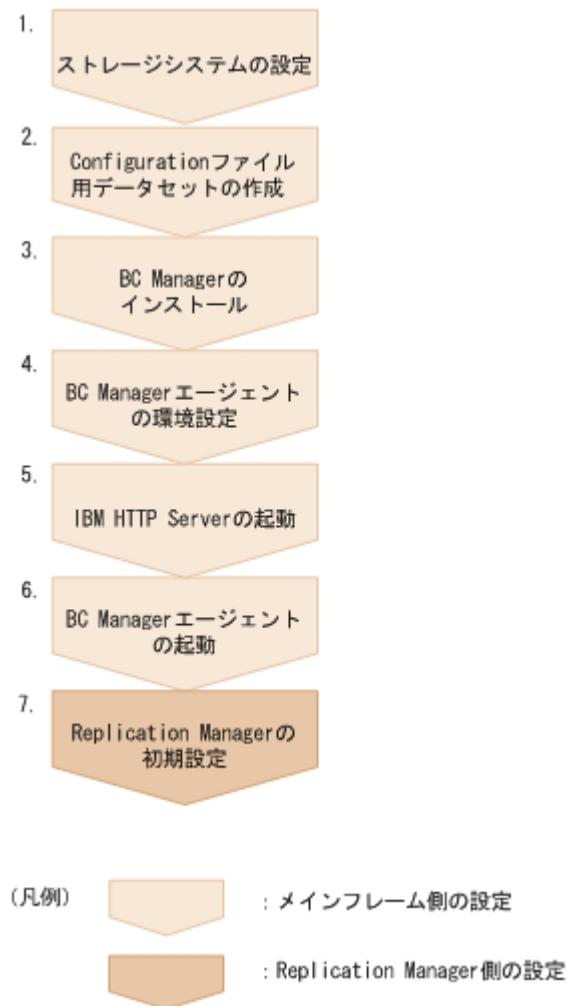
Replication Manager と BC Manager エージェントは HTTPS 通信ができます。HTTPS 通信する場合の設定方法については、「[3.5.2 HTTPS 通信するための設定](#)」を参照してください。

また、HTTPS 通信するために必要な IBM HTTP Server の設定方法については、IBM WebSphere Application Server インフォメーション・センターの IBM HTTP Server for WebSphere Application Server の製品情報を参照してください。

3.1.1 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用しない場合

BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用しない場合の環境設定の流れを次の図に示します。

図 3-1 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用しない場合の環境設定



1. ストレージシステムの設定をする。

マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

2. Configuration ファイル用データセットを作成する。

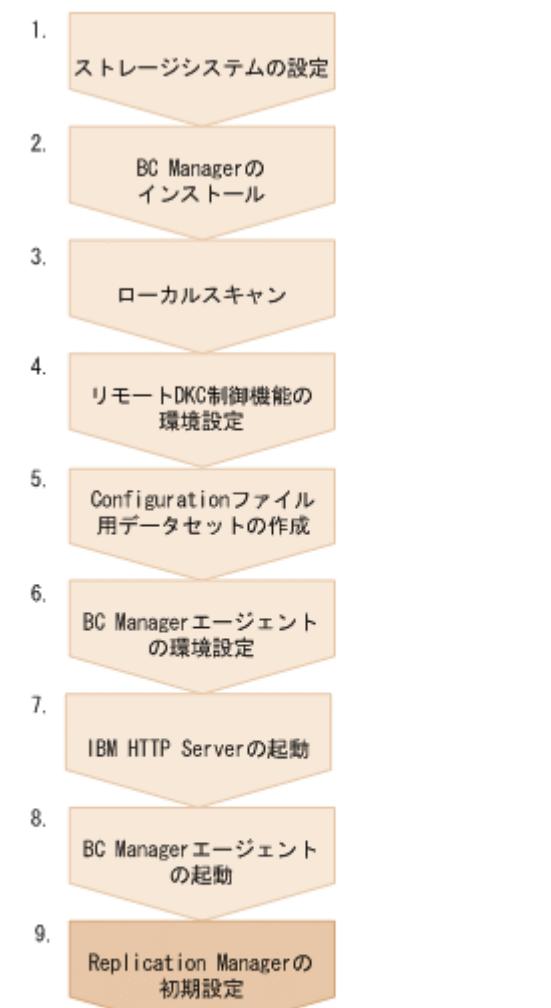
次の Configuration ファイル用データセットを作成します。

- ディスク構成定義ファイル
 - コピーグループ定義ファイル
- 「[3.2 Configuration ファイル用データセットの作成](#)」を参照してください。
3. BC Manager をインストールする。
「[2. インストール](#)」を参照してください。
 4. BC Manager エージェントの環境設定をする。
次の節を参照してください。
 - 「[3.3 TCP/IP のポート番号の設定](#)」
 - 「[3.4 セキュリティの設定 \(BC Manager エージェント\)](#)」
 - 「[3.5 IBM HTTP Server の設定](#)」
 - 「[3.6 初期設定パラメタの作成](#)」
 - 「[3.7 起動用カタログドプロシージャの作成 \(BC Manager エージェント\)](#)」
 5. IBM HTTP Server を起動する。
 6. BC Manager エージェントを起動する。
マニュアル『*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*』の Replication Manager との連携の章を参照してください。
 7. Replication Manager の初期設定をする。
マニュアル『*Replication Manager ユーザーズガイド*』を参照してください。

3.1.2 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用する場合

BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用する場合の環境設定の流れを次の図に示します。

図 3-2 BC Manager のインストール前で、リモート DKC 制御機能を使用する場合の環境設定



(凡例) : メインフレーム側の設定
 : Replication Manager側の設定

1. ストレージシステムの設定をする。

マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

2. BC Manager をインストールする。

「[2. インストール](#)」を参照してください。

3. ローカルスキャンをする。

ルートリスト定義に必要なディスク構成定義ファイルをローカルスキャンによって作成します。

マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」のローカルスキャンによるストレージシステム情報の取得についての説明を参照してください。

4. リモート DKC 制御機能の環境設定をする。

次の設定をします。

- ルートリストの定義
- コマンドデバイス登録

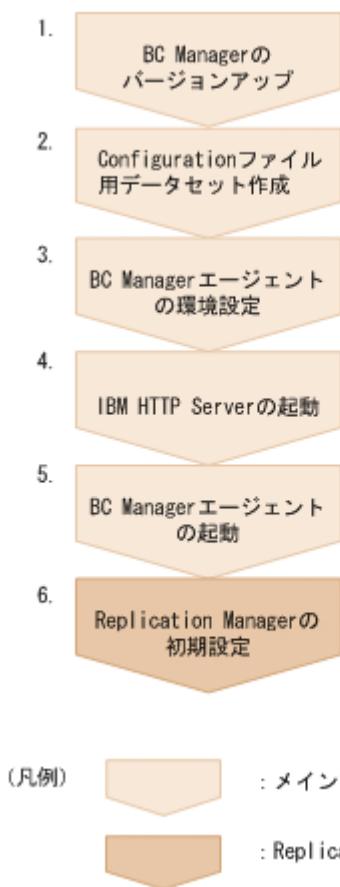
マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

5. Configuration ファイル用データセットを作成する。
次の Configuration ファイル用データセットを作成します。
 - ディスク構成定義ファイル
 - コピーグループ定義ファイル「[3.2 Configuration ファイル用データセットの作成](#)」を参照してください。
6. BC Manager エージェントの環境設定をする。
次の節を参照してください。
 - 「[3.3 TCP/IP のポート番号の設定](#)」
 - 「[3.4 セキュリティの設定 \(BC Manager エージェント\)](#)」
 - 「[3.5 IBM HTTP Server の設定](#)」
 - 「[3.6 初期設定パラメタの作成](#)」
 - 「[3.7 起動用カタログドロシージャの作成 \(BC Manager エージェント\)](#)」
7. IBM HTTP Server を起動する。
8. BC Manager エージェントを起動する。
マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の Replication Manager との連携の章を参照してください。
9. Replication Manager の初期設定をする。
マニュアル「*Replication Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

3.1.3 BC Manager のインストール後で、既存環境がある場合

BC Manager のインストール後で、既存環境がある（ストレージシステムの設定済みで、リモート DKC 制御機能を使用する場合にはその環境がある）場合の環境設定の流れを次の図に示します。

図 3-3 BC Manager のインストール後で、既存環境がある場合の環境設定



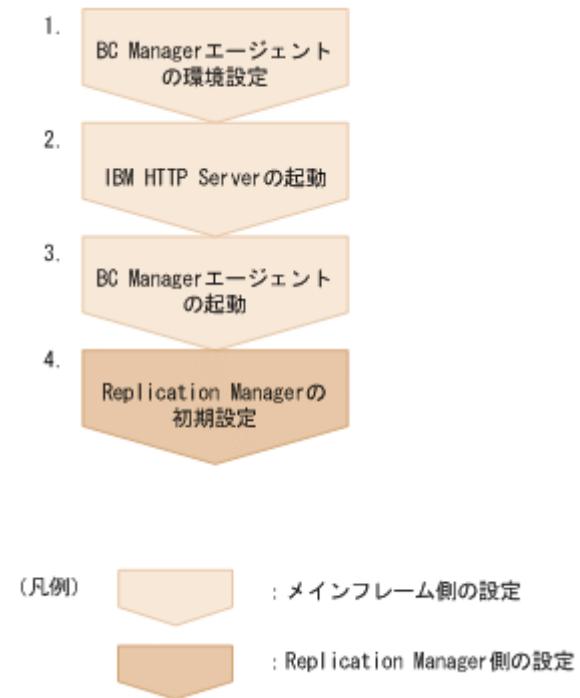
1. BC Manager のバージョンアップをする。
「[2.5 バージョンアップの手順](#)」を参照してください。
2. Configuration ファイル用データセットを作成する。
Replication Manager で新規にデバイススキャンおよびコピーグループ定義をする場合に必要です。
次の Configuration ファイル用データセットを作成します。
 - ディスク構成定義ファイル
 - コピーグループ定義ファイル「[3.2 Configuration ファイル用データセットの作成](#)」を参照してください。
3. BC Manager エージェントの環境設定をする。
次の節を参照してください。
 - 「[3.3 TCP/IP のポート番号の設定](#)」
 - 「[3.4 セキュリティの設定 \(BC Manager エージェント\)](#)」
 - 「[3.5 IBM HTTP Server の設定](#)」
 - 「[3.6 初期設定パラメタの作成](#)」
 - 「[3.7 起動用カタログドロシージャの作成 \(BC Manager エージェント\)](#)」
4. IBM HTTP Server を起動する。
5. BC Manager エージェントを起動する。
マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の Replication Manager との連携の章を参照してください。

6. Replication Manager の初期設定をする。
マニュアル「*Replication Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

3.1.4 コピーグループの監視だけをする場合

kopiegruープ定義やkopiegruープ操作を行わないで、既存の環境でkopiegruープの監視だけをする場合の環境設定の流れを次の図に示します。

図 3-4 コピーグループの監視だけをする場合の環境設定



1. BC Manager エージェントの環境設定をする。
次の節を参照してください。
 - 「3.3 TCP/IP のポート番号の設定」
 - 「3.4 セキュリティの設定 (BC Manager エージェント)」
 - 「3.5 IBM HTTP Server の設定」
 - 「3.6 初期設定パラメタの作成」
 - 「3.7 起動用カタログドロシジャの作成 (BC Manager エージェント)」
2. IBM HTTP Server を起動する。
3. BC Manager エージェントを起動する。
マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の Replication Manager との連携の章を参照してください。
4. Replication Manager の初期設定をする。
マニュアル「*Replication Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

3.1.5 PPRC コピーペアを監視する場合

Replication Manager から PPRC コピーペアを監視する場合、BC Manager エージェントの環境設定をする前に、BC Manager で PPRC コピーペアのkopiegruープ定義ファイルを作成しておきま

す。詳細は、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の PPRC コピーペアのコピーグループ定義生成についての説明を参照してください。

3.2 Configuration ファイル用データセットの作成

Replication Manager で作成する次の Configuration ファイル用に、データセットを作成しておく必要があります。作成したデータセットはカタログしてください。

- ・ ディスク構成定義ファイル
- ・ コピーグループ定義ファイル

各 Configuration ファイルが作成されるタイミングを次に示します。

- ・ ディスク構成定義ファイル：デバイススキャン時（例えば、ローカルスキャン、NG スキャン、リモートスキャンが実行された時）
- ・ コピーグループ定義ファイル：コピーグループ定義時

3.2.1 Configuration ファイルのデータセット名称

データセット名称を次に示します。

ディスク構成定義ファイル名

プレフィックス.DSK.SNnnnnn.DADID

コピーグループ定義ファイル名

プレフィックス.GRP.コピーグループ ID

可変部分に指定する値を次に示します。プレフィックスおよび DADID に指定する値と、BC Manager エージェントの初期設定パラメタ PREFIX に指定する値は、同じにしてください。

- ・ プレフィックス：Configuration ファイルのプレフィックス
25 文字以内のピリオドで結合される一つまたは複数の部分で構成される文字列で指定します。
各部分の文字列は、英大文字、数字で指定します。ただし、各部分の先頭文字は英大文字です。
各部分の長さは、1 文字から 8 文字です。
- ・ コピーグループ ID
ピリオドで結合される一つまたは複数の部分で構成される文字列で指定します。各部分の文字列は、英大文字、数字、または特殊文字 (\$, #, @) で指定します。ただし、各部分の先頭文字は、英大文字または特殊文字です。各部分の長さは、1 文字から 8 文字です。
指定できる最大長 = 44 - (5+プレフィックス長)
 - ・ nnnnnn : スキャンするストレージシステムのシリアル番号
 - ・ DADID : スキャンするストレージシステムの DADID次の値を指定します。
 - ローカルスキャン用に作成する場合：ローカルサイトの DADID
 - NG スキャン用に作成する場合：Non Gen'ed DADID
 - リモートスキャン用に作成する場合：リモートサイトの DADIDピリオドで結合される一つまたは複数の部分で構成される文字列で指定します。各部分の文字列は、英大文字、数字、または特殊文字 (\$, #, @) で指定します。ただし、各部分の先頭文字は、英大文字または特殊文字です。各部分の長さは、1 文字から 8 文字です。
指定できる最大長 = 44 - (13+プレフィックス長)

Replication Manager からディスク構成定義ファイルおよびコピーグループ定義ファイルを更新する際、一時ファイルが作成されます。更新が正常に終了すると、一時ファイルは削除されます。

一時ファイルと同じ名称となるデータセットは作成しないでください。一時ファイルの名称を次に示します。

ディスク構成定義ファイルの一時ファイル名

プレフィックス.TMP.SNnnnn.DADID

コピーグループ定義ファイルの一時ファイル名

プレフィックス.TMP.コピーグループID

3.2.2 Configuration ファイルのデータセット形式とディスク所要量

データセット形式およびディスク所要量については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」の Configuration ファイルのデータセット形式とディスク所要量についての説明を参照してください。



重要 ディスク容量を見積もる際には、バックアップファイルのほかに一時ファイルの容量を考慮し、ディスク所要量の 3 倍以上の容量を準備してください。

3.3 TCP/IP のポート番号の設定

Replication Manager と通信するためのポート番号を事前にシステムに予約しておきます。

BC Manager エージェントの起動ジョブに対して UNIX サービスの使用属性（受信用ポートの開設）を設定します。詳細は、IBM のマニュアル「*Communications Server IP 構成解説書*」を参照してください。

ポート番号は、TCP/IP 環境設定ファイル(PROFILE.TCPIP プロファイル)に設定します。

PROFILE.TCPIP プロファイルは、TCP/IP 利用空間のサーバ機能に関する定義ファイルです。

PROFILE.TCPIP プロファイルの PORT 定義には、BC Manager エージェント起動ジョブのメンバ名、または識別名を指定します。識別名については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の BC Manager エージェントの起動についての説明を参照してください。

YKAGENT ジョブのポート番号には、ほかのジョブが使用しているポート番号を指定できません。システム内で使用されていないポート番号を指定してください。

ポート番号の指定例

次のように指定すると、24042 がポート番号として設定されます。

```
24042 TCP YKAGENT ;YKAGENT START NAME
```



重要 BC Manager エージェントが必要とする IBM Communications Server (OS 標準搭載) のソケット数は 2 個です。IBM Communications Server が処理するほかのサービスのソケット数も考慮して、総ソケット数が IBM Communications Server の上限値を超えないように注意してください。IBM Communications Server のソケット数の上限値については、IBM のマニュアル「*Communications Server IP 構成ガイド*」を参照してください。

3.4 セキュリティの設定（BC Manager エージェント）

セキュリティの設定方法について説明します。

3.4.1 データセットセキュリティの設定

BC Manager エージェントが Replication Manager と連携する場合、BC Manager エージェントのジョブは BC Manager の Configuration ファイルを参照します。BC Manager エージェントのジョブが使用する Configuration ファイルへの READ 権限を、BC Manager エージェントのジョブに与えてください。READ 権限を与える Configuration ファイルの名称は、BC Manager の Set Defaults 画面で指定したプレフィックスを持つ次のデータセットです。

- ・ ディスク構成定義ファイル
- ・ コピーグループ定義ファイル
- ・ ルートリスト定義ファイル
- ・ コマンドデバイス定義ファイル

Replication Manager でコピーグループ定義を作成および更新する場合は、次のデータセットに対する WRITE 権限を BC Manager エージェントのジョブに与えてください。データセット名については、「[3.2 Configuration ファイル用データセットの作成](#)」を参照してください。

- ・ ディスク構成定義ファイル
- ・ コピーグループ定義ファイル
- ・ ディスク構成定義ファイルの一時ファイル
- ・ コピーグループ定義ファイルの一時ファイル

3.4.2 リソース・アクセス管理機能（RACF）の環境設定

BC Manager エージェントが通信機能を利用するため、RACF の環境設定をします。

UNIX サービスが使用できるよう、TSO/E から RACF コマンドを使用して、BC Manager エージェントの起動用カタログドプロシージャの RACF 「STARTED」 クラスへ OMVS セグメントが保持する管理ユーザ ID、および管理グループ ID を定義します。

TSO/E コマンドでの設定例

```
-> SETROPTS GENERIC (STARTED)
-> RDEFINE STARTED YKAGENT.* STDATA (USER(ユーザID) GROUP(グループID))
-> SETROPTS RACLIST (STARTED) REFRESH
```

BC Manager エージェントを起動できるよう、RACF の FACILITY クラスに次のどちらかのプロファイルを定義したあと、定義したプロファイルの READ 権限を管理ユーザ ID に与えます。

BC Manager エージェントに READ 権限を与えるプロファイルは、BC Manager エージェントを監視モードで起動させるか、更新モードで起動させるかによって異なります。BC Manager エージェントの起動モードについては、「[3.6 初期設定パラメタの作成](#)」を参照してください。

BC Manager エージェントを監視モードで起動させる場合、次のプロファイルに READ 権限を与えてください。

- ・ STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY プロファイル

BC Manager エージェントを更新モードで起動させる場合、次のプロファイルに READ 権限を与えてください。

- STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS プロファイル

TSO/E コマンドでの設定例

```
-> SETROPTS CLASSACT(FACILITY)
-> RDEFINE FACILITY STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY UACC(NONE)
-> PERMIT STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY CLASS(FACILITY) ID(ユーザID) ACCESS(READ)
```

詳細は、「[2.4.7 セキュリティの設定](#)」の「(1) 環境設定コマンドに対するセキュリティの設定」を参照してください。

3.5 IBM HTTP Server の設定

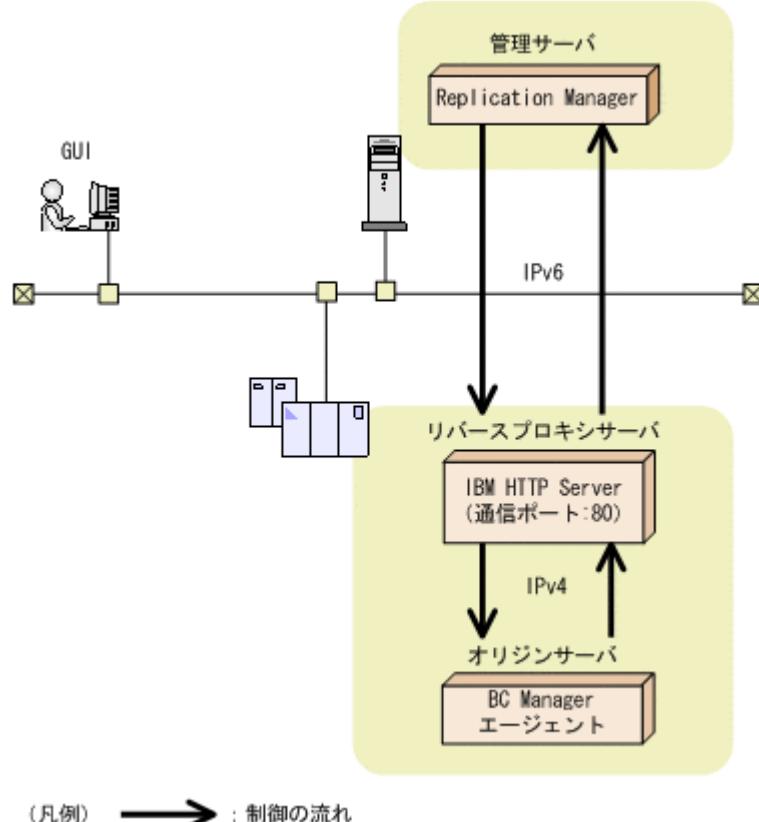
IPv6 接続または HTTPS 通信するための IBM HTTP Server の設定方法や、ログの採取方法について説明します。

3.5.1 IPv6 接続するための設定

Replication Manager と BC Manager エージェントが IPv6 で通信するためには、リバースプロキシサーバとして動作する IBM HTTP Server が必要です。リバースプロキシサーバは、Replication Manager から IPv6 で受信した要求を IPv4 に変換してから、オリジンサーバとしての BC Manager エージェントに渡します。

Replication Manager が、BC Manager エージェントと IPv6 接続する場合の構成例を次に示します。

図 3-5 Replication Manager と BC Manager エージェントが IPv6 接続する場合の構成例



IBM HTTP Server がリバースプロキシサーバとして動作するように設定するには、`httpd.conf` ファイルに次の表に示す設定をします。

表 3-1 IPv6 接続するときに `httpd.conf` ファイルに設定する内容

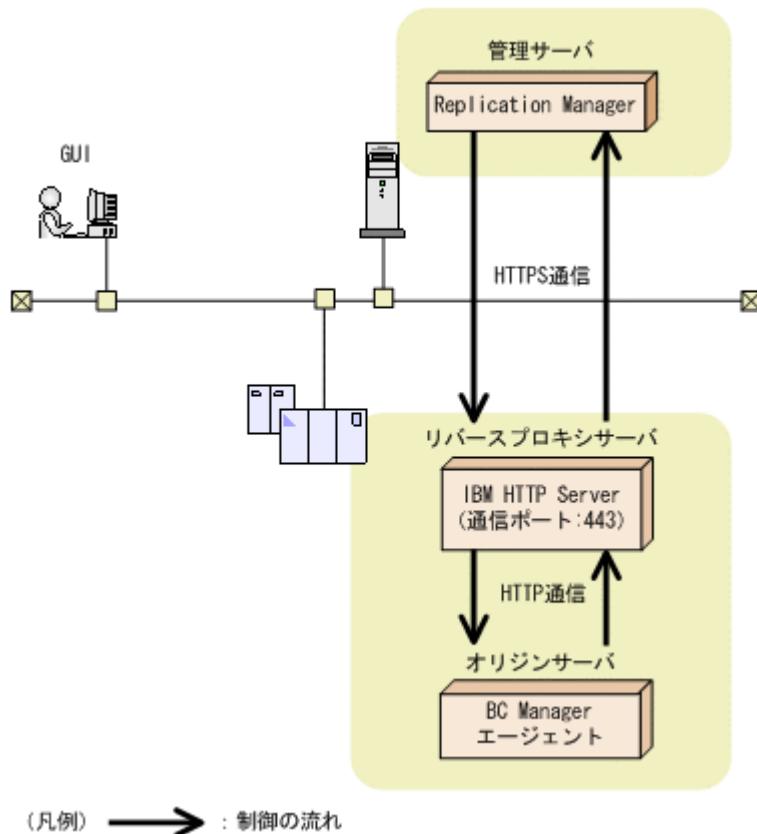
設定するディレクティブ	設定する内容または値
CacheDisable ディレクトティブなど	BC Manager エージェントに対する要求へのキャッシュ機能が無効になるように設定します。
KeepAlive ディレクトティブ	KeepAlive 機能を無効に設定します。
Listen ディレクティブ	IPv6 での待機ポートを、次のとおり設定します。ポート番号は変更できます。 <code>Listen [::]:80</code>
LoadModule ディレクトティブ	リバースプロキシ機能を有効にするため、次のモジュールをリストに追加します。 <code>proxy_module modules/mod_proxy.so</code> <code>proxy_http_module modules/mod_proxy_http.so</code>
ProxyPass ディレクトティブおよび ProxyPassReverse ディレクティブ	Replication Manager に対するオリジンサーバとして BC Manager エージェントを設定するために、次の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none">BC Manager エージェントが実行されているホストのホスト名または IPv4 アドレスBC Manager エージェントの初期設定時に PORT パラメタに指定したポート番号 <code>ProxyPass / http://ホスト名またはIPv4アドレス:ポート番号/</code> <code>ProxyPassReverse / http://ホスト名またはIPv4アドレス:ポート番号/</code>
Timeout ディレクトティブ	タイムアウトさせる時間を設定します。 Replication Manager の監視時間設定値 (<code>bcmif.socketTimeout</code>) よりも大きな値を指定します。

3.5.2 HTTPS 通信するための設定

Replication Manager と BC Manager エージェント間では、セキュリティ面を強化するために HTTPS (HTTP over SSL) で通信することができます。Replication Manager と BC Manager エージェントが HTTPS で通信するためには、リバースプロキシサーバとして動作する IBM HTTP Server が必要です。リバースプロキシサーバは、Replication Manager から HTTPS で要求を受信し、HTTP でオリジンサーバとしての BC Manager エージェントに渡します。また、Basic 認証で Replication Manager を認証することもできます。

Replication Manager と IBM HTTP Server が HTTPS 通信する場合の構成例を次に示します。

図 3-6 Replication Manager と IBM HTTP Server が HTTPS 通信する場合の構成例



IBM HTTP Server の設定には、IBM HTTP Server の設定ファイル (`httpd.conf` ファイル) を使用します。

Replication Manager と IBM HTTP Server がお互いに認証する際の方式を次の表に示します。

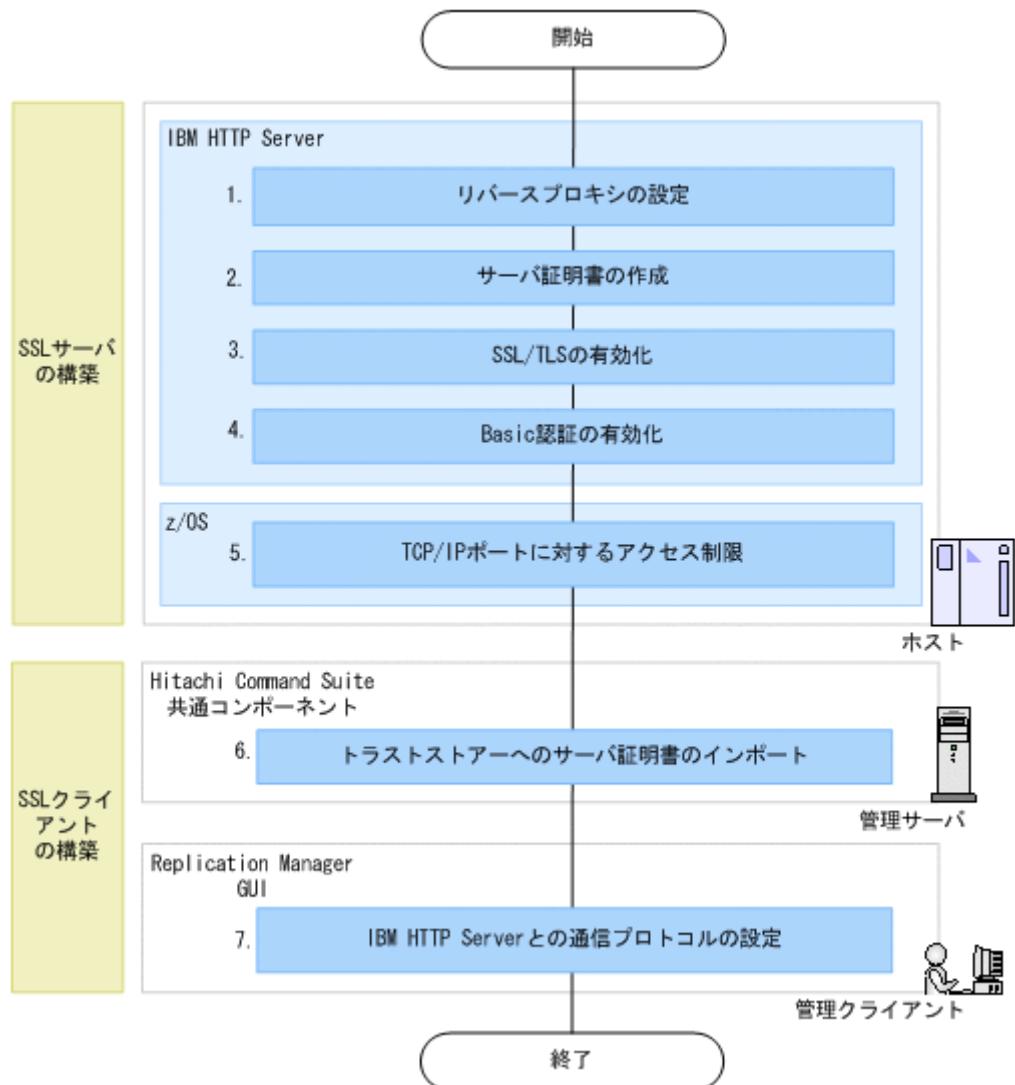
表 3-2 Replication Manager と IBM HTTP Server 間の認証方式

認証する側	認証される側	認証方式
Replication Manager	IBM HTTP Server	サーバ証明書 (SSL : Secure Socket Layer)
IBM HTTP Server	Replication Manager	Basic 認証 (HTTP)

なお、Replication Manager と IBM HTTP Server が HTTP 通信している場合は、Replication Manager は Basic 認証に必要な情報を送信しません。

HTTPS 通信するために必要な設定の流れを次の図に示します。この設定は、すべてのサイトで必要です。

図 3-7 HTTPS 通信するために必要な設定の流れ



Replication Manager と IBM HTTP Server が HTTPS 通信するための設定手順について説明します。「図 3-7 HTTPS 通信するために必要な設定の流れ」にある番号は、下記の手順の番号と一致しています。

1. IBM HTTP Server をリバースプロキシサーバとして動作させるため、`httpd.conf` ファイルに、次の表に示す設定をします。

表 3-3 リバースプロキシサーバを設定するための `httpd.conf` ファイルの内容

設定するディレクティブ	設定する内容または値
CacheDisable ディレクティブなど	BC Manager エージェントに対する要求へのキャッシュ機能を無効にする場合に設定します。
KeepAlive ディレクティブ	KeepAlive 機能を無効に設定します。
LoadModule ディレクティブ	次のモジュールをリストに追加します。 <code>proxy_module modules/mod_proxy.so</code> <code>proxy_http_module modules/mod_proxy_http.so</code>
Listen ディレクティブ	IBM HTTP Server の待機ポートを設定します。 ポート番号 443 を待機ポートにする場合、次のように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 の場合 : Listen 443 • IPv6 の場合 : Listen [::]:443

設定するディレクティブ	設定する内容または値
ProxyPass ディレクトイブおよび ProxyPassReverse ディレクトイブ	Replication Managerに対するオリジンサーバとして BC Manager エージェントを設定するために、次の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> BC Manager エージェントが実行されているホストのホスト名または IP アドレス BC Manager エージェントの初期設定時に PORT パラメタに指定したポート番号 ProxyPass / http://0.0.0.0:ポート番号/ ProxyPassReverse / http://0.0.0.0:ポート番号/
Timeout ディレクトイブ	送信についてのタイムアウト時間を設定します。 Replication Manager の監視時間設定値 (bcmif.socketTimeout) よりも大きな値を指定します。

2. サーバ証明書を作成します。
3. SSL/TLS を有効化します。
4. Basic 認証を有効化します。
 - (a) htpasswd コマンドを実行して、Replication Manager を認証するためのユーザ ID とパスワードを設定します。

htpasswd コマンドを実行すると、Basic 認証で Replication Manager を認証するためのユーザ ID とパスワードを管理するファイルが作成されます。

< htpasswd コマンドの実行例>

```
htpasswd /usr/local/apache/.htaccess ユーザ名
```
 - (b) 次の表を参照して、httpd.conf ファイルを編集します。

表 3-4 認証を設定するための httpd.conf ファイルの内容

設定するディレクティブ	設定する内容または値
AuthName ディレクトイブ	認証に使う領域を指定してください。
AuthType ディレクトイブ	ユーザ認証システムの種別を指定します。 Basic を指定してください。
AuthUserFile ディレクトイブ	htpasswd コマンドの実行によって作成された、ユーザ ID およびパスワードの管理ファイルがある場所を指定します。
Require ディレクトイブ	認証を許可するユーザを指定します。

5. BC Manager エージェントが使用する TCP/IP ポートに対するアクセスを制限します。
BC Manager エージェントと通信できるプログラムが IBM HTTP Server だけに制限されます。
6. トラストストア (jssecacerts) に IBM HTTP Server のサーバ証明書をインポートします。
7. IBM HTTP Server との通信プロトコルの設定をします。

手順の詳細については、次の情報を参照してください。

- 手順 1~4 (IBM HTTP Server での設定)
IBM WebSphere Application Server インフォメーション・センターの IBM HTTP Server for WebSphere Application Server の製品情報
- 手順 5 (z/OS での設定)

IBM のマニュアル 「*Communications Server IP 構成解説書*」

- 手順 6~7 (Hitachi Command Suite での設定)
マニュアル 「*Replication Manager システム構成ガイド*」

3.5.3 トレースログの採取

Replication Manager と IBM HTTP Server 間のエラーログやアクセスログは、IBM HTTP Server のログ機能を使って採取します。

IBM HTTP Server のログを採取するかどうかは、Web 管理者の指示に従ってください。ログを採取しない場合、アクセスエラー時の解析が困難になることがあるので注意してください。

3.6 初期設定パラメタの作成

この節では、BC Manager エージェントの起動に必要な環境を設定する初期設定パラメタの作成方法を説明します。インストール時にサンプルライブラリに登録される初期設定パラメタのサンプルのメンバは YKPRM00 です。環境に合わせて修正してください。

初期設定パラメタを格納するためのデータセットは、次の属性で作成してください。

- LRECL : 80
- BLKSIZE : 80 の倍数
- RECFM : 固定長レコードまたは固定長ブロックレコード
- DSORG : 順次・データセットまたは区分・データセット

3.6.1 SETINIT コマンドの使用方法

初期設定パラメタを設定する SETINIT コマンドの形式について説明します。コマンドの文法説明で使用する記号と構文要素については、「[付録 E. 文法説明で使用する記号](#)」を参照してください。

```
△0SETINIT [△1パラメタ] · · ·
```

SETINIT コマンドおよびパラメタは第 1 カラムから第 71 カラムに記述してください。第 72 カラム以降の内容は、指定しても無視されます。

SETINIT コマンドは複数指定できます。一つの SETINIT コマンドに複数の異なるパラメタを指定できますが、同一パラメタを複数指定することはできません。一つの SETINIT コマンドに同一パラメタを複数指定した場合は、最後に指定したパラメタが有効になります。

同一パラメタを複数指定するには、別々の SETINIT コマンドを使用してください。別々の SETINIT コマンドを使用した複数指定ができないパラメタを複数の SETINIT コマンドで指定した場合、最後の SETINIT コマンドで指定したパラメタが有効になります。

指定できるパラメタ、および別々の SETINIT コマンドを使用したパラメタの複数指定の可否については、「[3.6.2 初期設定パラメタの詳細](#)」を参照してください。

一つの SETINIT コマンドに同一パラメタを複数指定した例

一つの SETINIT コマンドに同一パラメタを複数指定すると、最後に指定したパラメタだけが有効になるため、例に示すような指定はしないでください。

次の例では、DEVN(7500,750F)だけが有効となり、DEVN(7300,730F)およびDEVN(7400,740F)は無効になります。

```
SETINIT DEVN(7300,730F) DEVN(7400,740F) DEVN(7500,750F)
```

別々の SETINIT コマンドを使用して同一パラメタを複数指定した例

- 別々の SETINIT コマンドを使用した複数指定ができるパラメタの場合
指定したすべてのパラメタが有効となります。
次のように指定すると、DEVN(7300,730F), DEVN(7400,740F), および DEVN(7500,750F)
が有効になります。

```
SETINIT DEVN(7300,730F)
SETINIT DEVN(7400,740F)
SETINIT DEVN(7500,750F)
```

- 別々の SETINIT コマンドを使用した複数指定ができないパラメタの場合
最後に指定したパラメタが有効となります。
次のように指定すると、RECVWAITTIME(180)が有効になります。

```
SETINIT RECVWAITTIME(65535)
SETINIT RECVWAITTIME(180)
```

(1) 行の継続方法

パラメタを次の行に継続するときは、行の最後に継続記号を付けます。継続記号の種類を次の表に示します。

表 3-5 継続記号の種類

継続記号	継続方法
マイナス記号 (-)	マイナス記号を取り除き、次の行の左端カラムから連続した空白を含んだまま継続します。
プラス記号 (+)	プラス記号を取り除き、次の行の左端カラムから連続した空白を詰めて継続します。

空白を含んだまま継続する例

```
SETINIT-
△△PREFIX('USER01.V1','NY')
```

上記のように継続記号としてマイナス記号 (-) を使用すると、次のように解釈されます。

```
SETINIT△△PREFIX('USER01.V1','NY')
```

空白を詰めて継続する例

```
SETINIT PREFIX('USER01.V1',+
△△'NY')
```

上記のように継続記号としてプラス記号 (+) を使用すると、次のように解釈されます。

```
SETINIT PREFIX('USER01.V1', 'NY')
```

(2) コメントの書き方

コメントしたい文字列を「/*」と「*/」で囲みます。ただし、パラメタを継続している間はコメントを記述できません。

コメントになる例

```
/* COMMENT */  
SETINIT PORT(24042)      /* COMMENT */
```

コメントにならない例

次のように指定すると、/* ERROR COMMENT */はコメントではなく、パラメタの一部と解釈されてしまいます。

```
SETINIT PREFIX(7300, + /* ERROR COMMENT */  
730F)
```

(3) 初期設定パラメタ作成時の注意事項

BC Manager エージェントの起動時、初期設定パラメタとして空のメンバを指定しないでください。空のメンバを指定してもエラーにはなりませんが、BC Manager エージェントは Replication Manager に対して情報を返すことができなくなります。

3.6.2 初期設定パラメタの詳細

初期設定パラメタの詳細について説明します。

(1) 形式

```
SETINIT  
[△_1PORT (ポート番号)]  
[△_1RECVWAITTIME (受信待ち時間)]  
[△_1HOSTNAME ('ホスト識別名')]  
[△_1PREFIX ('プレフィックス', 'ローカルサイトの DADID' [, 'ルートリスト ID [, {ルートラベル *} ]'] [, ['ローカルサイトの Non Gen'ed DADID'] [, 'リモートサイトの DADID']]])]  
[△_1DEVN (開始デバイス番号, 終了デバイス番号)]  
[△_1LOGLEVEL (出力レベル)]  
[△_1AUDITLOG (SYSLOG)]  
[△_1MODE (起動モード)]  
[△_1LOCK (排他モード)]
```

(2) パラメタ

PORT (ポート番号) ~ <数字> ((1~65535)) <<24042>>

Replication Manager との TCP/IP 通信に使用する BC Manager エージェント側のポート番号を指定します。ほかのジョブが使用しているポート番号は指定できません。システム内で使用されていないポート番号を指定してください。

RECVWAITTIME (受信待ち時間) ~ <数字> ((0~65535)) <<180>>

Replication Manager と TCP/IP 通信する場合、受信要求開始からデータを受信するまでの待ち時間を秒単位で指定します。ゼロを指定すると、BC Manager エージェントはデータを無限に待つようになります。

HOSTNAME ('ホスト識別名') ~ < 50 文字以内の英数字> <&SYSNAME システム・シンボルの指定値>>

Replication Manager が BC Manager エージェントを区別する必要がある場合に指定します。BC Manager エージェントが複数のホストで動作するとき、それらホストの HOSTNAME (ホスト識別名) が重複していると、Replication Manager は BC Manager エージェントが動作しているホストを識別できません。BC Manager エージェントが動作しているホストを Replication Manager が区別できるように、ホスト間で重複しない HOSTNAME を指定してください。

このパラメタを省略した場合、&SYSNAME システム・シンボルの指定値が仮定されます。&SYSNAME システム・シンボルについては、IBM のマニュアル「*MVS 初期設定およびチューニング解説書*」を参照してください。

BC Manager エージェントが複数のホストで動作し、&SYSNAME システム・シンボルの指定値がそれらのホスト間で重複している場合、Replication Manager がホストを区別できなくなります。&SYSNAME システム・シンボルの値が重複している場合は、HOSTNAME パラメタの値がホスト間で重複しないようにしてください。

PREFIX('プレフィックス', 'ローカルサイトの DADID' [, 'ルートリスト ID' [, {ルートラベル | *}]] [, ['ローカルサイトの Non Gen'ed DADID']] [, 'リモートサイトの DADID']]])

Replication Manager が BC Manager エージェントを操作する場合に、BC Manager が管理している Configuration ファイルのプレフィックスを指定します。

PREFIX パラメタは複数指定できます。Replication Manager と BC Manager エージェントが 1 対 1 の環境で、プレフィックスが異なる複数の Configuration ファイルに登録されたストレージ情報を取得する場合、複数の PREFIX パラメタを指定します。

プレフィックス ~ < 16 文字以内の PREFIX 文字列>

Replication Manager が使用する BC Manager の Configuration ファイルのプレフィックスを指定します。Configuration ファイル作成時に Set Defaults 画面の [Configuration File Prefix] に指定した値を指定します。Replication Manager は、ここで指定したプレフィックスを持つディスク構成定義ファイルおよびコピーグループ定義ファイルを使用できます。BC Manager の Set Defaults 画面については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

ローカルサイトの DADID ~ < 28 文字以内の DAD 文字列>

BC Manager エージェントが動作するローカルサイトの DADID を指定します。PPRC コピーペアを監視する場合は、PPRC コピーペアのコピーグループ定義ファイル作成時に Scan Copy Pair Inside Storage System 画面の [Device Address Domain, Primary] または [Device Address Domain, Secondary] に指定した値を指定します。BC Manager の Scan Copy Pair Inside Storage System 画面については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

PREFIX パラメタを複数指定する場合、すべてのローカルサイトの DADID に同じ DADID を指定することを推奨します。

注意：ローカルサイトの Non Gen'ed DADID またはリモートサイトの DADID を指定しないでください。

ルートリスト ID ~ < 8 文字以内の ROUTE 文字列>

リモート DKC 制御機能を使用する場合に、BC Manager エージェントが使用するルートリスト ID を指定します。

ルートリスト ID を指定しないと、リモート DKC 制御機能は使用できません。

{ルートラベル | *} ~ < 8 文字以内の ROUTELABEL 文字列>

ルートラベルを指定した場合は、指定したルートラベルの付いたコマンドデバイスが使用されます。

*を指定した場合は、ルートラベルが付いている、付いていないに関わらず、すべてのコマンドデバイスが使用されます。

ルートラベルと*のどちらも省略した場合は、ルートラベルの付いていないコマンドデバイスが使用されます。

ローカルサイトの Non Gen'ed DADID ~ < 28 文字以内の DAD 文字列>

BC Manager エージェントが動作するローカルサイトで使用する Non Gen'ed DADID を指定します。

ローカルサイトの Non Gen'ed DADID の指定を省略し、後続の値（リモートサイトの DADID）を指定する場合は、*を指定してください。

なお、ローカルサイトの Non Gen'ed DADID を指定しないと、Non Gen'ed ボリュームの情報は取得できません。



重要

- ローカルサイトの DADID またはリモートサイトの DADID を指定しないでください。
- PREFIX パラメタを複数指定する場合、すべてのローカルサイトの Non Gen'ed DADID に同じ DADID を指定してください。

リモートサイトの DADID ~ < 28 文字以内の DAD 文字列...>

BC Manager エージェントがリモートスキャンするリモートサイトの DADID を指定します。

複数指定する場合は、次の例のように DADID をコロン（:）で連結してください。

例：DAD1:DAD2:...

なお、リモートサイトの DADID を指定しないと、リモートサイトのボリューム情報は取得できません。



重要

- ローカルサイトの DADID またはローカルサイトの Non Gen'ed DADID を指定しないでください。
- ほかの BC Manager エージェントのローカルサイトとして使用されているサイトは、リモートサイトとして使用できません。



重要 PREFIX パラメタ指定時の注意事項を次に示します。

- PREFIX パラメタに存在しないプレフィックスや DADID を指定しないでください。指定した場合、BC Manager エージェントの起動時にはエラーになりませんが、Replication Manager からの要求時にエラーとなります。
- PREFIX パラメタに Configuration ファイルのプレフィックス以外を指定しないでください。指定されたプレフィックスに該当するデータセットが多数あった場合、BC Manager エージェントの処理が遅くなることがあります（例えば「SYS1」などのプレフィックス）。
- MODE (MONITOR) 指定時に同じプレフィックスを複数指定すると、Replication Manager の監視処理が遅くなることがあります。MODE (EDIT) 指定時は同じプレフィックスを複数指定するとエラーとなり、BC Manager エージェントを起動できません。
- PREFIX パラメタを複数指定すると、Replication Manager からの要求時に異なるプレフィックスごとに Configuration ファイルを切り替える時間が必要となります。そのため Configuration ファイルが多数ある場合には、Replication Manager からの要求・回答のアクセス時間を短くするために、Configuration ファイルのプレフィックスを集約して、PREFIX パラメタの指定を一つにすることを推奨します。
- PREFIX パラメタに指定したプレフィックスの Configuration ファイルは、ISPF 画面または Replication Manager から修正してください。ISPF 画面および Replication Manager 以外から修正

した場合は、Replication Manager で情報が表示されなかったり、エラーになったりすることがあります。

- Replication Manager からの要求・回答のアクセス時間は、指定したプレフィックスを持つコピーブループ定義ファイルに定義されているコピーペア数に応じて大きくなります。このため、環境（コピーペア数に応じたホスト処理能力）に合わせて Replication Manager の監視時間を設定してください。

DEVN(開始デバイス番号、終了デバイス番号) ~ <4けたの16進数>

Replication Manager に渡すホストボリュームの情報を絞り込みたいとき、情報収集の対象とするデバイス番号の範囲を指定します。開始デバイス番号と終了デバイス番号は16進数の昇順に指定します。DEVN パラメタを一度も指定しなかった場合は、DEVN(0000, FFFF)が仮定されます。



重要 DEVN パラメタ指定時の注意事項を次に示します。

- Replication Manager からの要求・回答のアクセス時間を短くするために情報収集の対象とするデバイスの範囲を指定した使用を推奨します。
- DEVN パラメタを複数指定する場合、重複するデバイスについては重複排除されません。重複がないように指定してください。

LOGLEVEL(出力レベル) ~ <数字> ((0~3)) <<2>>

ログの出力レベルを指定します。

0

ログが出力されません。0を指定すると、通信障害やBC Manager エージェントのコマンド実行時のエラー原因の特定が困難になります。

1

通信関連のメッセージ(YKY300I, YKY301I, YKY304I, YKY307I)が出力されます。

2

LOGLEVEL(1)指定で出力されるメッセージに加え、コピーペア構成およびコピーペア状態の更新要求時に発生したYKY680Iエラーメッセージ、およびConfigurationファイルの更新結果を示すYKY500Iメッセージが出力されます。

3

LOGLEVEL(2)で出力される情報に加え、BCM ログがお出力されます。

LOGLEVEL と出力されるメッセージを次の表に示します。

表 3-6 LOGLEVEL と出力されるメッセージ

LOGLEVEL	出力されるメッセージ
0	出力されない
1	YKY300I, YKY301I, YKY304I, YKY307I
2	YKY300I, YKY301I, YKY304I, YKY307I, YKY500I, YKY680I
3	YKY300I, YKY301I, YKY304I, YKY307I, YKY500I, YKY680I

AUDITLOG (SYSLOG)

監査ログを出力する場合に指定します。AUDITLOG パラメタを指定すると、次の追加情報が SYSLOG に出力されます。

- エラー終了した CLI コマンド名とリターンコード
 - 正常終了した CLI コマンド名とリターンコード（操作系コマンドの場合だけ）
- AUDITLOG パラメタを指定しない場合、監査ログは出力されません。

AUDITLOG パラメタを指定した場合は、LOGLEVEL(2)以上が指定されたものとして動作します。

MODE (起動モード) ~ ({EDIT | MONITOR}) <<MONITOR>>

BC Manager エージェントが動作するときの権限を指定します。

EDIT

コピーグループの定義、操作、および監視ができます。

MONITOR

コピーグループの監視ができます。

LOCK (排他モード) ~ ({PREFIX | CHECK | NONE}) <<PREFIX>>

Configuration ファイルの排他モードを指定します。LOCK パラメタは、MODE (EDIT) を指定したときだけ有効となります。MODE (MONITOR) を指定したときはエラーとなります。

PREFIX

BC Manager エージェントの起動時に、Prefix 単位で Configuration ファイルがロックされます。Configuration ファイルのロック中は、ほかのユーザが Configuration ファイルを更新することはできません。

CHECK

BC Manager エージェントが起動される際、Configuration ファイルはロックされません。BC Manager エージェントが定義を更新するときに、更新しようとしている Configuration ファイルがほかのユーザによって更新されていないかどうかがチェックされます。

NONE

BC Manager エージェントが起動される際、Configuration ファイルはロックされません。

(3) パラメタの複数指定

各初期設定パラメタを指定する際に、複数の SETINIT コマンドが使用された場合の結果を次の表に示します。

表 3-7 初期設定パラメタの複数指定の可否

パラメタ名	複数指定の結果
PORT	複数指定した場合、最後に指定したパラメタが有効になる。
RECVWAITTIME	
HOSTNAME	
PREFIX	複数指定できる。
DEVN	
LOGLEVEL	複数指定した場合、最後に指定したパラメタが有効になる。
AUDITLOG	
MODE	
LOCK	

3.6.3 初期設定パラメタの指定例

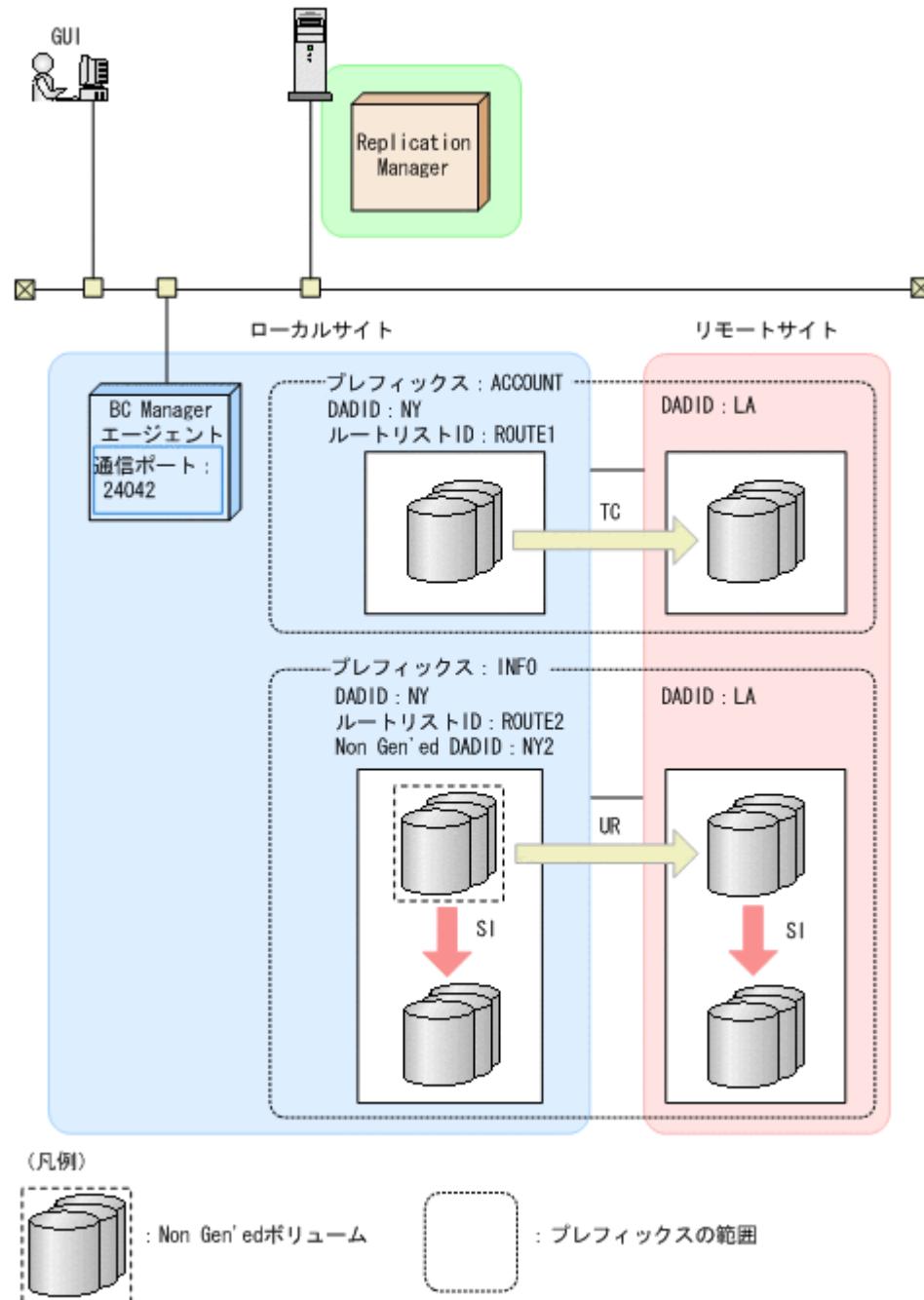
Replication Manager と接続する際の初期設定パラメタの指定例を示します。

(1) BC Manager エージェントがローカルサイトだけにある場合

BC Manager エージェントがローカルサイトだけにある場合、ローカルサイトの BC Manager エージェントが、ローカルスキャンおよびリモートスキャンの両方を実施できるように設定します。

次の構成例を使用して、指定方法を説明します。

図 3-8 BC Manager エージェントがローカルサイトだけにある場合の構成例



「図 3-8 BC Manager エージェントがローカルサイトだけにある場合の構成例」の構成で、ローカルサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続するためには、次の表に示す値を指定します。

表 3-8 ローカルサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続する場合の指定内容

プレフィックス	ローカルサイト				リモートサイト
	ポート番号	DADID	ルートリスト ID (正方向)	Non Gen'ed DADID	
ACCOUNT	24042	NY	ROUTE1	指定なし	LA
INFO			ROUTE2	NY2	

「表 3-8 ローカルサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続する場合の指定内容」の内容を初期設定パラメタで指定すると、次のようにになります。

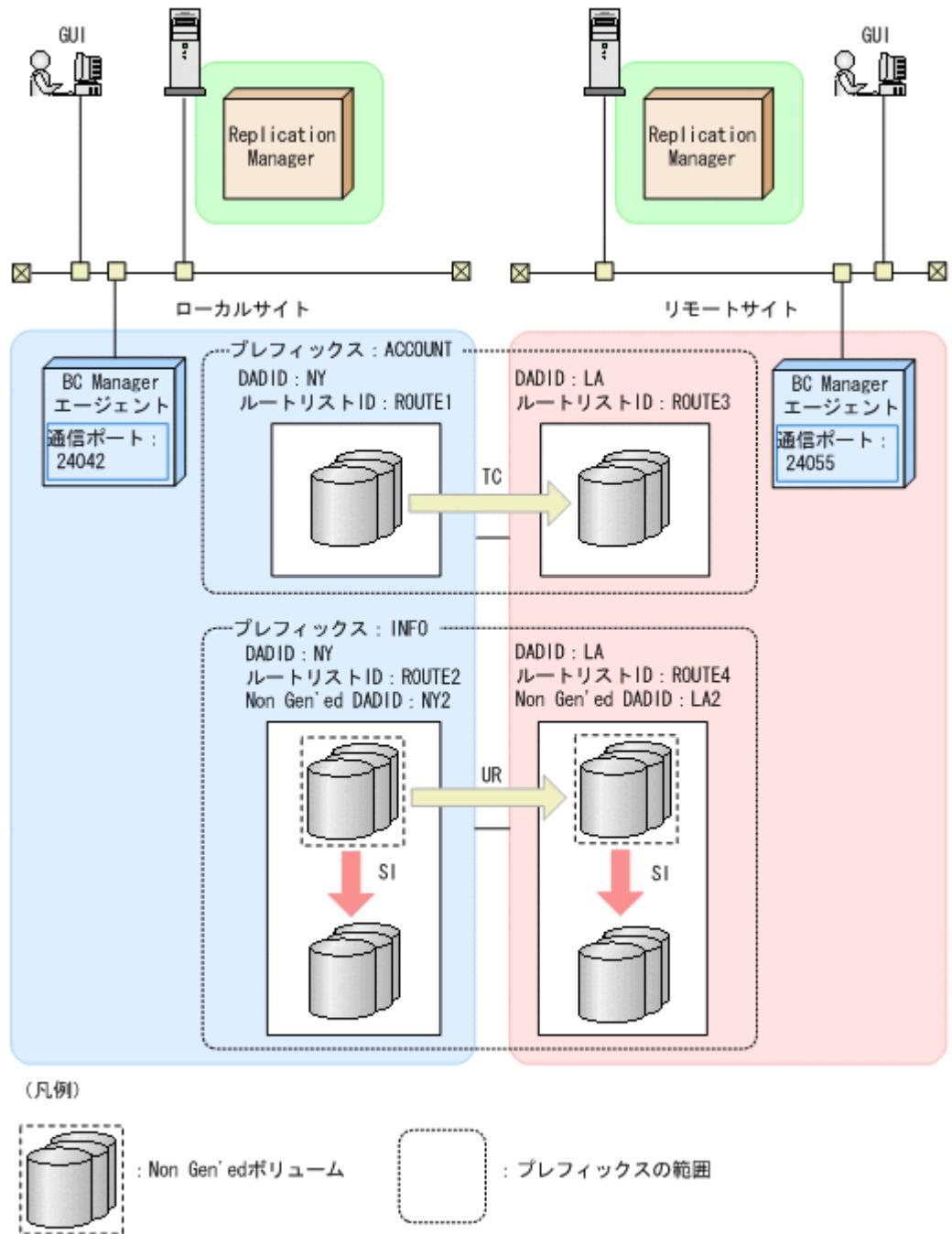
```
SETINIT PORT(24042)
SETINIT MODE(EDIT)
SETINIT LOCK(PREFIX)
/* PREFIX */
SETINIT PREFIX('ACCOUNT', 'NY', 'ROUTE1', '*', 'LA')
SETINIT PREFIX('INFO', 'NY', 'ROUTE2', 'NY2', 'LA')
```

(2) BC Manager エージェントがローカルサイトとリモートサイトにある場合

BC Manager エージェントがローカルサイトとリモートサイトの両方にある場合、ローカルサイトおよびリモートサイトの BC Manager エージェントが、それぞれのサイトをローカルスキャンできるように設定します。

次の構成例を使用して、指定方法を説明します。

図 3-9 BC Manager エージェントがローカルサイトとリモートサイトにある場合の構成例



「図 3-9 BC Manager エージェントがローカルサイトとリモートサイトにある場合の構成例」の構成で、ローカルサイトまたはリモートサイトの BC Manager エージェントが、それぞれのサイトにある Replication Manager と接続するためには、次の表に示す値を指定します。

表 3-9 ローカルサイトとリモートサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続する場合の指定内容

プレフィックス	ローカルサイト				リモートサイト			
	ポート番号	DADID	ルートリスト ID (正方向)	Non Gen'ed DADID	ポート番号	DADID	ルートリスト ID (逆方向)	Non Gen'ed DADID
ACCOUNT	24042	NY	ROUTE1	指定なし	24055	LA	ROUTE3	指定なし
INFO			ROUTE2	NY2			ROUTE4	LA2

「表 3-9 ローカルサイトとリモートサイトの BC Manager エージェントが Replication Manager と接続する場合の指定内容」の内容を初期設定パラメタで指定すると、次のようにになります。

ローカルサイトの BC Manager エージェントの設定

```
SETINIT PORT(24042)
SETINIT MODE(EDIT)
SETINIT LOCK(PREFIX)
/* PREFIX */
SETINIT PREFIX('ACCOUNT', 'NY', 'ROUTE1')
SETINIT PREFIX('INFO', 'NY', 'ROUTE2', 'NY2')
```

リモートサイトの BC Manager エージェントの設定

```
SETINIT PORT(24055)
SETINIT MODE(EDIT)
SETINIT LOCK(PREFIX)
/* PREFIX */
SETINIT PREFIX('ACCOUNT', 'LA', 'ROUTE3')
SETINIT PREFIX('INFO', 'LA', 'ROUTE4', 'LA2')
```



重要 リモートサイトに BC Manager エージェントがある場合、ローカルサイトの BC Manager エージェントからリモートサイトをスキャンすることはできません。したがって、PREFIX パラメタにリモートサイトの DADID を指定しないでください。

3.6.4 初期設定パラメタの解析結果例

BC Manager エージェントの起動時、初期設定パラメタの解析結果が YKLIST DD 文に指定されたデータセットに出力されます。

結果リストの例を次に示します。

エラーのない結果リスト

```
*** AGENT v.r.n-mm LISTING INFORMATION ***
TIME=16:09:53 PAGE=0001                                         DATE=2015-12-03

SETINIT PORT(24042)
/* PREFIX */
SETINIT PREFIX('ACCOUNT', 'NY')
SETINIT PREFIX('INFO', 'NY')
```

エラーのある結果リスト

最初の PREFIX パラメタの必須オペランドであるローカル DADID が指定されていないためにエラーになっている状態です。YKY002I メッセージが表示されています。

```
*** AGENT v.r.n-mm LISTING INFORMATION ***
TIME=13:34:35 PAGE=0001                                         DATE=2015-12-03

SETINIT PORT(24042)
/* PREFIX */
SETINIT PREFIX('ACCOUNT')
YKY002I INVALID INITIALIZATION PARAMETER: PREFIX
SETINIT PREFIX('INFO', 'NY')
```

3.7 起動用カタログドロシージャの作成（BC Manager エージェント）

BC Manager エージェントの起動用カタログドロシージャの作成、および変更方法について説明します。

3.7.1 標準の起動用カタログドロシージャ

インストール時にサンプルライブラリに登録される標準の起動用カタログドロシージャを次に示します。JES (Job Entry Subsystem) 起動プロシージャの PROCLIB データセットにコピーして、環境に合わせて修正してください。

(1) 標準の起動用カタログドロシージャの展開形

```
メンバ名 : YKAGENT
//YKAGENT PROC MEMBER=YKPRM00
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//IEFPROC EXEC PGM=IKJEFT01, PARM=YKAGENTD,
//           TIME=1440, REGION=4096K
//YKPARM   DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYSAMT (&MEMBER), DISP=SHR
//YKLIST   DD DDNAME=IEFRDER
//SYSTSPRT DD DUMMY
//SYSTSIN  DD DUMMY
//SYSABEND DD SYSOUT=*
//SYSEXEC  DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYEXET, DISP=SHR
//STEPLIB  DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYLNKT, DISP=SHR
```

サンプル JCL 中の「Vnnnnnnn」の「nnnnnnn」部分は、バージョンによって異なります。

(2) 説明

1. PROC 文

BC Manager エージェントの起動時に使用する初期設定パラメタのメンバ名を指定します。ここで指定したメンバが標準値となります。標準メンバ以外を使用するときは、起動時に START コマンドで変更できます。

2. EXEC 文

次のオペランドを指定します。

- TIME (CPU 打ち切り時間) には 1440 を指定します。
- REGION (リージョンサイズ) を指定します。「[2.2.4 ストレージ設計](#)」の「[\(2\) メモリ所要量](#)」を参照して計算してください。

3. YKPARM DD 文

初期設定パラメタを格納したデータセット名と区分・データセットの場合は、メンバ名を指定します。

4. YKLIST DD 文

初期設定パラメタの解析結果を出力するデータセットを指定します。次の属性のデータセットを指定してください。

- LRECL : 121
- BLKSIZE : 121 の倍数

- RECFM : FBA
 - DSORG : 順次・データセット（区分・データセットの場合、メンバ名も指定します）。
5. SYSTSPRT DD 文
DUMMY を指定します。
6. SYSTSIN DD 文
DUMMY を指定します。
7. SYSABEND DD 文
BC Manager エージェントが異常終了した場合のダンプ出力先を指定します。標準の起動用カタログドロシジャには「SYSOUT=*」が指定されています。START コマンドで起動するジョブのシステムメッセージの出力先クラスに DUMMY 出力クラスを割り当てている場合、「SYSOUT=*」のままではダンプが出力されないので、「SYSOUT=出力できる SYSOUT クラス」を指定することを推奨します。
8. SYSEEXEC DD 文
REXX exec ライブラリが組み込まれているデータセットを指定します。
9. STEPLIB DD 文(任意)
BC Manager のロードライブラリデータセットを指定します。BC Manager のロードライブラリデータセットをシステムの LINKLIB に連結する場合、STEPLIB DD 文は不要です。
10. YKLOG01 DD 文および YKLOG02 DD 文（任意）
システム・ロガー・サービスを使用しないでログデータセットに BCM ログを出力する場合に、出力先となるログデータセットを指定します。
BCM ログの DD 文の指定方法、および出力方法については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の BCM ログの出力方法についての記述を参照してください。

(3) 注意事項

- BC Manager エージェントはクライアントからの要求を待つ常駐プログラムであるため、タイム打ち切り対象にならないように、EXEC 文に TIME=1440 を指定してください。また、その間にに出力されるメッセージでスプールスペースを圧迫しないように、ジョブ・ログやシステム・メッセージの出力クラスに Purge クラスを指定してください。
- z/OS V1R3 以降の場合、START コマンドの JOB ステートメント・キーワードで JESLOG データセットを SUPPRESS 出力するように指定してください。

3.7.2 起動用カタログドロシジャの変更

システムの環境に合わせて標準の起動用カタログドロシジャの内容を変更したり、別の起動用カタログドロシジャを作成したりすると、BC Manager エージェントを起動できます。カタログドロシジャ名（メンバ名）は任意です。

起動用カタログドロシジャに SYSTCPD DD 文を追加すると、BC Manager エージェントで使用する TCP/IP クライアント・プログラム環境を設定できます。例えば、標準の TCP スタック環境を使用しない場合、SYSTCPD DD 文を追加して TCP/IP 環境設定ファイルを指定できます。

SYSTCPD DD 文以外による TCP/IP 環境設定ファイルの指定方法、および SYSTCPD DD 文で指定する TCP/IP 環境設定ファイルの定義については、IBM のマニュアル「*Communications Server IP 構成ガイド*」の基本 TCP/IP システムについての説明を参照してください。

BCM Monitor を使用する場合の環境設定

この章では、BCM Monitor を使用する前に実施しておくべきセキュリティの設定方法と、Configuration ファイル、BCM Monitor パラメタファイル、および起動用カタログドプロジェクトの作成方法について説明します。

- 4.1 環境設定の手順（BCM Monitor）
- 4.2 セキュリティの設定（BCM Monitor）
- 4.3 Configuration ファイルの作成（BCM Monitor）
- 4.4 BCM Monitor パラメタファイルの作成
- 4.5 起動用カタログドプロジェクトの作成（BCM Monitor）

4.1 環境設定の手順 (BCM Monitor)

BCM Monitor を使用するための環境設定の流れについて説明します。

図 4-1 BCM Monitor を使用するための環境設定の手順



それぞれの作業の詳細は、以降の節で説明します。

4.2 セキュリティの設定 (BCM Monitor)

BCM Monitor を使用する前に実施しておくべきセキュリティの設定方法について説明します。

BCM Monitor の起動用カタログド プロシージャの RACF 「STARTED」 クラスに、適切なユーザ ID、およびグループ ID を定義します。

TSO/E コマンドでの設定例

```
->SETROPTS GENERIC (STARTED)
->RDEFINE STARTED YKBCMON.* STDATA(USER(ユーザ ID) GROUP(グループ ID))
->SETROPTS RACLIST (STARTED) REFRESH
```

BCM Monitor は、BC Manager の CLI コマンドを使用してコピーグループを監視します。CLI コマンドを使用するため、RACF の FACILITY クラスに次のどちらかのプロファイルを定義したあと、定義したプロファイルの READ 権限を事前に定義してあるユーザ ID、またはグループ ID 与えます。

BCM Monitor の YKMONCG ファイルで次のどれかの指定をした場合は、
STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS プロファイルに READ 権限を与えてください。

- ACTION パラメタに、DELETE、MAKE、RESYNC、または SUSPEND を指定した
- CGSTARTUPSTATUS パラメタの開始アクションに、ADJUST を指定した
- SI または TCA の CGSTARTUPSTATUS パラメタの開始状態に DUPLEX を指定し、NOCANCEL を指定しなかった

その他の場合には、STGADMIN.YKA.BCM.YKQUERY プロファイルに READ 権限を与えてください。

TSO/E コマンドでの設定例

```
->SETROPTS CLASSACT(FACILITY)
->RDEFINE FACILITY STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS UACC(NONE)
->PERMIT STGADMIN.YKA.BCM.COMMANDS CLASS(FACILITY) ID(ユーザID) ACCESS(READ)
```

4.3 Configuration ファイルの作成 (BCM Monitor)

BCM Monitor を使用する前に、BC Manager で次の Configuration ファイルを作成しておく必要があります。BCM Monitor で監視するコピーグループの構成に合った Configuration ファイルを作成してください。

- ディスク構成定義ファイル（必須）
 - コピーグループ定義ファイル（必須）
 - ルートリスト定義ファイル
- ルートリスト定義ファイルは、リモート DKC 制御機能、および TC のコンシステム維持機能を使用する場合に必要です。

BC Manager すでに Configuration ファイルを作成している場合、Configuration ファイルを再度作成する必要はありません。

4.4 BCM Monitor パラメタファイルの作成

BCM Monitor を使用する前に、次の 2 種類のパラメタファイルを作成してください。

- YKMONOPT ファイル
BCM Monitor の起動に必要なオプション情報を設定するためのファイルです。
- YKMONCG ファイル
BCM Monitor の監視動作を設定するためのファイルです。YKMONCG ファイルには、次の項目を設定します。
 - 監視するコピーグループが監視対象状態に遷移したときに実行するアクション
 - 実行したアクションがエラーになったときに実行するエラーアクション
 - コピーグループが開始状態になっていないときに実行する開始アクション

YKMONOPT ファイルおよび YKMONCG ファイルの形式については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

4.5 起動用カタログドロシージャの作成 (BCM Monitor)

BCM Monitor の起動用カタログドロシージャの作成方法について説明します。

インストール時にカタログドロシージャに登録される標準の起動用カタログドロシージャを次に示します。JES (Job Entry Subsystem) 起動プロシージャの PROCLIB データセットにコピーして、環境に合わせて修正してください。

```
//YKBCMON PROC
//*****
//*
/** All Rights Reserved. Copyright (C) 2010, 2020, Hitachi, Ltd.
/**
//*****
//YKBCMON EXEC PGM=IKJEFT01,PARM=YKBCMON,TIME=1440,REGION=4096K
//YKMONOPT DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYSAMT(YKMOPT00),DISP=SHR
```

```

//YKMONCG DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYSAMT(YKMCG00),DISP=SHR
//SYSTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTSIN DD DUMMY
//SYSABEND DD SYSOUT=*
//SYSEXEC DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYEXET,DISP=SHR
//STEPLIB DD DSN=HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYLNKT,DISP=SHR

```

サンプル JCL 中の「Vnnnnnnn」の「nnnnnnn」部分は、バージョンによって異なります。

説明

1. EXEC 文

次のオペランドを指定します。

- TIME (CPU 打ち切り時間) には 1440 を指定します。
- REGION (リージョンサイズ) を指定します。標準は 4,096KB ですが、システムに合わせて変更できます。

「[2.2.4 ストレージ設計](#)」の「(2) メモリ所要量」を参照して計算してください。

2. YKMONOPT DD 文

YKMONOPT ファイルを格納したデータセット名を指定します。

データセットの形式については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

3. YKMONCG DD 文

YKMONCG ファイルを格納したデータセット名を指定します。

データセットの形式については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*」を参照してください。

4. SYSTSPRT DD 文

監視情報の出力先を指定します。

標準の起動用カタログドロジジャには「SYSOUT=*」が指定されています。START コマンドで起動するジョブのシステムメッセージの出力先クラスに DUMMY 出力クラスを割り当てている場合、「SYSOUT=*」のままでは監視情報が出力されないので、「SYSOUT=出力できる SYSOUT クラス」を指定することを推奨します。

5. SYSTSIN DD 文

DUMMY を指定します。

6. SYSABEND DD 文

BCM Monitor が異常終了した場合のダンプ出力先を指定します。

標準の起動用カタログドロジジャには「SYSOUT=*」が指定されています。START コマンドで起動するジョブのシステムメッセージの出力先クラスに DUMMY 出力クラスを割り当てている場合、「SYSOUT=*」のままではダンプが出力されないので、「SYSOUT=出力できる SYSOUT クラス」を指定することを推奨します。

7. SYSEXEC DD 文

BC Manager が組み込まれているデータセットを指定します。

8. STEPLIB DD 文 (任意)

BC Manager が組み込まれているデータセットを指定します。

BC Manager の LINKLIB データセットをシステムの LINKLIB に連結する場合、STEPLIB DD 文は不要です。

9. YKLOG01 DD 文および YKLOG02 DD 文 (任意)

システム・ロガー・サービスを使用しないでログデータセットに BCM ログを出力する場合に、出力先となるログデータセットを指定します。

BCM ログの DD 文の指定方法、および出力方法については、マニュアル「*Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*」の BCM ログの出力方法についての記述を参照してください。



重要 z/OS V1R3 以降の場合、START コマンドの JOB ステートメント・キーワードで JESLOG データセットを SUPPRESS 出力するように指定してください。

サンプル JCL の修正例

ここでは、サンプル JCL の修正例について説明します。

- A.1 サンプル JCL の修正例で使用している値
- A.2 ALLOUPLD (転送データセット作成)
- A.3 RECVUPLD (TSO/E RECEIVE 処理)
- A.4 HDSYKSIN (簡易インストール)
- A.5 SMPALLOC (SMP/E データセットのアロケート)
- A.6 HDSYK1AL (配布・ターゲットライブラリのアロケート)
- A.7 HDSYK2DF (配布・ターゲットライブラリの定義)
- A.8 HDSYK3RC (SMP/E RECEIVE 処理)
- A.9 HDSYK4AP (ターゲットライブラリ作成)
- A.10 HDSYK5AC (配布ライブラリ作成)
- A.11 HDSYKARC (拡張アクセス制御機能用 SMP/E RECEIVE 処理)
- A.12 HDSYKBAP (拡張アクセス制御機能用ターゲットライブラリ作成)
- A.13 HDSYKCAC (拡張アクセス制御機能用配布ライブラリ作成)

A.1 サンプル JCL の 修正例で使用している値

サンプル JCL の修正例で使用している値は、次のとおりです。

- インストール作業を行う TSO/E
TSO/E ユーザ ID : BCMUSER
- データセット、およびデータセットの割り当てボリューム

項目番号	ジョブ名	データセットの用途	データセット名のプレフィックス	データセットの割り当てボリューム	備考
1	ALLOUPLD	転送用データセット	BCMUSER.	TSOW00	ユーザのデータセット名に付くプレフィックス
2	RECVUPLD	TSO/E RECEIVE 用	BCMUSER	TSOW00	ユーザのデータセット名に付くプレフィックス
3	HDSYKSIN	ターゲットライブラリ	HTC1.BCM.	BCMT00	—
4	SMPALLOC	SMP/E データセット	HTC1.BCM.	BCMS00	—
5	• HDSYK1AL • HDSYK4AP • HDSYK5AC • HDSYKBAP • HDSYKCAC	ターゲットライブラリ	HTC1.BCM.	BCMT00	—
		配布ライブラリ	HTC1.BCM.	BCMD00	—
6	• HDSYK2DF • HDSYK3RC • HDSYKARC	グローバル・ゾーン (SMPTLIB)	HTC1.BCM.	BCMS00	—

サンプル JCL 中の「CHYKnnn」の「nnn」部分、「vnnnnnnn」の「nnnnnnn」部分、および「CHYkaaa, CHYbbb」の「aaa」「bbb」部分は、バージョンによって異なります。

A.2 ALLOUPLD (転送データセット作成)

転送データセットを作成する ALLOUPLD の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)~(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)~(15)

転送先データセット名のプレフィックス「HITACHI.」を、TSO/E ユーザ ID 「BCMUSER.」に修正します。

(16)

転送先データセット名のプレフィックス「HITACHI」を、TSO/E ユーザ ID 「BCMUSER」に修正します。

(17)

VOLSER 「#tso01」を「TSOW00」に修正します。

```

//ALLOUPLD JOB (ACCT#), 'ALLO UPLD FILES', ----- (1)
//          REGION=0M, CLASS=A, ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1), MSGCLASS=X, NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//***** This JCL allocates data sets in preparation for storing
//** the data files for installation of BC Manager from the
//** distribution CD.
//**
//** Instructions:
//** 1. Change 'HITACHI' to the current USERID.
//** 2. Change '#tso01' to VOLSER of your device.
//** 3. Submit this JCL to allocate the data sets for storing
//** the data files.
//** 4. Transfer the unzipped .XMIT files to the allocated data sets
//** via FTP in "BINARY" mode.
//** 5. See RECVUPLD for further procedures.
//**
//**
//** Remove all BC Manager files.
//**
//CLEAN    EXEC PGM=IDCAMS
//SYSPRINT DD  SYSOUT=*
//SYSIN    DD  *
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.SMPMCS.XMIT ----- (4)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F1.XMIT ----- (5)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F2.XMIT ----- (6)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F3.XMIT ----- (7)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F4.XMIT ----- (8)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F5.XMIT ----- (9)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F6.XMIT ----- (10)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F7.XMIT ----- (11)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F8.XMIT ----- (12)
        DELETE HITACHI.CHYKnnn.F9.XMIT ----- (13)
        DELETE HITACHI.CHYKaaa.SMPMCS.XMIT ----- (14)
        DELETE HITACHI.CHYKbbb.SMPMCS.XMIT ----- (15)
        SET MAXCC = 0
/*
//**
//** Allocate the data sets for storing the data files.
//**
//**           Value          Description
//**           -----          -----
// SET  PFX=HITACHI      Data set prefix ----- (16)
// SET  VRM=CHYKnnn        Version of BC Manager
// SET  VSN=#tso01       VOLSER ----- (17)
// SET  VRMF1=CHYKaaa      Version of addition function
// SET  VRMF2=CHYKbbb      Version of addition function
//*
//BR14    EXEC PGM=IEFB14
//SMPMCS  DD  DSN=&PFX..&VRM..SMPMCS.XMIT,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F1      DD  DSN=&PFX..&VRM..F1.XMIT,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(30)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F2      DD  DSN=&PFX..&VRM..F2.XMIT,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(75)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F3      DD  DSN=&PFX..&VRM..F3.XMIT,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=&VSN,

```

```

//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F4        DD DSN=&PFX..&VRM..F4.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F5        DD DSN=&PFX..&VRM..F5.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(45)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F6        DD DSN=&PFX..&VRM..F6.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(45)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F7        DD DSN=&PFX..&VRM..F7.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(45)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F8        DD DSN=&PFX..&VRM..F8.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//F9        DD DSN=&PFX..&VRM..F9.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//SMPMCSF1 DD DSN=&PFX..&VRMF1..SMPMCS.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)
//SMPMCSF2 DD DSN=&PFX..&VRMF2..SMPMCS.XMIT,
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(TRK,(15)),
//          DCB=(DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120),
//          DISP=(,CATLG,DELETE)

```

A.3 RECVUPLD (TSO/E RECEIVE 処理)

TSO/E RECEIVE 処理を行う RECVUPLD の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)~(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)~(16), (18), (20), (22), (24), (26), (28), (30), (32), (34), (36), (38)

データセット名のプレフィックス「HITACHI.」を「BCMUSER.」に修正します。

(17), (19), (21), (23), (25), (27), (29), (31), (33), (35), (37), (39)

VOLSER 「#tso01」を「TSOW00」に修正します。

```

//RECVUPLD JOB (ACCT#),'TSO RECEIVE',           ----- (1)
//          REGION=0M,CLASS=A,                         ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
///*
///* All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.

```

```

/*
***** This JOB uses TSO RECEIVE command to receive the data sets
***** that were allocated by ALLOUPLD JCL and contain the unzipped
***** .XMIT files that were uploaded via binary FTP transfer.
*/
/*
** Instructions:
** 1. Logon with the same USERID used for ALLOUPLD job.
** 2. Change 'HITACHI.' prefixes to suit your naming convention.
** 3. Change '#tso01' to VOLSER of your device.
** 4. Submit this JCL.
** 5. See this product's documentation for SMP/E instructions.
**     Modify the .SMPMCS file so that the chosen file prefix
**     is indicated in the RFDSNPF() parameter of the
**     FUNCTION() statement.
**     Allocate the .SMPMCS file directly to the SMP/E
**     SMPPTFIN DD statement on the receive step. SMP/E will
**     locate the other files via the catalog.
*/
/*
** Remove all BC Manager files.
*/
//CLEAN EXEC PGM=IDCAMS
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.SMPMCS ----- (4)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F1 ----- (5)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F2 ----- (6)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F3 ----- (7)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F4 ----- (8)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F5 ----- (9)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F6 ----- (10)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F7 ----- (11)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F8 ----- (12)
    DELETE HITACHI.CHYKnnn.F9 ----- (13)
    DELETE HITACHI.CHYKaaa.SMPMCS ----- (14)
    DELETE HITACHI.CHYKbbb.SMPMCS ----- (15)
    SET MAXCC = 0
/*
***** TSO receive to restore portable PDS from BINARY FTP
***** 
//S1 EXEC PGM=IKJEFT01
//SYSTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTSIN DD *
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.SMPMCS.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.SMPMCS') + ----- (16)
        VOLUME (#tso01) ----- (17)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F1.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F1') + ----- (18)
        VOLUME (#tso01) ----- (19)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F2.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F2') + ----- (20)
        VOLUME (#tso01) ----- (21)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F3.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F3') + ----- (22)
        VOLUME (#tso01) ----- (23)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F4.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F4') + ----- (24)
        VOLUME (#tso01) ----- (25)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F5.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F5') + ----- (26)
        VOLUME (#tso01) ----- (27)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F6.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F6') + ----- (28)
        VOLUME (#tso01) ----- (29)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F7.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F7') + ----- (30)
        VOLUME (#tso01) ----- (31)
    RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F8.XMIT)
        DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F8') + ----- (32)

```

```

        VOLUME (#tso01) ----- (33)
RECEIVE INDSN(CHYKnnn.F9.XMIT)
  DSNAME ('HITACHI.CHYKnnn.F9') +
    VOLUME (#tso01) ----- (34)
----- (35)
RECEIVE INDSN(CHYKaaa.SMPMCS.XMIT)
  DSNAME ('HITACHI.CHYKaaa.SMPMCS') +
    VOLUME (#tso01) ----- (36)
----- (37)
RECEIVE INDSN(CHYKbbb.SMPMCS.XMIT)
  DSNAME ('HITACHI.CHYKbbb.SMPMCS') +
    VOLUME (#tso01) ----- (38)
----- (39)
END
/*

```

A.4 HDSYKSIN（簡易インストール）

簡易インストールを行う HDSYKSIN の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

入力データセット名のプレフィックス「HITACHI」を「BCMUSER」に修正します。

(5)

ターゲットライブラリ名のプレフィックス「HITACHI」を「HTC1.BCM」に修正します。

(6)

ターゲットライブラリの割り当てボリューム「#bcm01」を「BCMT00」に修正します。

```

//HDSYKSIN JOB (ACCT#), 'SAMPLE COPY', ----- (1)
//          REGION=0M, CLASS=A, ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1), MSGCLASS=X, NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//** JCL template for simplified installation of BC Manager.
//**
//** This sample shows an installation method that copies
//** distribution data sets directly to the target libraries,
//** without using SMP/E.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//**
//**           Value      Description
//**           -----      -----
//**           SET IPFX=HITACHI   Prefix of distribution data sets---(4)
//**           SET IVRM=CHYKnnn   Version of distribution data sets
//**           SET TPFX=HITACHI   Prefix of target libraries     ---(5)
//**           SET TVRM=Vnnnnnnn  Version of target libraries
//**           SET TVSN=#bcm01    VOLSER of target libraries      ----- (6)
//**
//** 3) Submit the JCL.
//**
//*****
//COPY      EXEC PGM=IEBCOPY
//SYSPRINT DD  SYSOUT=*

```

```

/** Input data sets
//INF1      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F1,DISP=SHR          SAMPLIB data set
//INF2      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F2,DISP=SHR          LINKLIB data set
//INF3      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F3,DISP=SHR          LPALIB data set
//INF4      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F4,DISP=SHR          PROCLIB data set
//INF5      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F5,DISP=SHR          EXEC (F) data set
//INF6      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F6,DISP=SHR          EXEC (V) data set
//INF7      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F7,DISP=SHR          PANEL data set
//INF8      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F8,DISP=SHR          MESSAGE data set
//INF9      DD DSN=&IPFX..&IVRM..F9,DISP=SHR          TABLE data set

/** Output libraries
//OUTF1     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYSAMT,           SAMPLIB
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(30,1,5)),DCB=*.INF1
//OUTF2     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYLNKT,           Target library
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(120,1,30)),DCB=*.INF2
//OUTF3     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYLPAT,           LINKLIB
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(1,1,1)),DCB=*.INF3
//OUTF4     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYPRCT,           Target library
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(5,1,10)),DCB=*.INF4
//OUTF5     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYEXET,           PROCLIB
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(45,1,10)),DCB=*.INF5
//OUTF6     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYEXVT,           Target library
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(45,1,10)),DCB=*.INF6
//OUTF7     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYPNLT,           EXECLIB (F)
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(60,1,200)),DCB=*.INF7
//OUTF8     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYMSGT,           Target library
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(5,1,5)),DCB=*.INF8
//OUTF9     DD DSN=&TPFX..&TVRM..HDSYTABT,           MESSAGE
//          UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(5,1,5)),DCB=*.INF9
//SYSIN     DD *
COPY      OUTDD=OUTF1,INDD=INF1
COPYMOD   OUTDD=OUTF2,INDD=INF2
COPYMOD   OUTDD=OUTF3,INDD=INF3
COPY      OUTDD=OUTF4,INDD=INF4
COPY      OUTDD=OUTF5,INDD=INF5
COPY      OUTDD=OUTF6,INDD=INF6
COPY      OUTDD=OUTF7,INDD=INF7
COPY      OUTDD=OUTF8,INDD=INF8
COPY      OUTDD=OUTF9,INDD=INF9
*/

```

A.5 SMPALLOC (SMP/E データセットのアロケート)

SMP/E データセットのアロケートを行う SMPALLOC の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)~(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

SMP/E データセット名のプレフィックス 「HDSYK」 を 「HTC1.BCM」 に修正します。

(5), (8)

SMP/E データセットの割り当てボリューム 「#smp01」 を 「SMP001」 に修正します。

(6), (7), (9), (10)

データセット名のプレフィックス 「HDSYK.」 を 「HTC1.BCM.」 に修正します。

```
//SMPALLOC JOB (ACCT#),'ALLO SMP FILES', ----- (1)
//REGION=0M,CLASS=A, ----- (2)
//MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2014, Hitachi, Ltd.
///*
//***** This JCL allocates a CSI data set.
///*
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
///*
//**          Value      Description
//**          -----      -----
// SET    PFX=HDSYK      Prefix of SMP files      ----- (4)
// SET    VSN=#smp01     DASD volume serial for SMP files---(5)
///*
//** 3) Submit the JCL.
///*
//*****
//STEP01  EXEC  PGM=IDCAMS
//CSIVOL  DD   UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,DISP=SHR
//SYSPRINT DD   SYSOUT=*
//SYSIN   DD   *
      DELETE HDSYK.SMPCSI.CSI           ----- (6)
      SET MAXCC=0
      DEFINE CLUSTER(
          NAME (HDSYK.SMPCSI.CSI)  -
          FREESPACE(10 5)             -
          KEYS(24 0)                 -
          RECORDSIZE(24 143)          -
          SHAREOPTIONS(2 3)           -
          UNIQUE                      -
          VOLUMES (#smp01)            -
      )                                ----- (7)
      DATA(
          NAME (HDSYK.SMPCSI.CSI.DATA) -
          CONTROLINTERVALSIZE(4096)  -
          CYLINDERS(1 1)              -
      )                                ----- (8)
      INDEX(
          NAME (HDSYK.SMPCSI.CSI.INDEX) -
          CYLINDERS(1 1)              -
      )                                ----- (9)
      /*
      /**
      //** Initialize a CSI data set. Refer to SMP/E User's Guide.
      /**
      //STEP02  EXEC PGM=IDCAMS
      //SMPCSI  DD   DISP=OLD,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
      //ZPOOL   DD   DISP=SHR,DSN=SYS1.MACLIB(GIMZPOOL)
      //SYSPRINT DD   SYSOUT=*
      //SYSIN   DD   *
          REPRO OUTFILE(SMPCSI)      -

```

```

        INFILE (ZPOOL)
/*
/*
/** Allocate data sets for SMP installation of NC
/*
//STEP03 EXEC PGM=IEFBR14
/** Data sets required by SMP
//SMPPTS DD DSN=&PFX..SMPPTS,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(CYL,(1,5,10)),
//          DCB=(BLKSIZE=27920,LRECL=80,RECFM=FB)
//SMPSCDS DD DSN=&PFX..SMPSCDS,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(CYL,(1,5,15)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=27920,RECFM=FB)
//SMPMTS  DD DSN=&PFX..SMPMTS,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(CYL,(1,5,5)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=27920,RECFM=FB)
//SMPSTS  DD DSN=&PFX..SMPSTS,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(CYL,(1,5,5)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=27920,RECFM=FB)
//SMPLOG   DD DSN=&PFX..SMPLOG,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(CYL,(1,5)),
//          DCB=(BLKSIZE=27998,LRECL=510,RECFM=VB)
//SMPLOGA  DD DSN=&PFX..SMPLOGA,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=&VSN,
//          SPACE=(CYL,(1,5)),
//          DCB=(BLKSIZE=27998,LRECL=510,RECFM=VB)
//

```

A.6 HDSYK1AL（配布・ターゲットライブラリのアロケート）

配布ライブラリおよびターゲットライブラリのアロケートを行う HDSYK1AL の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)~(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

ターゲットライブラリの割り当てボリューム「#bcm01」を「BCM001」に修正します。

(6)

配布ライブラリの割り当てボリューム「#bcm02」を「BCM002」に修正します。

```

//HDSYK1AL JOB (ACCT#), 'ALLO_UPLD_FILES', ----- (1)
//          REGION=0M,CLASS=A, ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)

```

```

//*****
//*
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.
//*
//*****
//*
//** This JCL allocates the data sets for SMP/E installation of
//** BC Manager.
//*
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//*
//**          Value      Description
//**          -----      -----
// SET  PFX=HDSYK      Prefix of SMP files      ----- (4)
// SET  VRM=Vnnnnnnn    Second level name (VER REL MOD)
// SET  TVSN=#bcm01     Target library VOLSER      ----- (5)
// SET  DVSN=#bcm02     Distribution library VOLSER   ----- (6)
//*
//** 3) Submit the JCL.
//*
//*****
//ALLOCATE EXEC PGM=IEFBRI4
//* Allocate target libraries
//HDSYSAMT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYSAMT,           SAMPLES LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(30,1,5)),
//              DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYLNKT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYLNKT,           LOAD LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(120,1,30)),
//              DCB=(BLKSIZE=6144,RECFM=U)
//HDSYLPAT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYLPAT,           LPA LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(1,1,1)),
//              DCB=(BLKSIZE=6144,RECFM=U)
//HDSYPRCT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYPRCT,           PROC LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(5,1,10)),
//              DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYEXET DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYEXET,           EXEC(F) LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(45,1,10)),
//              DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYEXVT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYEXVT,           EXEC(V) LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(45,1,10)),
//              DCB=(BLKSIZE=6120,LRECL=255,RECFM=VB)
//HDSYPNLT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYPNLT,           PANEL LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(60,1,200)),
//              DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYMSGT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYMSGT,           MESSAGE LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(5,1,5)),
//              DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYTABT DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYTABT,           TABLE LIBRARY
//              DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//              UNIT=3390,VOL=SER=&TVSN,
//              SPACE=(TRK,(5,1,5)),
//              DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//** Allocate distribution libraries
//HDSYSAMD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYSAMD,           SAMPLES LIBRARY

```

```

//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(30,1,5)),
//          DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYLNKD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYLNKD,           LOAD LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(120,1,30)),
//          DCB=(BLKSIZE=6144,RECFM=U)
//HDSYLPAD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYLPAD,           LPA LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(1,1,1)),
//          DCB=(BLKSIZE=6144,RECFM=U)
//HDSYPRCD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYPRCD,           PROC LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(5,1,10)),
//          DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYEXED DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYEXED,           EXEC(F) LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(45,1,10)),
//          DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYEXVD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYEXVD,           EXEC(V) LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(45,1,10)),
//          DCB=(BLKSIZE=6120,LRECL=255,RECFM=VB)
//HDSYPNLD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYPNLD,           PANEL LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(60,1,200)),
//          DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYMSGD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYMSGD,           MESSAGE LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(5,1,5)),
//          DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)
//HDSYTABD DD DSN=&PFX..&VRM..HDSYTABD,           TABLE LIBRARY
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=3390,VOL=SER=&DVSN,
//          SPACE=(TRK,(5,1,5)),
//          DCB=(BLKSIZE=6160,LRECL=80,RECFM=FB)

```

A.7 HDSYK2DF（配布・ターゲットライブラリの定義）

配布ライブラリおよびターゲットライブラリを定義する HDSYK2DF の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

SMP/E データセット名、ターゲットライブラリ名、および配布ライブラリ名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)～(10)

SMP/E データセット名のプレフィックス「HDSYK.」を「HTC1.BCM.」に修正します。

(11)

SMPTLIB の割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(12)～(29)

ターゲットライブラリ名のプレフィックス「HDSYK.」を「HTC1.BCM.」に修正します。

(30)～(38)

配布ライブラリ名のプレフィックス「HDSYK.」を「HTC1.BCM.」に修正します。

```
//HDSYK2DF JOB (ACCT#),'DO THE DDDEFS', ----- (1)
//          REGION=0M,CLASS=A, ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//** This JCL executes SMP/E DDDEF for the distribution libraries and
//** the target libraries.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//**
//**          Value      Description
//**          -----      -----
//**          GIMSMPP     Installation SMP/E program
// SET    PFX=HDSYK   Prefix of SMP files      ----- (4)
// SET    VRM=Vnnnnnnn Second level name (VER REL MOD)
//          #smp01      DASD volume serial for SMPTLIB
//**
//** 3) Submit the JCL to begin execution of SMP/E DDDEF.
//**
//*****
//S1      EXEC PGM=GIMSMPP
//SMPCSI  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//SMPOUT  DD SYSOUT=*
//SMPRPT  DD SYSOUT=*
//SMPLIST  DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1  DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2  DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3  DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4  DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6  DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
//** The following data sets would likely be specified in a
//** cataloged procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG   DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
//SMPLOGA  DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1     DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//DLIB1    DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//** SMP/E control record input
//SMPCNTL DD *
```

```

SET          BDY(GLOBAL) .
UCLIN.

ADD          GLOBALZONE ZONEINDEX(
              (DLIB1,HDSYK.SMPCSI.CSI,DLIB),
              (TGT1,HDSYK.SMPCSI.CSI,TARGET))
              SREL(Z038).
----- (5)
----- (6)

ADD          DDDEF(SMPPTS)
              DA(HDSYK.SMPPTS)
              OLD.
----- (7)

ADD          DDDEF(SMPLOG)
              DA(HDSYK.SMPLOG)
              MOD.
----- (8)

ADD          DDDEF(SMPLOGA)
              DA(HDSYK.SMPLOGA)
              MOD.
----- (9)

ADD          DDDEF(SMPTLIB)
              DSPREFIX(HDSYK.TM)
              VOLUME(#smp01)
              UNIT(3390)
              CYL
              SPACE(5,5)
              DIR(200)
              DSNTYPE(PDS).
----- (10)
----- (11)

ADD          DDDEF(HDSYSAMT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYSAMT)
              OLD.
----- (12)

ADD          DDDEF(HDSYLNKT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYLNKT)
              OLD.
----- (13)

ADD          DDDEF(HDSYLPAT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYLPAT)
              OLD.
----- (14)

ADD          DDDEF(HDSYPRCT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYPRCT)
              OLD.
----- (15)

ADD          DDDEF(HDSYEXET)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYEXET)
              OLD.
----- (16)

ADD          DDDEF(HDSYEXVT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYEXVT)
              OLD.
----- (17)

ADD          DDDEF(HDSYPNLT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYPNLT)
              OLD.
----- (18)

ADD          DDDEF(HDSYMSGT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYMSGT)
              OLD.
----- (19)

ADD          DDDEF(HDSYTABT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYTABT)
              OLD.
----- (20)

ENDUCL.

SET          BDY(TGT1) .

UCLIN.

ADD          TARGETZONE(TGT1)
              RELATED(DLIB1)
              SREL(Z038).
----- (21)

ADD          DDDEF(HDSYSAMT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYSAMT)
              OLD.
----- (22)

ADD          DDDEF(HDSYLNKT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYLNKT)
              OLD.
----- (23)

ADD          DDDEF(HDSYLPAT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYLPAT)
              OLD.
----- (24)

ADD          DDDEF(HDSYPRCT)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYPRCT)
              OLD.
----- (25)

ADD          DDDEF(HDSYEXET)
              DA(HDSYK.Vnnnnnnn.HDSYEXET)
              OLD.
----- (26)

ADD          DDDEF(HDSYEXVT)

```

```

        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYEXVT) ----- (26)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYPNLT)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYPNLT) ----- (27)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYMSGT)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYMSGT) ----- (28)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYTABT)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYTABT) ----- (29)
        OLD.

ENDUCL.
SET      BDY (DLIB1).

UCLIN.
ADD      DLIBZONE (DLIB1)
        RELATED (TGT1)
        SREL (Z038).

ADD      DDDEF (HDSYSAMD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYSAMD) ----- (30)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYLNKD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYLNKD) ----- (31)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYLPAD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYLPAD) ----- (32)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYPRCD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYPRCD) ----- (33)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYEXED)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYEXED) ----- (34)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYEXVD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYEXVD) ----- (35)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYPNLD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYPNLD) ----- (36)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYMSGD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYMSGD) ----- (37)
        OLD.

ADD      DDDEF (HDSYTABD)
        DA (HDSYK.Vnnnnnn.HDSYTABD) ----- (38)
        OLD.

ENDUCL.
SET      BDY (GLOBAL).

LIST     ALLZONES
        DDDEF.

/*

```

A.8 HDSYK3RC (SMP/E RECEIVE 処理)

SMP/E RECEIVE 処理を行う HDSYK3RC の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)~(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

SMP/E データセットの割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(6)

RFPREFIX 「HITACHI」 を 「HTC1.BCM」 に修正します。

```
//HDSYK3RC JOB (ACCT#),'RECEIVE BC MANAGER',          ----- (1)
//                      REGION=0M,CLASS=A,           ----- (2)
//                      MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//** This JCL executes SMP/E RECEIVE to uncompress .XMIT files.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//**
//**          Value      Description
//**          ----- -----
//**          GIMSMP    Installation SMP/E program
// SET  PFX=HDSYK Prefix of SMP files      ----- (4)
// SET  VRM=Vnnnnnnn Second level name (VER REL MOD)
// SET  VSN=#smp01 DASD volume serial for SMPTLIB ----- (5)
//          HITACHI   Refer to 4) for detail.
//**
//** 3) Select form of SMPPTFIN DD statement depending upon whether
//**     installing from tape or uploaded .XMIT file.
//**
//** 4) Modify the value of RFPREFIX to match the prefix of the data set
//**     that you created with the JCL 'RECVUPLD'. Refer to the comment
//**     (refer to 3.) in 'RECVUPLD' for more detail.
//**
//** 5) Submit the JCL.
//**
//*****RECEIVE EXEC PGM=GIMSMP
//SMPOUT DD SYSOUT=*
//SMPRPT DD SYSOUT=*
//SMPLIST DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
//** The following data sets would likely be specified in a
//** catalogued procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG  DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
//SMPLOGA DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1    DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//DLIB1   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
```

```

//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPTLIB DD DISP=SHR,UNIT=3390,VOL=SER=&VSN
// * Use DASD files if installing from .XMIT distribution
//SMPPTFIN DD DSN=&PFX..CHYKnnn.SMPMCS,DISP=SHR
// * Use tape files if installing from cartridge tape
//SMPPTFIN DD DSN=SMPMCS,DISP=OLD,
// * VOL=SER=HDSYK,UNIT=3480,LABEL=(1,SL)
//SMPCNTL DD *
SET      BDY(GLOBAL).
RECEIVE  SELECT(CHYKnnn)
          RFPREFIX(HITACHI)
          LIST.
----- (6)
/*

```

A.9 HDSYK4AP（ターゲットライブラリ作成）

ターゲットライブラリを作成する HDSYK4AP の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

SMP/E データセットの割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(6)

SMP/E APPLY 成功時、CHECK オペランドを削除（コメント化）してジョブを再実行します。
バージョンアップ時に既存のターゲットライブラリにインストールする場合は CHECK オペラ
ンドを COMPRESS(ALL) オペランドに変更してジョブを再実行します。

```

//HDSYK4AP JOB (ACCT#), 'APPLY BC MANAGER',           ----- (1)
//               REGION=0M,CLASS=A,                         ----- (2)
//               MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
// * All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.
// *
//***** This JCL executes SMP/E APPLY to create the target libraries.
//*
// * Instructions:
// * 1) Modify the JOB statement to match your environment.
// * 2) Modify the following values to match your environment:
//*
// *      Value      Description
// *      ----- -----
// *      GIMSMPP   Installation SMP/E program
// SET  PFX=HDSYK  Prefix of SMP files      ----- (4)
// SET  VRM=Vnnnnnnn Second level name (VER REL MOD)
// SET  VSN=#smp01  DASD volume serial for SMPTLIB ----- (5)
//*
// * 3) Submit the JCL and make sure that no error occurs.
// * 4) Remove CHECK operand from APPLY and re-submit the JCL to
// *      complete.
//*
//***** /APPLY    EXEC PGM=GIMSMPP
//SMPOUT   DD SYSOUT=*

```

```

//SMPRPT DD SYSOUT=*
//SMPLIST DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
/* The following data sets would likely be specified in a
   cataloged procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
//SMPLOGA DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1 DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//DLIB1 DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//SMPTLIB DD DISP=SHR,UNIT=3390,VOL=SER=&VSN
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPSCDS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSCDS
//SMPMTS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//SMPSTS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSTS
//SYSLIB DD DISP=SHR,DSN=SYS1.MACLIB
//          DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//SMPCNTL DD *
SET      BDY(TGT1).
APPLY    SELECT(CHYKnn)
CHECK          -----
*----- (6)

*/

```

A.10 HDSYK5AC（配布ライブラリ作成）

配布ライブラリを作成する HDSYK5AC の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

SMP/E データセットの割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(6)

SMP/E ACCEPT 成功時、CHECK オペランドを削除（コメント化）してジョブを再実行します。バージョンアップ時に既存の配布ライブラリにインストールする場合は CHECK オペランドを COMPRESS (ALL) オペランドに変更してジョブを再実行します。

```
//HDSYK5AC JOB _ACCT#, 'ACCEPT BC MANAGER', ----- (1)
//          REGION=0M,CLASS=A, ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//** This JCL executes SMP/E ACCEPT to create the distribution libraries.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//**
//**      Value           Description
//**      -----           -----
//**      GIMSMP         Installation SMP/E program
// SET  PFX=HDSYK      Prefix of SMP files      ----- (4)
// SET  VRM=Vnnnnnnn   Second level name (VER REL MOD)
// SET  VSN=#smp01     DASD volume serial for SMPTLIB ----- (5)
//**
//** 3) Submit the JCL and make sure that no error occurs.
//** 4) Remove CHECK operand from ACCEPT and re-submit the JCL to
//**      complete.
//**
//*****
//ACCEPT EXEC PGM=GIMSMP
//SMPOUT DD SYSOUT=*
//SMPRPT DD SYSOUT=*
//SMPLIST DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
//** The following data sets would likely be specified in a
//** catalogued procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG  DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
//SMPLOGA DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1    DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//DLIB1   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//SMPTLIB DD DISP=SHR,UNIT=3390,VOL=SER=&VSN
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPSCDS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSCDS
//SMPMTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//SMPSTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSTS
```

```

//SYSLIB DD DISP=SHR, DSN=SYS1.MACLIB
//          DD DISP=SHR, DSN=&PFX..SMPMTS
//SMPCNTL DD *
SET      BDY(DLIB1).
ACCEPT   SELECT(CHYKn)nnn)
CHECK
----- (6)

/*

```

A.11 HDSYKARC（拡張アクセス制御機能用 SMP/E RECEIVE 処理）

拡張アクセス制御機能用の SMP/E RECEIVE 处理を行う HDSYKARC の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

SMP/E データセットの割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(6)

コピーグループアクセス制御機能をインストールしない場合は「CHYKaaa,」を削除します。
特定コマンドアクセス制御機能をインストールしない場合は「,CHYKbbb」を削除します。

(7)

RFPREFIX 「HITACHI」を「HTC1.BCM」に修正します。

```

//HDSYKARC JOB (ACCT#), 'RECEIVE BC MANAGER', ----- (1)
//          REGION=0M, CLASS=A, ----- (2)
//          MSGLEVEL=(1,1), MSGCLASS=X, NOTIFY=&SYSUID ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2015, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//** This JCL executes SMP/E RECEIVE to uncompress .XMIT files.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//**
//**           Value      Description
//**           ----- -----
//**           GIMSMPP     Installation SMP/E program
//**           SET PFX=HDSYK    Prefix of SMP files      ----- (4)
//**           SET VRM=Vnnnnnnn  Second level name (VER REL MOD)
//**           SET VSN=#smp01    DASD volume serial for SMPTLIB  ----- (5)
//**           HITACHI     Refer to 4) for detail.
//**
//** 3) Select form of SMPPTFIN DD statement depending upon whether
//**     installing from tape or uploaded .XMIT file.
//**
//** 4) Modify the value of RFPREFIX to match the prefix of the data set
//**     that you created with the JCL 'RECVUPLD'. Refer to the comment
//**     (refer to 3.) in 'RECVUPLD' for more detail.

```

```

/*
//** 5) Submit the JCL.
/*
//***** ****
//RECEIVE EXEC PGM=GIMSMP
//SMPOUT DD SYSOUT=*
//SMPRPT DD SYSOUT=*
//SMPLIST DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6 DD UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//          DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
///* The following data sets would likely be specified in a
///* catalogued procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
//SMPLOGA DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1 DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//DLIB1 DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPTLIB DD DISP=SHR,UNIT=3390,VOL=SER=&VSN
///* Use DASD files if installing from .XMIT distribution
//SMPPTFIN DD DSN=&PFX..CHYKnnn.SMPMCs,DISP=SHR
///* Use tape files if installing from cartridge tape
//SMPPTFIN DD DSN=SMPMCs,DISP=OLD,
///*
//          VOL=SER=HDSYK,UNIT=3480,LABEL=(1,SL)
//SMPCNTL DD *
SET      BDY(GLOBAL).
RECEIVE  SELECT(
           CHYKaaa /*adds the access control of copy groups.*-(6)
           CHYKbbb /*adds the access control of commands. */-(6)
           )
           RFPREFIX(HITACHI)
           LIST.                                              ----- (7)
/*

```

A.12 HDSYKBAP（拡張アクセス制御機能用ターゲットライブラリ作成）

拡張アクセス制御機能用のターゲットライブラリを作成する HDSYKBAP の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

SMP/E データセットの割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(6)

kopier グループアクセス制御機能をインストールしない場合は「CHYKaaa,」を削除します。
特定コマンドアクセス制御機能をインストールしない場合は「,CHYKbbb」を削除します。

(7)

SMP/E APPLY 成功時、CHECK オペランドを削除（コメント化）してジョブを再実行します。

```
//HDSYKBAP JOB (ACCT#), 'APPLY BC MANAGER',          ----- (1)
//               REGION=0M, CLASS=A,                         ----- (2)
//               MSGLEVEL=(1,1), MSGCLASS=X, NOTIFY=&SYSUID   ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2015, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//** This JCL executes SMP/E APPLY to create the target libraries.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.
//** 2) Modify the following values to match your environment:
//**
//**           Value      Description
//**           -----      -----
//**           GIMSMPP     Installation SMP/E program
// SET    PFX=HDSYK      Prefix of SMP files          ----- (4)
// SET    VRM=Vnnnnnnn     Second level name (VER REL MOD)
// SET    VSN=#smp01       DASD volume serial for SMPTLIB   ----- (5)
//**
//** 3) Submit the JCL and make sure that no error occurs.
//** 4) Remove CHECK operand from APPLY and re-submit the JCL to
//**      complete.
//**
//*****
//APPLY    EXEC PGM=GIMSMPP
//SMPOUT   DD SYSOUT=*
//SMPRPT   DD SYSOUT=*
//SMPLIST   DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1  DD UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2  DD UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3  DD UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4  DD UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6  DD UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//           DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//           DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
//** The following data sets would likely be specified in a
//** catalogued procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG   DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
```

```

//SMPLOGA DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1    DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//DLIB1   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//SMPTLIB DD DISP=SHR,UNIT=3390,VOL=SER=&VSN
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPSCDS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSCDS
//SMPMTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//SMPSTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSTS
//SYSLIB  DD DISP=SHR,DSN=SYS1.MACLIB
//          DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//HDSYLNKD DD DISP=SHR,DSN=&PFX..&VRM..HDSYLNKD
//SMPCNTL DD *
SET      BDY(TGT1).
APPLY    SELECT(
          CHYKaaa /*adds the access control of copy groups.*/-(6)
          ,CHYKbbb /*adds the access control of commands. */-(6)
          )
          CHECK                                     ----- (7)
          .
/* */

```

A.13 HDSYKCAC（拡張アクセス制御機能用配布ライブラリ作成）

拡張アクセス制御機能用の配布ライブラリを作成する HDSYKCAC の修正方法を説明します。

次に示す番号は、サンプル JCL の右側に付いている番号に対応しています。該当する部分の下線部を次のとおり修正してください。

(1)～(3)

インストール環境に合わせて JOB 文を修正します。

(4)

データセット名のプレフィックス「HDSYK」を「HTC1.BCM」に修正します。

(5)

SMP/E データセットの割り当てボリューム「#smp01」を「SMP001」に修正します。

(6)

コピーグループアクセス制御機能をインストールしない場合は「CHYKaaa,」を削除します。
特定コマンドアクセス制御機能をインストールしない場合は「,CHYKbbb」を削除します。

(7)

SMP/E ACCEPT 成功時、CHECK オペランドを削除（コメント化）してジョブを再実行します。

```

//HDSYKCAC JOB (ACCT#), 'ACCEPT BC MANAGER',           ----- (1)
//                REGION=0M,CLASS=A,                           ----- (2)
//                MSGLEVEL=(1,1),MSGCLASS=X,NOTIFY=&SYSUID        ----- (3)
//*****
//** All Rights Reserved. Copyright (C) 2015, 2020, Hitachi, Ltd.
//**
//***** This JCL executes SMP/E ACCEPT to create the distribution libraries.
//**
//** Instructions:
//** 1) Modify the JOB statement to match your environment.

```

```

/** 2) Modify the following values to match your environment:
/**
      Value          Description
      ----- -----
      GIMSMPP        Installation SMP/E program
//  SET  PFX=HDSYK    Prefix of SMP files           ----- (4)
//  SET  VRM=Vnnnnnnn   Second level name (VER REL MOD)
//  SET  VSN=#smp01   DASD volume serial for SMPTLIB   ----- (5)
/**
/** 3) Submit the JCL and make sure that no error occurs.
/** 4) Remove CHECK operand from ACCEPT and re-submit the JCL to
// complete.
/**
***** *****
//ACCEPT  EXEC PGM=GIMSMPP
//SMPOUT DD SYSOUT=*
//SMPRPT DD SYSOUT=*
//SMPLIST DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMPWRK1 DD UNIT=SYSDA,
//              SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//              DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK2 DD UNIT=SYSDA,
//              SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//              DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK3 DD UNIT=SYSDA,
//              SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//              DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK4 DD UNIT=SYSDA,
//              SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//              DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//SMPWRK6 DD UNIT=SYSDA,
//              SPACE=(3120,(0364,0380,500)),
//              DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
//SYSUT1  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT2  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT3  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0380,0760))
//SYSUT4  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(3120,(0038,0100)),
//              DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3120,RECFM=FB)
/** The following data sets would likely be specified in a
/** catalogued procedure customized for a particular customer.
//SMPPTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPPTS
//SMPLOG  DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOG
//SMPLOGA DD DISP=MOD,DSN=&PFX..SMPLOGA
//SMPCSI  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//GLOBAL   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//TGT1    DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CST
//DLIB1   DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPCSI.CSI
//SMPTLIB DD DISP=SHR,UNIT=3390,VOL=SER=&VSN
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPSCDS DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSCDS
//SMPMTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//SMPSTS  DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPSTS
//SYSLIB   DD DISP=SHR,DSN=SYS1.MACLIB
//          DD DISP=SHR,DSN=&PFX..SMPMTS
//HDSYLNKT DD DISP=SHR,DSN=&PFX..&VRM..HDSYLNKT
//SMPCTL  DD *
SET      BDY(DLIB1).
ACCEPT   SELECT(
          CHYKaaa /*adds the access control of copy groups.*-(6)
          ,CHYKbbb /*adds the access control of commands. */-(6)
          )
CHECK
----- (7)
/*

```


サンプルスクリプト

ここでは、サンプルスクリプトについて説明します。

- B.1 HDSRFEPR（拡張アクセス制御機能のアクセス権限参照）

B.1 HDSRFEPR (拡張アクセス制御機能のアクセス権限参照)

拡張アクセス制御機能によって設定されているアクセス権限を参照する HDSRFEPR の詳細を次に示します。

入力パラメタ

アクセス権限を確認したいリソースやコマンドを次の形式で指定します。

```
[△_1PREFIX(prefix_name)]
[△_1CGNAME(CGNAME)
[△_1CGTYPE({SI|TC|TCA|UR})]
[△_1CLI({YKQRYDEV|YKMAKE|YKDELETE|YKRECVER})]
```

出力

指定したパラメタごとに次のどちらかが出力されます。

AUTHORIZED : アクセスできます。

UNAUTHORIZED : アクセスできません。

```
/* REXX */
/***********************************************/
/*
/* All Rights Reserved. Copyright (C) 2015, 2017, Hitachi, Ltd. */
/*
/***********************************************/
/*
/* HDSRFEPR - This is a sample script that uses the RLIST */
/* RACF command to collect information about RACF profiles for */
/* the BCM advanced access control facility. */
/*
/* The script response indicates whether you have been granted */
/* view permission for each element specified in a parameter. */
/*
/* The available parameters are as follows: */
/*
/* [ PREFIX(prefix_name) ]
/* [ CGNAME(CGNAME) ]
/* [ CGTYPE({SI|TC|TCA|UR}) ]
/* [ CLI({YKQRYDEV|YKMAKE|YKDELETE|YKRECVER}) ] */
/*
/***********************************************/
/***********************************************/
/* Note: When this sample program is executed in SYSTEM REXX, */
/* please uncomment the instructions lines below. */
/***********************************************/

/*
* If ADDRESS() /= 'TSO' Then
*   Do;
*     SAY 'TSO service is not available.'
*     EXIT -3;
*   End;
* Else
*   Nop;
*/
/* Parse argument specified in the EXEC command. */

Parse Upper Arg @options ;
Parse Upper Value @options with 'PREFIX(' opt_prefix ')';
Parse Upper Value @options with 'CGNAME(' opt_cgname ')';
Parse Upper Value @options with 'CGTYPE(' opt_cgtype ')';
Parse Upper Value @options with 'CLI(' opt_cli ')';

/* Execute OUTTRAP function.
/* Responses of RLIST command are stored line temporary.

push_trap = OUTTRAP();
void      = OUTTRAP('line.',, 'NOCONCAT');

/* When PREFIX requested -----
If opt_prefix /= "" Then
  Do;
```

```

Call check_auth "PFX."opt_prefix ;
If result = 0 Then
  SAY "PREFIX("opt_prefix") : AUTHORIZED" ;
Else
  SAY "PREFIX("opt_prefix") : UNAUTHORIZED" ;
End;
Else
  Nop;
/* ----- */

/* When CGNAME requested ----- */
If opt_cgname /= "" Then
  Do;
    Call check_auth "CGNAME."opt_cgname ;
    If result = 0 then
      SAY "CGNAME("opt_cgname") : AUTHORIZED" ;
    Else
      SAY "CGNAME("opt_cgname") : UNAUTHORIZED" ;
  End;
Else
  Nop;
/* ----- */

/* When CGTYPE requested ----- */
If opt_cgtype /= "" Then
  Do;
    Call check_auth "CGTYPE."opt_cgtype ;
    If result = 0 Then
      SAY "CGTYPE("opt_cgtype") : AUTHORIZED" ;
    Else
      SAY "CGTYPE("opt_cgtype") : UNAUTHORIZED" ;
  End;
Else
  Nop;
/* ----- */

/* When CLI requested ----- */
If opt_cli /= "" Then
  Do;
    Call check_auth "CLI."opt_cli ;
    If result = 0 Then
      SAY "CLI("opt_cli") : AUTHORIZED" ;
    Else
      SAY "CLI("opt_cli") : UNAUTHORIZED" ;
  End;
Else
  Nop;
/* ----- */

/* When no available parameter exist, show the syntax ----- */
If line.0 = 0 Then
  Do;
    SAY "----- Available Parameters -----"
    SAY " PREFIX(prefix_name)"
    SAY " CGNAME(cg_name)"
    SAY " CGTYPE(SI|TC|TCA|UR)"
    SAY " CLI(YKQRYDEV|YKMAKE|YKDELETE|YKRECOVER)"
    SAY "-----"
  End;
Else
  Nop;
/* ----- */

void = OUTTRAP(push_trap);

Exit 0;

/* Exec RLIST ----- */
check_auth :
  Parse Upper Arg opt_element ;

  Address TSO "RLIST FACILITY STGADMIN.YKA.BCM."opt_element ;

  If rc = 0 Then
    Do ;
      Parse Upper Var line.7 ent_lvl ent_own ent_uac ent_acc ent_wrn ;
      If ent_acc == "NONE" Then
        Return 0 ;
      Else
        Nop ;

```

```
End ;
Else
    Nop ;
Return 4 ;
/* ----- */
```

バージョンアップ時の注意事項

バージョンアップ時の注意事項について説明します。

- C.1 BC Manager 5.5 より前のバージョンから 5.5 以降にバージョンアップする場合
- C.2 BC Manager 6.6.1 より前のバージョンから 6.6.1 以降にバージョンアップする場合
- C.3 BC Manager 6.7.1 より前のバージョンから 6.7.1 以降にバージョンアップする場合
- C.4 BC Manager 7.4 より前のバージョンから 7.4 以降にバージョンアップする場合
- C.5 BC Manager 7.6.1 より前のバージョンから 7.6.1 以降にバージョンアップする場合
- C.6 BC Manager 8.1.4 より前のバージョンから 8.1.4 以降にバージョンアップする場合
- C.7 BC Manager 8.5.1 より前のバージョンから 8.5.1 以降にバージョンアップする場合
- C.8 BC Manager 8.6.4 より前のバージョンから 8.6.4 以降にバージョンアップする場合

C.1 BC Manager 5.5 より前のバージョンから 5.5 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 5.5 以降では、BC Manager 5.3 以前のライセンスを使用できません。BC Manager 5.5 以降のライセンスを入手する必要があります。

C.2 BC Manager 6.6.1 より前のバージョンから 6.6.1 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 6.6.1 以降のバージョンでは、YKIMPORT コマンドを実行すると、定義するコピーペアの P-VOL と S-VOL の容量が一致しているか自動でチェックされます。

P-VOL と S-VOL の容量が一致していない場合、YKJ215E メッセージが出力され、コピーグループ定義ファイルは作成されません。ボリュームの容量が取得できなかった場合は、YKJ214W メッセージが出力され、コピーグループ定義ファイルは作成されます。

BC Manager 6.6.1 より前のバージョンと同様に、容量チェックをしないでコピーペアを定義したい場合は、YKIMPORT コマンドの CAPACITY パラメタに「NOCHECK」を指定してください。

C.3 BC Manager 6.7.1 より前のバージョンから 6.7.1 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 6.7.1 以降にバージョンアップする場合、次の二つの点に注意してください。

C.3.1 Route Config 画面

Route Config 画面でルートリスト定義ファイルを選択して編集する際、選択したルートリスト ID 以外のルートリスト定義ファイルもロードされます。このため、不要なルートリスト定義ファイルがある場合は削除してください。

選択したルートリスト ID 以外のルートリスト定義ファイルにエラーがある場合、Exception Message Panel 画面が表示されますが、Exception Message Panel 画面を閉じれば、選択したルートリスト定義ファイルを編集できます。

C.3.2 ルートリスト構造体

複数コマンドデバイスライン定義のサポートに伴い、ルートリスト構造体が変更されました。BC Manager 6.7.1 より前のバージョンのスクリプトでルートリスト構造体の次の表に示す REXX 変数を参照している場合で、1 つのルートに複数のコマンドデバイスラインを定義するときは、スクリプトの変更が必要です。

表 C-1 BC Manager 6.7.1 以降で変更されたルートリスト構造体の REXX 変数

項目	REXX 変数	内容
1	HCC.ROUTELIST.dadid.APID	APID
2	HCC.ROUTELIST.dadid.n.n.CDEV.Devn	ストレージシステム内のコマンドデバイスのデバイス番号
3	HCC.ROUTELIST.dadid.n.n.CDEV.Volser	ストレージシステム内のコマンドデバイスのボリュームシリアル番号

項目番号	REXX 変数	内容
4	HCC.ROUTELIST.dadid.n.n.CDEV.CUNum	ストレージシステム内のコマンドデバイスの CU 番号
5	HCC.ROUTELIST.dadid.n.n.CDEV.SSID	ストレージシステム内のコマンドデバイスの SSID
6	HCC.ROUTELIST.dadid.n.n.CDEV.CCA	ストレージシステム内のコマンドデバイスの CCA

C.4 BC Manager 7.4 より前のバージョンから 7.4 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 7.4 以降にバージョンアップすると、UR コピーグループに対する YKIMPORT および YKEXPORT コマンド実行時に、CTG 情報 CSV ファイルが必要となります。コマンド実行前に CSV ファイルのデータセットの割り当てとカタログを行い、YKIMPORT コマンドの場合は DD 名 INCTG に、YKEXPORT コマンドの場合は DD 名 OUTCTG に CSV ファイルを指定してください。CTG 情報 CSV ファイルを指定しないでコマンドを実行した場合、YKJ150E メッセージを出力し、エラー終了します。

C.5 BC Manager 7.6.1 より前のバージョンから 7.6.1 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 7.6.1 以降のバージョンにバージョンアップすると、TC, および TCA のコピーグループ定義時の差分管理単位のデフォルト値がシリンドラからトラックに変更になります。具体的には、次の画面の [DIF UNIT] の初期値が「CYL」から「TRK」に変更になります。

- Copy Group Attributes For Container (TC)画面
- Copy Group Attributes (TC)画面
- Copy Group Attributes For Container (TCA)画面
- Copy Group Attributes (TCA)画面

詳細は、マニュアル「Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド」を参照してください。

C.6 BC Manager 8.1.4 より前のバージョンから 8.1.4 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 8.1.4 以降にバージョンアップすると、リモートスキャンおよび NG スキャンでは、ジャーナルボリュームの情報は取得されなくなります。次のことに注意してください。

- BC Manager 8.1.4 以降にバージョンアップしただけでは、BC Manager 8.1.4 より前にリモートスキャンや NG スキャンで作成したディスク構成定義ファイルにあるジャーナルボリュームの情報は削除されません。ジャーナルボリュームの情報を削除したい場合、ディスク構成定義ファイルを削除したのち、ストレージシステムをスキャンして、ディスク構成定義ファイルを再作成してください。
- Edit Device Number for CU 画面でダミーデバイス番号を割り当てる場合、CCA の値の昇順にダミーデバイス番号が割り当てられます。BC Manager 8.1.4 以降のスキャンでは、ジャーナルボリュームの CCA はスキップされているため、CCA とダミーデバイス番号が一対一に対応しません。

なくなります。例えば、ジャーナルボリュームの CCA が「02」で、ダミーデバイス番号の先頭値を「0000」とした場合、「CCA : ダミーデバイス番号」の関係は次のようにになります。

- 00 : 0000
- 01 : 0001
- 03 : 0002
- 04 : 0003

必要であれば、CCA Selection List for Edit devn 画面で「CCA : ダミーデバイス番号」の関係を修正してください。

- Replication Manager と連携する場合も、リモートスキャンおよび NG スキャンでは、ジャーナルボリュームの情報は取得されなくなります。

C.7 BC Manager 8.5.1 より前のバージョンから 8.5.1 以降にバージョンアップする場合

BC Manager 8.5.1 以降のバージョンでは、ユーザ SVC を IEASVCxx parmlib メンバで静的登録する場合、SYMDEF 文 (&YKSVNO システム・シンボル) の IEASYMxx parmlib メンバへの定義が不要です。

IEASYMxx parmlib メンバの SYMDEF 文を次のとおり無効化（コメントアウト）してください。

```
/* SYMDEF(&YKSVNO='SVC 番号') */
```

C.8 BC Manager 8.6.4 より前のバージョンから 8.6.4 以降にバージョンアップする場合

パス操作コマンド実行時、ストレージシステムがホストに直接接続されている場合でも、ルートリストがロードされていて、操作対象のストレージシステムにコマンドデバイスが定義されていれば、次の指定 (Gen'ed ボリュームに対するコマンド発行方式) に関わらず、I/O 発行先ボリュームをコマンドデバイスにするように変更しました。

- YKLOAD コマンドに VIACDEV パラメタの指定があるかどうか
- Set Defaults 画面の [All Commands via CDEV Function] の値が「Y」かどうか

バージョン混在時の注意事項

バージョンアップ作業の過程で、同一システム内に複数のバージョンが混在する場合の注意事項について説明します。

- D.1 Configuration ファイル
- D.2 ライセンス情報データセット
- D.3 ライセンス名の表示変更
- D.4 ライセンス情報データセットのプレフィックス
- D.5 ライセンスのインストール
- D.6 BCM ログ出力先の指定 (LOGPUT)
- D.7 CLI コマンド実行ログ採取指定 (SYSLOG)
- D.8 バージョン混在時のリソース・アクセス管理機能 (RACF) の設定
- D.9 ユーザ SVC の動的登録
- D.10 IOS002A メッセージ抑止のためのユーザ SVC
- D.11 利用できるユーザ SVC のバージョン
- D.12 ユーザ SVC の静的登録

D.1 Configuration ファイル

古いバージョンで作成した Configuration ファイルは、そのまま新しいバージョンで使用できます。しかし、古いバージョンで作成した Configuration ファイルを、一度新しいバージョンで編集すると、古いバージョンでは読み込めなくなります。

このため、新旧のバージョンが混在する環境では、Configuration ファイルを分けて運用することを推奨します。

D.2 ライセンス情報データセット

ライセンス情報データセットは、古いバージョンの BC Manager と新しいバージョンの BC Manager とで共用できます。ただし、該当するバージョンで有効なライセンス以外は無効ライセンスとして扱われます。

D.3 ライセンス名の表示変更

BC Manager 5.0 で、Manage Licenses 画面でのライセンス Business Continuity Manager Extended CT Group の表示が変更になりました。

BC Manager 4.0～4.2 と BC Manager 5.0～5.3 のバージョンでは、画面に表示されるライセンス名は異なりますが同一のキーコードです。Copycentral 2.0, BC Manager 3.0, および BC Manager 4.0～4.2 では、表示は同一ですがキーコードはそれぞれ異なります。

- Copycentral 2.0, BC Manager 3.0, および BC Manager 4.0～4.2 の場合
ライセンス Business Continuity Manager Extended CT Group は、「Extended CT Group」と表示されます。
- BC Manager 5.0～5.3 の場合
ライセンス Business Continuity Manager Extended CT Group は、「TC Sync Extended CTG」と表示されます。
- BC Manager 5.5 以降の場合
ライセンス Business Continuity Manager Extended CT Group は、ライセンス Business Continuity Manager Basic に統合されました。「Basic」と表示されていれば、TC のコンシスタンシー維持機能を使用できます。

D.4 ライセンス情報データセットのプレフィックス

BC Manager 4.1 より古いバージョンは、BC Manager 環境変数 YKLCNS2 に対応していません。このため、BC Manager 4.1 より古いバージョンと BC Manager 4.1 以降のバージョンを混在させる場合、BC Manager 環境変数 YKLCNS2 を指定しないでください。一方の BC Manager がライセンス情報データセットを読み込めなくなります。

D.5 ライセンスのインストール

BC Manager 5.0～5.3 では、BC Manager 4.0～4.2 で入手したライセンスは次の扱いとなります。

- 永久ライセンスは再インストールしないでそのまま使用できます。
- 一時ライセンスと緊急ライセンスはそのままでは使用できません。再インストールしてください。

D.6 BCM ログ出力先の指定 (LOGPUT)

BC Manager 4.2 より古いバージョンは、&YKLOGPT システム・シンボルに対応していません。このため、BC Manager 4.2 より古いバージョンと BC Manager 4.2 以降のバージョンが混在する環境で BCM ログの出力方法を指定する場合は、LOGPUT パラメタを指定した YKSETENV コマンドで設定することを推奨します。

D.7 CLI コマンド実行ログ採取指定 (SYSLOG)

CLI コマンド実行ログの出力方法は、YKSETENV コマンドによる設定値、システム・シンボル &YKSYSLG による設定値、および動作させる BC Manager のバージョンの組み合わせによって決まります。

YKSETENV コマンドによる設定値、&YKSYSLG による設定値、および BC Manager のバージョンの組み合わせによる CLI コマンド実行ログの出力の有無、および出力先を次に示します。



重要

- &YKSYSLG による設定は、5.1 以降のバージョンの BC Manager で有効になります。
- YKSETENV コマンドの SYSLOG=CONSOLE、および&YKSYSLG による CONSOLE の設定は、7.6 以降のバージョンの BC Manager で有効になります。

表 D-1 7.6 以降のバージョンの BC Manager の YKSETENV コマンドで設定した場合

YKSETENV による設定値	&YKSYSLG による設定値	動作する BC Manager のバージョン		
		5.1 より前	5.1~7.5	7.6 以降
SYSLOG=YES	YES	SYSLOG に出力		
	CONSOLE			
	NO			
	指定なし/指定誤り			
SYSLOG=CONSOLE	YES	SYSLOG に出力	コンソールに出力	
	CONSOLE			
	NO			
	指定なし/指定誤り			
SYSLOG=NO	YES	出力しない		
	CONSOLE			
	NO			
	指定なし/指定誤り			
'SYSLOG=' 指定なし	YES	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力
	CONSOLE		コンソールに出力	
	NO			
	指定なし/指定誤り		出力しない	出力しない
			SYSLOG に出力	SYSLOG に出力

表 D-2 5.1 から 7.5 までのバージョンの BC Manager の YKSETENV コマンドで設定した場合

YKSETENV による設定値	&YKSYSLG による設定値	動作する BC Manager のバージョン		
		5.1 より前	5.1~7.5	7.6 以降
SYSLOG=YES	YES	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力*	SYSLOG に出力*
	CONSOLE			
	NO			

YKSETENV による設定値	&YKSYSLG による設定値	動作する BC Manager のバージョン		
		5.1 より前	5.1~7.5	7.6 以降
	指定なし/指定誤り			
SYSLOG=NO	YES	出力しない		
	CONSOLE			
	NO			
	指定なし/指定誤り			
'SYSLOG=' 指定なし	YES	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力
	CONSOLE		コンソールに出力	
	NO		出力しない	出力しない
	指定なし/指定誤り		SYSLOG に出力	SYSLOG に出力

注※

BC Manager 5.1 から 7.5 までの YKSETENV コマンドでの設定の前に、BC Manager 7.6 以降の YKSETENV コマンドで SYSLOG=CONSOLE を設定している場合、コンソールに出力します。

表 D-3 5.1 より古いバージョンの BC Manager の YKSETENV コマンドで設定した場合

YKSETENV による設定値	&YKSYSLG による設定値	動作する BC Manager のバージョン		
		5.1 より前	5.1~7.5	7.6 以降
SYSLOG=YES 指定なし	YES	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力	SYSLOG に出力※1
	CONSOLE			コンソールに出力※2
	NO		出力しない※3	出力しない※1※2
	指定なし/指定誤り		SYSLOG に出力	SYSLOG に出力※1
SYSLOG=NO	YES	出力しない		
	CONSOLE			
	NO			
	指定なし/指定誤り			

注※1

5.1 より古い BC Manager の YKSETENV コマンドでの設定の前に、BC Manager 7.6 以降の YKSETENV コマンドで SYSLOG=CONSOLE を設定している場合、コンソールに出力します。

注※2

5.1 より古い BC Manager の YKSETENV コマンドでの設定の前に、BC Manager 5.1 以降の YKSETENV コマンドで SYSLOG=YES を設定している場合、SYSLOG に出力します。

注※3

5.1 より古い BC Manager の YKSETENV コマンドの設定の前に、BC Manager 5.1 以降の YKSETENV コマンドで SYSLOG=YES または SYSLOG=CONSOLE を設定している場合、SYSLOG に出力します。

D.8 バージョン混在時のリソース・アクセス管理機能 (RACF) の設定

BC Manager 6.0 以降のバージョンでは、リソース・アクセス管理機能 (RACF) の設定が必要です。必ず RACF を設定してから、製品を使用してください。BC Manager 6.0 以降のバージョンでは、RACF によって CLI コマンドの実行権限がチェックされます。

また、BC Manager 6.0 より古いバージョンと、BC Manager 6.0 以降のバージョンが混在する場合、ユーザ SVC を登録すると、RACF によって CLI コマンドの実行権限がチェックされます。このため、システムに BC Manager 6.0 より古いバージョンと、BC Manager 6.0 以降のバージョンが混在する場合も、必ず RACF を設定してから、製品を使用してください。

RACF を設定した場合、CLI コマンドの実行権限をユーザに追加する必要があります。詳細は、「[2.4.7 セキュリティの設定](#)」の「(2) 基本のアクセス制御機能の設定」を参照してください。

D.9 ユーザ SVC の動的登録

BC Manager 5.1 以降のバージョンの YKALCSVC コマンドでユーザ SVC を登録した場合、BC Manager 5.1 より古いバージョンの YKALCSVC コマンドではユーザ SVC を削除できません。このため、バージョンが混在する場合は、必ず BC Manager 5.1 以降のバージョンの YKALCSVC コマンドを使用してください。

BC Manager 8.5.1 以降のバージョンの YKALCSVC コマンドで、すでに割り当てられている SVC 番号でユーザ SVC を上書きする場合、ユーザ SVC の削除は不要です。別の SVC 番号を割り当てる場合、または BC Manager 8.5.1 より古いバージョンの YKALCSVC コマンドでは、ユーザ SVC を削除してから登録してください。

D.10 IOS002A メッセージ抑止のためのユーザ SVC

BC Manager 6.1 より古いバージョンのユーザ SVC は、ホストとストレージシステム間の入出力バスが切断されている状態でデバイスのスキャンを実行すると出力される IOS002A メッセージを抑止できません。このため、バージョンが混在する場合は、必ず BC Manager 6.1 以降のバージョンのユーザ SVC を使用してください。

D.11 利用できるユーザ SVC のバージョン

複数のバージョンの BC Manager をインストールする場合、BC Manager の各バージョンの前提となるユーザ SVC のバージョンを考慮して、インストールするすべてのバージョンの BC Manager が利用できるユーザ SVC をインストールしてください。BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョンは、「[2.8 BC Manager の前提となるユーザ SVC のバージョン](#)」を参照してください。

D.12 ユーザ SVC の静的登録

ユーザ SVC を静的に登録する場合、BC Manager 8.5.1 より古いバージョンでは SYMDEF 文 (&YKSVCNO システム・シンボル) の定義が必要です。このため、BC Manager 8.5.1 より古いバージョンが混在する場合は、必ず次の SYMDEF 文を IEASYMxx parmlib メンバに定義してください。

```
SYMDEF (&YKSVCNO='SVC 番号')
```


文法説明で使用する記号

ここでは、文法説明で使用する記号、および構文要素について説明します。

□ E.1 文法説明で使用する記号

E.1 文法説明で使用する記号

文法説明で使用する記号を次の表に示します。

表 E-1 文法説明で使用する記号

フォントの例または記号	意味
(ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 例 「A B C」は、「A, B, または C」を示します。
[]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できます（省略してもよい）。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか 1 つを選択します。 例 [A]は「何も指定しない」か「Aを指定する」ことを示します。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、1つの項目を必ず選択します。 項目と項目の区切りは「 」で示します。 例 '{A B C}'は、「A, B, または C のどれかを必ず指定する」ことを示します。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数指定できます。 例 「A, ...」は、「Aの後に複数指定できる」ことを示します。
斜体	斜体で表記している項目は、任意に指定する項目を示します。
— (下線)	選択記号で囲まれている項目を省略したときにシステムがとる仮定値であることを示します。
△	1つの空白があることを示します。
△ _n	n 個以上の空白が必要であることを示します。
~	この記号の直前に示されている項目を、この記号に続く< >, << >>, (())などの文法规則に従って記述しなければならないことを示します。
< >	各項目を記述するときに従わなくてはならない構文要素を示します。
<< >>	項目を省略したときにシステムがとる仮定値を示します。
(())	指定できる値の範囲を示します。

文法説明で使用する構文要素を次の表に示します。

表 E-2 構文要素

構文要素	指定できる文字の内容	例
数字	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	—
英大文字	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z	—
英字	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z	—
英数字	英字, 数字, または英字と数字の集合	—
16 進数	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F	—
記号名称	英大文字で始まる 8 文字以内の英大文字と数字の集まり	A1234567
PREFIX 文字列 DAD 文字列 ROUTE 文字列 ROUTELABEL 文字列	ピリオドで結合される 1 つまたは複数の部分で構成される文字列。 各部分の文字列は、英大文字、または数字からなります。ただし、各部分の先頭文字は、英大文字です。各部分の長さは、1 文字から 8 文字です。	ABC.DEF

構文要素	指定できる文字の内容	例
メンバ名文字列	英大文字、数字、または特殊文字 (\$, #, @) で構成される文字列	—
zFS パス文字列	英数字、., _, -、または/の文字から成る 1 文字から 1023 文字の文字列	—

このマニュアルの参考情報

この章では、このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明します。

- F.1 関連マニュアル
- F.2 このマニュアルでの表記
- F.3 このマニュアルで使用している略語
- F.4 図中で使用する記号
- F.5 KB（キロバイト）などの単位表記について

F.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

BC Manager 関連

- *Hitachi Business Continuity Manager ユーザーズガイド*
- *Hitachi Business Continuity Manager メッセージ*
- *Hitachi Business Continuity Manager リファレンスガイド*

Hitachi Command Suite 製品関連

- *Hitachi Command Suite Replication Manager ユーザーズガイド*
- *Hitachi Command Suite Replication Manager システム構成ガイド*

Hitachi ストレージシステム関連

- *Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド*
- *RAID Manager ユーザガイド*
- *ShadowImage for Mainframe ユーザガイド*
- *TrueCopy for Mainframe ユーザガイド*
- *Universal Replicator for Mainframe ユーザガイド*
- *Universal Volume Manager ユーザガイド*

F.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名称、または意味	
BC Manager	次の製品の総称です。 <ul style="list-style-type: none">• Hitachi Business Continuity Manager Basic• Hitachi Business Continuity Manager UR 4x4 Extended CTG	
Device Manager	Hitachi Device Manager	
Dynamic Provisioning for Mainframe	Hitachi Dynamic Provisioning for Mainframe	
IBM HTTP Server	IBM HTTP Server for z/OS	
Mainframe Agent	Hitachi Device Manager Mainframe Agent	
Replication Manager	Hitachi Replication Manager	
SI	ShadowImage for Mainframe	
TC	TrueCopy for Mainframe	同期コピー (TrueCopy Synchronous)
TCA		非同期コピー (TrueCopy Asynchronous)
TPC-R	IBM Tivoli Storage Productivity Center for Replication for System z	
UR	Universal Replicator for Mainframe	
USP V	次の製品の総称です。 <ul style="list-style-type: none">• Hitachi Universal Storage Platform V• Hitachi Universal Storage Platform VM	
VSP	Hitachi Virtual Storage Platform	
VSP 5000 シリーズ	次の製品の総称です。 <ul style="list-style-type: none">• Hitachi Virtual Storage Platform 5100	

表記	製品名称、または意味
	<ul style="list-style-type: none"> Hitachi Virtual Storage Platform 5500 Hitachi Virtual Storage Platform 5100H Hitachi Virtual Storage Platform 5500H
VSP 5100	Hitachi Virtual Storage Platform 5100
VSP 5100H	Hitachi Virtual Storage Platform 5100H
VSP 5500	Hitachi Virtual Storage Platform 5500
VSP 5500H	Hitachi Virtual Storage Platform 5500H
VSP F1500	Hitachi Virtual Storage Platform F1500
VSP G1000	Hitachi Virtual Storage Platform G1000
VSP G1500	Hitachi Virtual Storage Platform G1500
z/Linux	Linux® on IBM System z

F.3 このマニュアルで使用している略語

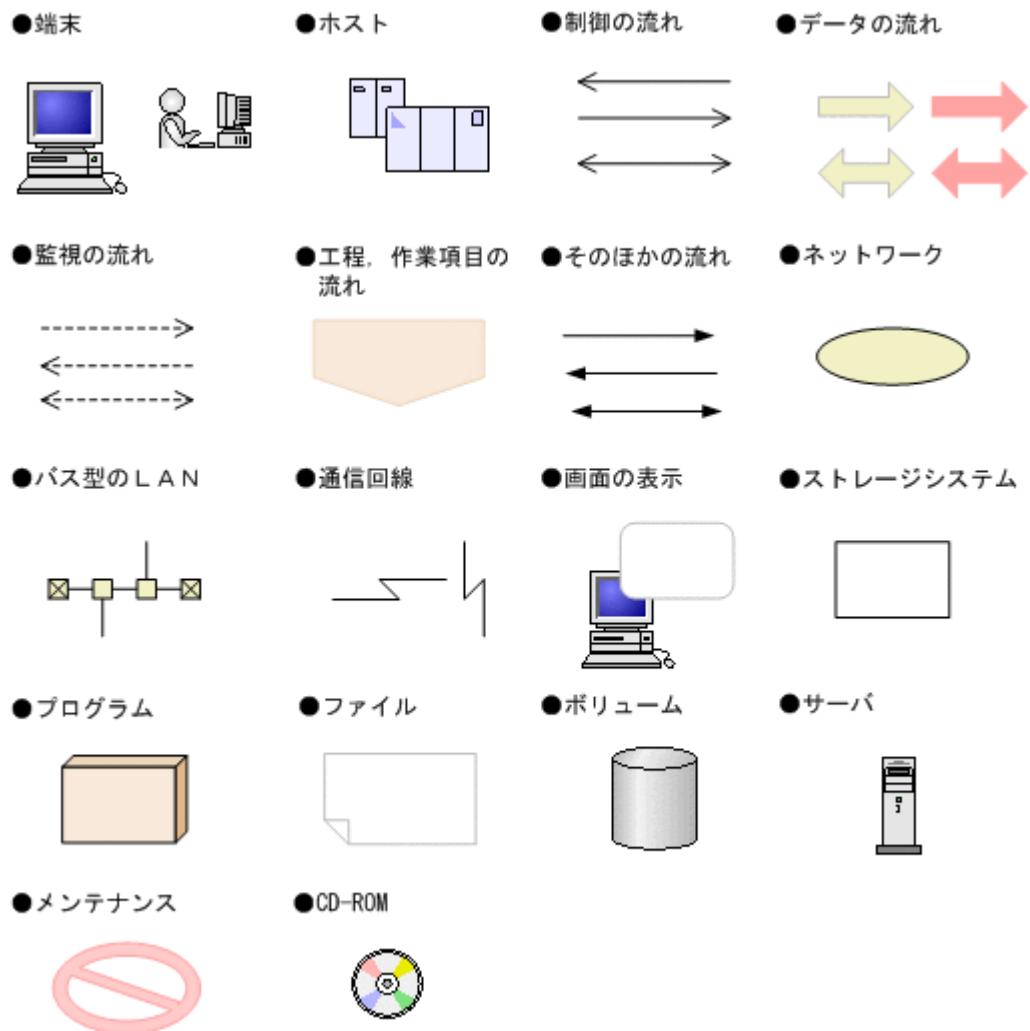
このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	正式名称
AP	Application Program
API	Application Programming Interface
CCA	Command Control Address
CHA	CHannel Adapter
CLI	Command Line Interface
CSA	Common Service Area
CSB	Channel Status Byte
CU	Control Unit
DAD	Device Address Domain
DASD	Direct Access Storage Device
DBCS	Double Byte Character Set
DKC	DisK Controller
DLIB	Distribution LIBrary
DSB	Device Status Byte
DSORG	Data Set ORGanization
EXCTG	EXTended Consistency Group
GTF	Generalized Trace Facility
HTTP	HyperText Transfer Protocol
HTTPS	HyperText Transfer Protocol Security
IPv4	Internet Protocol Version 4
IPv6	Internet Protocol Version 6
ISPF	Interactive System Productivity Facility
LDEV	Logical DEVice
LPAR	Logical PARtition
LRECL	Logical REcord Length (論理レコード長)
M-JNL	Master JourNaL

略語	正式名称
MCU	Main Control Unit
MIH	Missing Interrupt Handler
P-VOL	Primary VOLUME
PPRC	Peer to Peer Remote Copy
PSW	Program Status Word
R-JNL	Restore JourNaL
RACF	Resource Access Control Facility
RAID	Redundant Array of Independent Disks
RCU	Remote Control Unit
RECFM	REcord ForMat
REXX	REstructured eXtended eXecutor
RPO	Recovery Point Objective
S-VOL	Secondary VOLUME
SAF	System Authorization Facility
SCP	State Change Pending
SDSF	System Display and Search Facility
SMP/E	System Modification Program Extended
SSID	Storage System ID
SVC	SuperVisor Call
SVP	SerVice Processor
TSE	Track Space-Efficient
TSO/E	Time Sharing Option/Extensions
VM	Virtual Machine
XML	eXtensible Markup Language
XRC	eXtended Remote Copy

F.4 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



F.5 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）は、それぞれ
1KiB（キビバイト）、1MiB（メビバイト）、1GiB（ギビバイト）、1TiB（テビバイト）と読み替えてください。

1KiB、1MiB、1GiB、1TiBは、それぞれ1,024バイト、1,024KiB、1,024MiB、1,024GiBです。

索引

A

ALLOUPLD [サンプル JCL] 104
ALTLIB コマンドおよび LIBDEF サービスの使用例 33
AUDITLOG 89
AuthName ディレクティブ [HTTPS 通信] 83
AuthType ディレクティブ [HTTPS 通信] 83
AuthUserFile ディレクティブ [HTTPS 通信] 83

B

Basic 認証 81
BC Manager 環境変数の設定 41
BC Manager で ISPF 画面を利用するための設定 32
BC Manager のバージョンアップ 53
BCM Monitor パラメタファイルの作成 99

C

CacheDisable ディレクティブ 80
CacheDisable ディレクティブ [HTTPS 通信] 82
CLI コマンド実行ログの出力有無の指定方法 43
CLI コマンドを TSO/E 環境で利用するための設定 31
Configuration ファイルの作成 (BCM Monitor) 99
Configuration ファイルのバックアップ [バージョンアップ] 52
Configuration ファイル用データセットの作成
[Replication Manager 連携] 76

D

DASD ストレージ属性の計画 24
DEVN [形式] 89
DEVN パラメタ指定時の注意 89
DLIB 24

E

EXEC 文 [BCM Monitor] 100
EXEC 文 [YKAGENT] 95

F

FMID 23

H

HDSRFEPR [サンプルスクリプト] 128
HDSYK1AL [サンプル JCL] 111
HDSYK2DF [サンプル JCL] 113
HDSYK3RC [サンプル JCL] 116
HDSYK4AP [サンプル JCL] 118
HDSYK5AC [サンプル JCL] 119
HDSYKARC [サンプル JCL] 121
HDSYKBAP [サンプル JCL] 122
HDSYKCAC [サンプル JCL] 124
HDSYKSIN [サンプル JCL] 108
HOSTNAME 87
htpasswd コマンド 83
HTTPS 通信するために必要な設定の流れ 82
HTTPS 通信するための設定 [IBM HTTP Server] 80

I

IBM HTTP Server の設定 79
IBM System z で Linux ボリュームを使用するための
前提条件 20
IPv6 接続するための設定 [IBM HTTP Server] 79
IPv6 接続するときに httpd.conf ファイルに設定する内
容 80
ISPF 画面の設定 34

J

JES 起動プロシージャ 95, 99

K

KeepAlive ディレクティブ 80

KeepAlive ディレクティブ [HTTPS 通信] 82

L

Listen ディレクティブ 80

Listen ディレクティブ [HTTPS 通信] 82

LoadModule ディレクティブ 80

LoadModule ディレクティブ [HTTPS 通信] 82

LOCK 90

LOGLEVEL 89

M

MODE 90

P

PORT 86

PREFIX 87

PREFIX パラメタ指定時の注意 88

PROC 文 [YKAGENT] 95

PROFILE.TCPIP プロファイル 77

ProxyPassReverse ディレクティブ 80

ProxyPassReverse ディレクティブ [HTTPS 通信] 83

ProxyPass ディレクティブ 80

ProxyPass ディレクティブ [HTTPS 通信] 83

R

RECVUPLD [サンプル JCL] 106

RECVWAITTIME 86

Replication Manager と BC Manager エージェントが
IPv6 接続する場合の構成例 79

Replication Manager と IBM HTTP Server が HTTPS
通信する場合の構成例 81

Replication Manager と IBM HTTP Server 間の認証方
式 81

Replication Manager と連携する場合の環境設定 69

Require ディレクティブ [HTTPS 通信] 83

S

SETINIT コマンド [形式] 84

SETINIT コマンドの使用方法 84

SMP/E を使用したインストール 28

SMP/E を使用しないインストール 30

SMPALLOC [サンプル JCL] 109

STEPLIB DD 文 [BCM Monitor] 100

STEPLIB DD 文 [YKAGENT] 96

SVCPARM での登録 39

SYSABEND DD 文 [BCM Monitor] 100

SYSABEND DD 文 [YKAGENT] 96

SYSEXEC DD 文 [BCM Monitor] 100

SYSEXEC DD 文 [YKAGENT] 96

SYSTSIN DD 文 [BCM Monitor] 100

SYSTSIN DD 文 [YKAGENT] 96

SYSTSPRT DD 文 [BCM Monitor] 100

SYSTSPRT DD 文 [YKAGENT] 96

T

TCP/IP のポート番号の設定 77

Timeout ディレクティブ 80

Timeout ディレクティブ [HTTPS 通信] 83

Y

YKAGENT [展開形] 95

YKALCSVC コマンドでの登録 40

YKALCSVC コマンドの形式 40

YKDSPENV コマンドの形式 46

YKLIST DD 文 [YKAGENT] 95

YKLOG01 DD 文 [BCM Monitor] 100

YKLOG01 DD 文 [YKAGENT] 96

YKLOG02 DD 文 [BCM Monitor] 100

YKLOG02 DD 文 [YKAGENT] 96

YKMONCG DD 文 [BCM Monitor] 100

YKMONOPT DD 文 [BCM Monitor] 100

YKPARM DD 文 [YKAGENT] 95

YKSETENV コマンドの形式 44

Z

z/OSMF ワークフローを使用したインストールの手順

53

い

移行前のプログラムのバックアップ[バージョンアップ]

52

インストール 21

インストールおよび環境設定後の検証手順 51

インストールの準備 22

インストールの手順 27

か

- 簡易インストール 30
- 環境設定コマンドを利用するための設定 35
- 環境の設定値の確認 [バージョンアップ] 52
- 環境設定の手順 30
- 環境設定の手順 (BCM Monitor) 98
- 環境設定の流れ 70

き

- キーコードを直接入力して登録する [ライセンス登録] 48
- 起動用カタログドロジヤの作成 (BC Manager エージェント) 95
- 起動用カタログドロジヤの作成 (BCM Monitor) 99
- 起動用カタログドロジヤの変更 (BC Manager エージェント) 96
- 行の継続方法 85

こ

- 構文要素 142
- コピーグループ定義ファイル [一時ファイル名] 77
- コメントの書き方 86

さ

- サーバ証明書 81
- サンプル JCL [ライセンス情報データセットの作成] 49
- サンプル JCL の修正例 103
- サンプルスクリプト 127

し

- システム・ロガー・サービスの使用有無の指定方法 42
- 受信待ち時間 86
- 初期設定パラメタ作成時の注意事項 86
- 初期設定パラメタの解析結果例 94
- 初期設定パラメタの作成 84
- 初期設定パラメタの指定例 90
- 初期設定パラメタの詳細 86

す

- ストレージ設計 25

せ

- セキュリティ設定 (BC Manager エージェント) 78
- セキュリティの設定 35

- セキュリティの設定 (BCM Monitor) 98
- 前提 OS 18
- 前提機器 20
- 前提条件 18
- 前提プログラム 19

た

- ターゲットライブラリ 24

て

- 提供されるデータセット 22
- 提供しているライセンス 18
- 提供媒体の種類 22
- ディスク構成定義ファイル [一時ファイル] 77
- ディスク所要量 [BCM ログ] 25
- データセットセキュリティの設定 78

と

- トレースログの採取 84

に

- 認証を設定するための httpd.conf ファイルの内容 83

は

- バージョンアップ後の確認 53
- バージョンアップ時の注意事項 131
- バージョンアップの手順 51
- バージョンアップ前に確認する環境の設定値 52
- バージョン混在時の注意事項 135
- 配布ライブラリ 24
- パラメタの複数指定 90

ひ

- 標準の起動用カタログドロジヤ (BC Manager エージェント) 95
- 標準の起動用カタログドロジヤの展開形 (BC Manager エージェント) 95

ふ

- 文法説明で使用する記号 141

ほ

ポート番号 86
ホスト ID の指定方法 42
ホスト識別名 87

め

メモリ所要量 26

ゆ

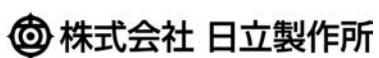
ユーザ SVC の登録 39

ら

ライセンスキーデータセット 47
ライセンスキーファイルを使用して登録する [ライセンス登録] 47
ライセンスキーを操作するときの注意事項 48
ライセンス情報データセットの形式 49
ライセンス情報データセットの名称 49
ライセンスの登録 46

り

リソース・アクセス管理機能 (RACF) の環境設定 78
リバースプロキシサーバを設定するための httpd.conf ファイルの内容 82



〒 100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 6 号